

平成 20 年度 大阪湾広域廃棄物処理場整備事業

海生生物育成調査

報 告 書

平成 2 1 年 3 月

(財) ひょうご環境創造協会

目 次

第1章 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査実施日	1
3. 調査場所	1
4. 調査内容	3
5. 調査方法	4

第2章 春季調査結果

1. 調査実施日	8
2. 水質調査	
(1) 一般観測	8
(2) 機器測定	9
3. 生物調査	
(1) 目視観察	11
(2) 採取採取および分析	18

第3章 夏季調査結果

1. 調査実施日	20
2. 水質調査	
(1) 一般観測	20
(2) 機器測定	21
3. 生物調査	
(1) 目視観察	25
(2) 採取採取および分析	39

第4章 秋季調査結果

1. 調査実施日	41
2. 水質調査	
(1) 一般観測	41
(2) 機器測定	43
3. 生物調査	
(1) 目視観察	49
(2) 採取採取および分析	70

資料編

- ・採取分析結果
- ・写真集

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、神戸沖、尼崎沖、大阪沖、泉大津沖の各処分場において、潜水による生物の目視観察および採り採取を実施し、海生生物の生息状況、神戸沖処分場および大阪沖処分場に導入した緩傾斜式石積み護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を検討することを目的とする。

2. 調査実施日

- ・ 春季調査 平成20年 5月19日
- ・ 夏季調査 平成20年 8月 3日～平成20年 8月 4日
- ・ 秋季調査 平成20年11月 2日～平成20年11月16日

3. 調査場所

(1) 神戸沖処分場

調査地点は、緩傾斜護岸である1地点（A-2）、傾斜護岸である1地点（A-4）、直立護岸である2地点（A-5、7）の計4点に設定した。（図1-3-1）

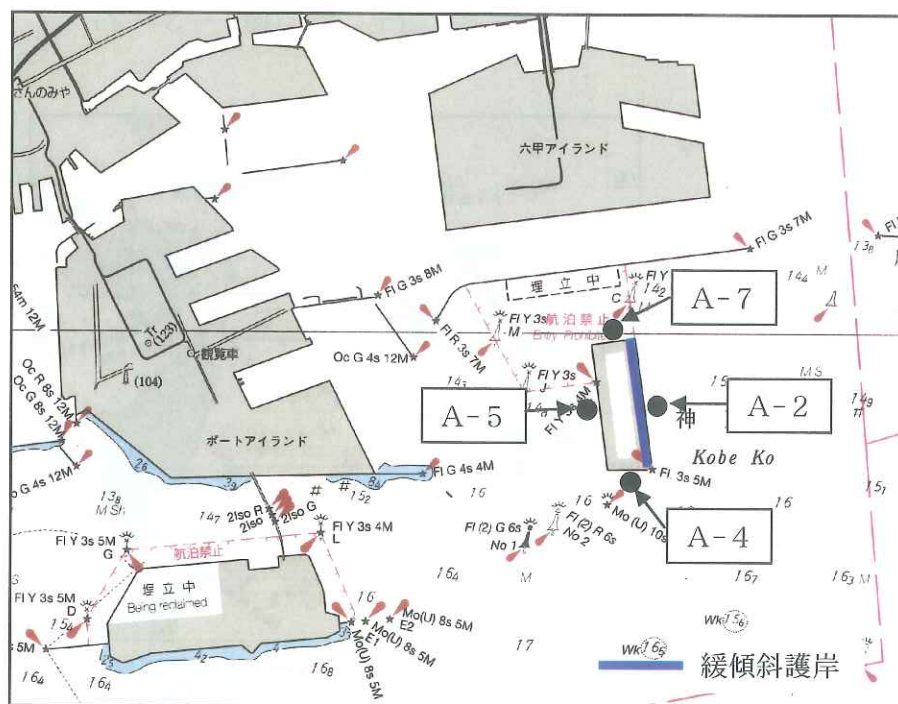


図1-3-1 神戸沖処分場調査地点

(2) 尼崎沖処分場

調査地点は、直立護岸である2地点（B-1、2）に設定した。（図1-3-2）

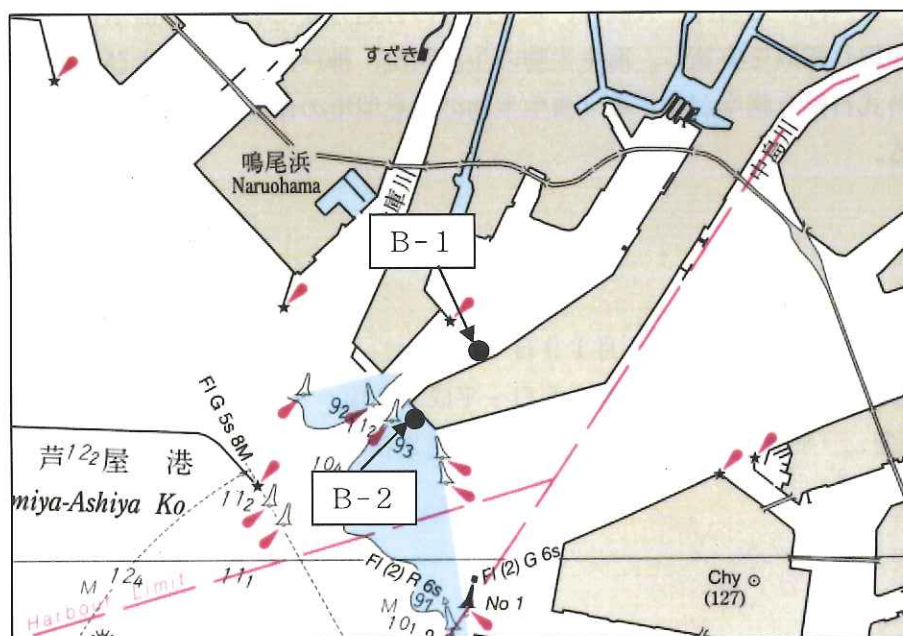


図 1-3-2 尼崎沖処分場調査地点

(3) 大阪沖処分場

調査地点は、直立護岸である2地点（C-1、5）、傾斜護岸である1地点（C-2）、緩傾斜護岸である2地点（C-3、4）の計5点に設定した。（図1-3-3）

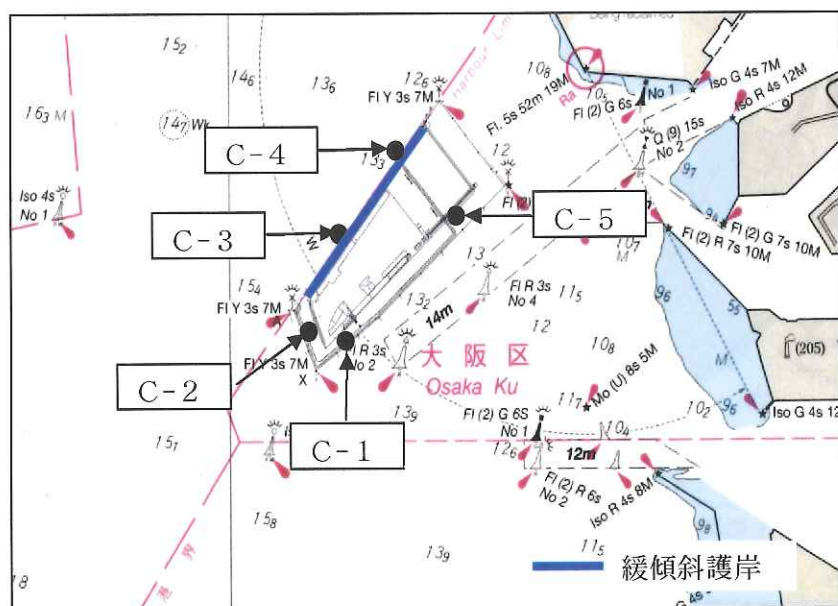


図 1-3-3 大阪沖処分場調査地点

(4) 泉大津沖処分場

調査地点は、傾斜護岸である1地点（D-2）、直立護岸である1地点（D-3）、エコ岸壁2地点（D-5、6）の計4点に設定した。（図1-3-4）

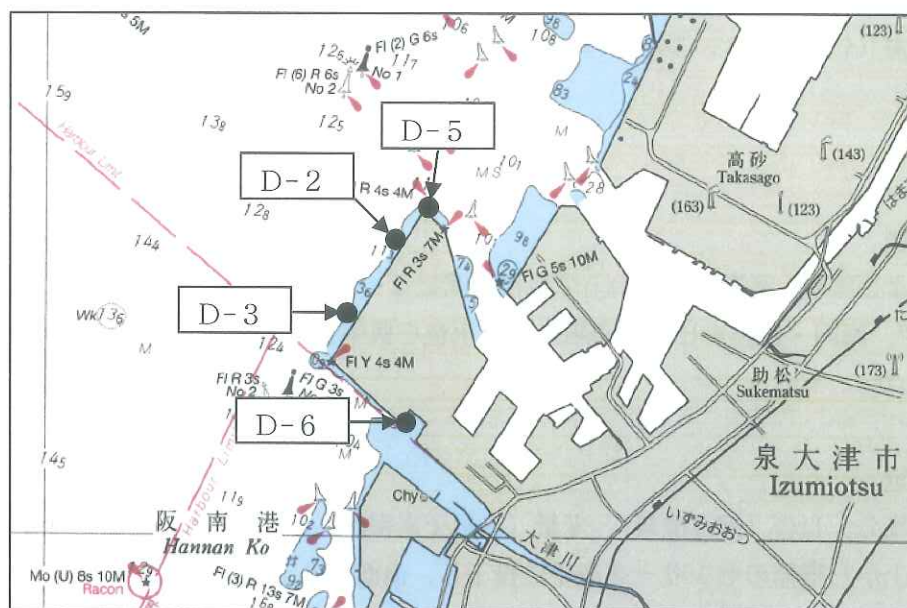


図1-3-4 泉大津沖処分場調査地点

4. 調査内容

調査内容は、各調査地点における水質環境を把握するための水質調査（一般観測・機器測定）、生物の分布状況を把握するための生物調査（目視観察・枠取り採取および分析）である。

調査内容および項目を表1-4-1に示した。

表1-4-1 調査内容および項目

調査内容		調査項目	調査方法	地点数（地点名）
水質	一般観測	天候・雲量・気温 風向・風速・風浪階級 水色・透明度	目視観測・機器観測	12 地点 (A-2、4、5、7) (B-1、2) (C-1、2、3) (D-2、5、6)
	機器測定	水温・塩分・DO・光量	機器観測 (海面下0.5m、以深1m間隔)	
生物	目視観察	植物（種類・被度） 動物（種類・個体数・被度） 魚類（種類・個体数）	目視観察・写真撮影 ビデオ撮影	15 地点 (A-2、4、5、7) (B-1、2) (C-1、2、3、4、5) (D-2、3、5、6)
	枠取り採取 および分析	植物（種類・湿重量） 動物（種類・個体数・湿重量）	枠取り採取・写真撮影 室内分析	

5. 調査方法

(1) 水質調査

神戸沖処分場4地点（A-2、4、5、7）、尼崎沖処分場2地点（B-1、2）、大阪沖処分場3地点（C-1、2、3）、泉大津沖処分場3地点（D-2、5、6）の計12地点において行った。

① 一般観測

天候および雲量、風浪階級を船上で目視観測によって記録した。このほかに、気温をアスマン乾湿計で、風向・風速をピラム通風計で、水色を標準色カードで、透明度を透明度板で船上から測定した。

② 機器測定

水温、塩分、DO（溶存酸素）、光量（光量子束密度）の4項目について、水質測定器を使用し、船上から機器のセンサーを海中に投下し、海面下0.5m層、海面下1.0m以深については1m間隔の各層の測定を行った。（図1-5-1）

光量では、海面上の光量子束密度を100%として海面下各層の相対光量（%）の値を算出した。

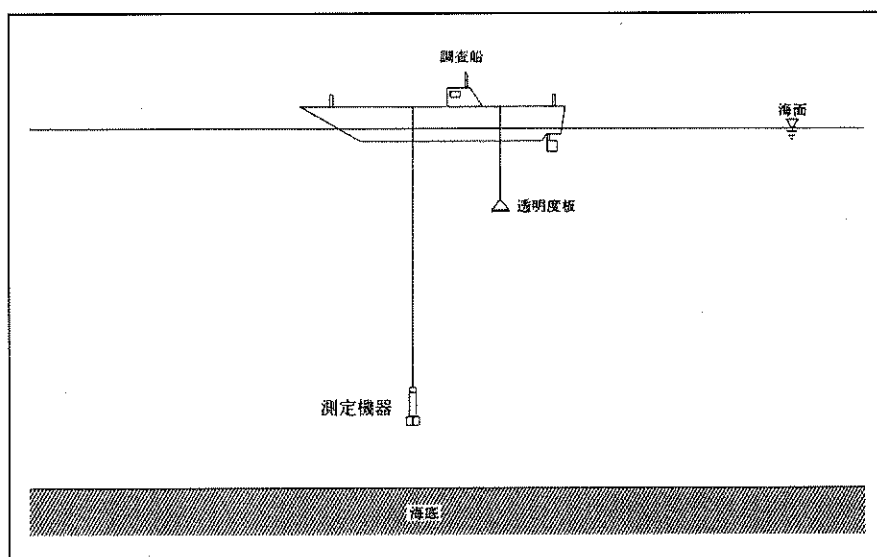


図1-5-1 機器測定状況

(2) 生物調査

① 目視観察

神戸沖処分場4地点（A-2、4、5、7）、尼崎沖処分場2地点（B-1、2）、大阪沖処分場5地点（C-1～5）、泉大津沖処分場4地点（D-2、3、5、6）の計15地点において、平均海面+1mより海底面まで1m間隔で50×50cmの方形枠を設置し、方形枠内の植物（種類、被度）、動物（種類、個体数、被度）を潜水により観察し写真撮影を行った。また、護岸周辺の魚類については±0mより水深-2mごとに水深2m範囲内に確認される種類と大きさを記録し、個体数をCR法（表1-5-1）により概略的に把握した（図1-5-3）。

なお、エコ護岸（D-5、6）においては、図1-5-2に示すように、水深+1mより海底まで幅50cm×高さ100cmの範囲で連続的に動植物の潜水目視観察と写真撮影を行った（図内↑部）。また、6つの遊水室のうち、中央部上下の2箇所をそれぞれ上室と下室として、可能な限りで動植物の潜水目視観察と写真撮影を行った（図内■部）。魚類については、エコ護岸の遊水室内、周辺、および貫通孔の3つに分けて観察を行った。

これらの生物の目視観察と同時に、原則として表1-5-2の類型区分に従って底質の性状の観察を行った。

表1-5-1 CR法による個体数区分

記号	個体数区分
rr	1～2個体
r	3～10個体
c	11～50個体
cc	51個体以上

表1-5-2 底質の類型区分

記号	区分の基準
B (ブロック)	—
R (岩盤)	—
S (転石)	等身大以上
PI (巨礫)	等身大～大人の頭
Pm (大礫)	大人の頭～こぶし大
Ps (小礫)	こぶし大～米粒大
Sd (砂)	米粒大以下～粒子が認められる程度
Md (砂)	粒子が認められない

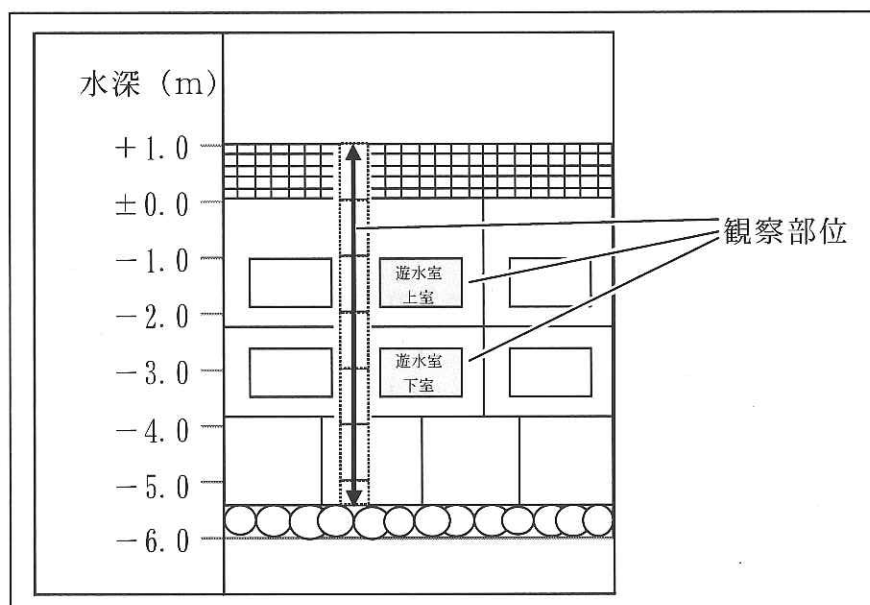


図 1 - 5 - 2 エコ岸壁 (D - 5、6) における観察部位

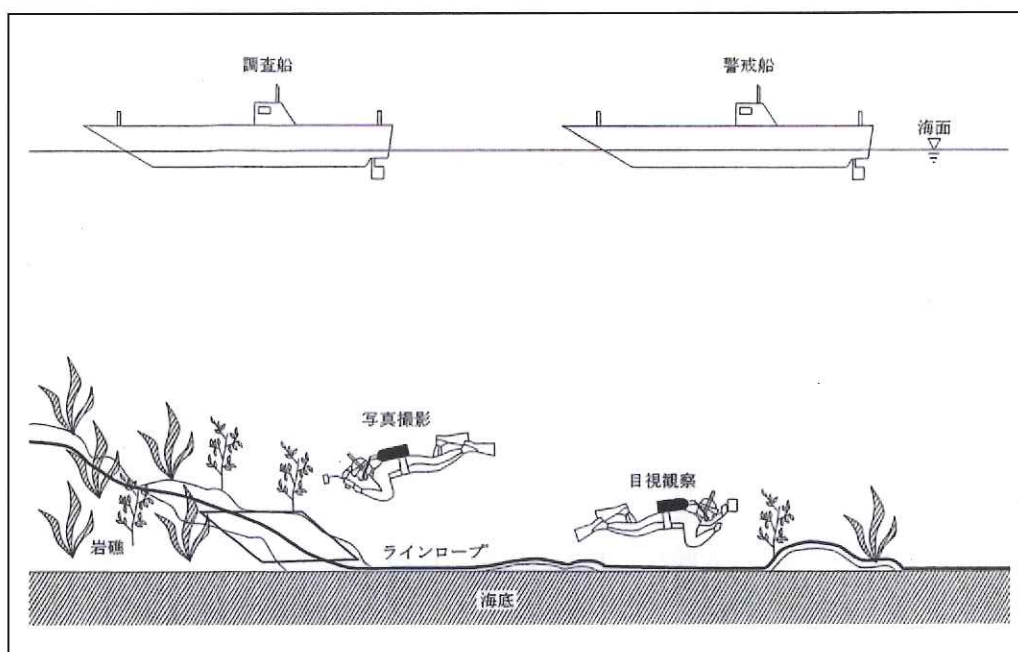


図 1 - 5 - 3 潜水作業状況

② 枠取り採取および分析

神戸沖処分場1地点(A-2)、大阪沖処分場1地点(C-2)、泉大津沖処分場2地点(D-2、3)の計4地点において、上層(平均海面±0m)、中層(平均海面-2m)、下層(平均海面-4m)の3層において潜水により50×50cm枠内の付着生物を採取し、10%ホルマリン溶液で固定して持ち帰り、1mmふるい上に残った生物の種類、個体数(動物のみ)、湿重量の分析を行った。

③ 目視および分析結果の表記

目視観察および枠取り採取による分析で出現した植物の分類は、吉田・吉永・中嶋編「日本産海藻目録(2000年改訂版)」に従った。動物の分類は、門については「新日本動物図鑑(上・中・下)(1982)」、綱以下については、軟体動物門では奥谷編「日本近海産貝類図鑑(2000)」、節足動物門と棘皮動物門では西村編「原色検索日本海岸動物図鑑(Ⅱ)(1995)」、魚類では中坊編「日本産魚類検索(Ⅰ・Ⅱ)(2000)」、その他は原則として「新日本動物図鑑(上・中・下)」に従った。

第2章 春季調査結果

1. 調査実施日

泉大津沖処分場 平成20年 5月19日

2. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表2-1-1に示した。

調査当日の天気は曇り、雲量は10、気温は21.2～22.4℃、風浪階級は1、風速は0～3.1 m/sで風向は北東のち南であった。透明度は1.7～2.4mで、水色は3地点ともオリブグリーンであった。

表2-1-1 一般観測結果

泉大津沖 (5月19日)	調査地点	D-2	D-5	D-6
	調査時間	12:20～13:00	10:39～11:04	14:35～15:10
	天気・雲量	曇り・10	曇り・10	曇り・10
	気温	22.4℃	21.2℃	22.4℃
	風浪階級	1	1	1
	風速・風向	calm	1.5m/s・北東	3.1m/s・南
	透明度	2.4m	2.3m	1.7m
	水色	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0 	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0 	オリブグリーン 3GY 3.5/5.0 
	水深	12.0m	12.2m	12.1m

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表 2-1-2 に、鉛直分布図を図 2-1-1 に示した。

泉大津沖処分場の水温は 14.6～19.2℃、塩分は 29.9～32.1、DO は 1.6～12.9mg/L、相対光量は 0.4～64.6% (光量子束密度 0.7～338.2 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$) の範囲であった。地点間で比較すると、水温、塩分および相対光量の範囲にはほとんど差がみられなかったが、DO は D-6 がやや低かった。

鉛直分布をみると、水温は 3 地点とも深くなるにつれて低下する傾向がみられ、特に D-2 では水深 3m 以深の水温の低下が顕著であった。塩分は 3 地点とも深くなるにつれて徐々に上昇する傾向がみられた。DO は 3 地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられ、D-2 では水深 4m 以深で、D-5 では水深 1～3m と水深 8～9m で、D-6 では水深 5m 以深で DO の減少が顕著であった。光量は 3 地点とも底層にかけて減少し、D-6 では水深 8m 以深で、D-2、5 では水深 9m 以深で相対光量が 1% 未満となった。

表 2-1-2 水質測定結果概要表

項目(単位) 調査地点		水温 (℃)	塩分 (-)	DO (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
泉大津沖	D-2	14.8 ～ 19.2	30.1 ～ 32.0	2.6 ～ 12.3	0.7 ～ 64.6	2.9 ～ 260.2
	D-5	14.6 ～ 19.0	30.2 ～ 32.1	3.0 ～ 12.9	0.5 ～ 61.6	2.7 ～ 338.2
	D-6	14.7 ～ 18.9	29.9 ～ 32.1	1.6 ～ 11.3	0.4 ～ 54.4	0.7 ～ 92.4

調査場所：泉大津沖処分場
調査日：平成20年5月19日

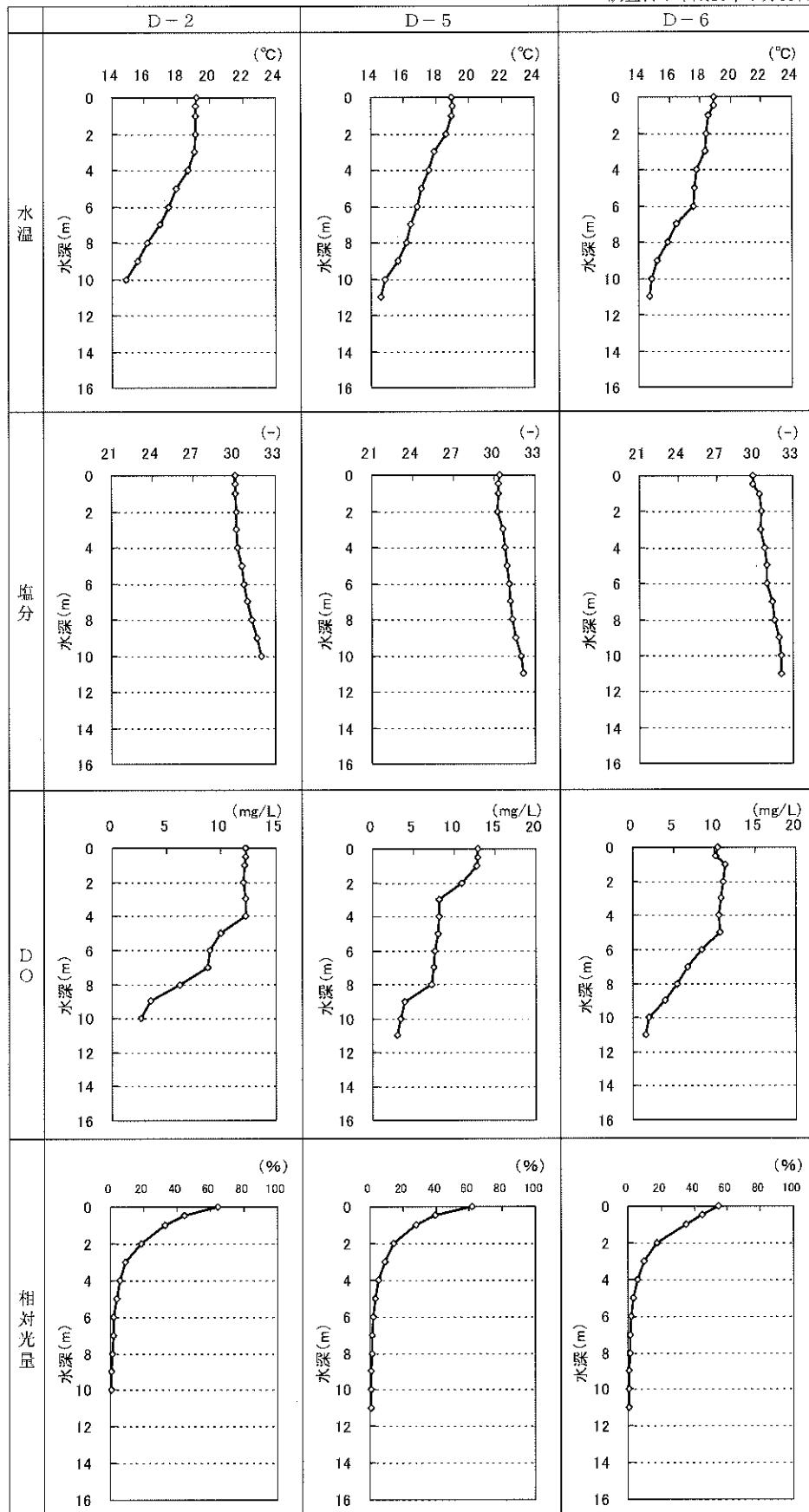


図2-1-1 水質の鉛直分布

3. 生物調査

(1) 目視観察

① 植物

泉大津沖処分場において実施した植物の調査結果を表2-2-1に示す。

調査地点D-2では、植物は平均海面±0～-12mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで9種類であった。被度30%以上の種類を示すと、-1mで緑藻綱のミルが30%、-3mで紅藻綱のイギス科が30%、-3～7mで紅藻綱のタオヤギソウが30%、-4～6mで紅藻綱のカバノリが30～60%であった。藻場構成種を示すと、-1～2mで褐藻綱のワカメが被度5%未満で確認された。

調査地点D-3では、植物は±0～-12mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで7種類であった。被度30%以上でみられた種類はなかった。藻場構成種を示すと、-1mで褐藻綱のワカメが被度20%で確認された。

調査地点D-5では、植物は+1～-5.5mに分布し、9種類が確認された。種類数は壁面では8種類、遊水室内では、上室において2種類、下室において2種類であった。種類数が多かったのは、壁面の±0～-1mで6種類であった。エコ岸壁において被度30%以上でみられた種類はなかった。藻場構成種を示すと、-5～5.5mでワカメが被度5%未満で、遊水室内の上室と下室の側面において褐藻綱のシダモクが被度5%未満で確認された。

調査地点D-6では、植物は+1～-5.5mに分布し、4種類が確認された。種類数は壁面では4種類、遊水室内では、上室において3種類、下室において2種類で、種類数が多かったのは、壁面の±0～-2mで4種類であった。エコ岸壁において被度30%以上の種類を示すと、壁面の+1～-1mで緑藻綱のアオサ属が30%、+1～-2mで褐藻綱のハバモドキが30～70%、-2～-5.5mで珪藻綱が40～80%であった。藻場構成種は確認されなかった。

表 2-2-1 (1) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成20年 5月19日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
質	基	ア ロック	ア ロック	ア ロック	ア ロック	ア ロック	ア ロック	ア ロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻類	アオサ属		20	+	+	+	+									
	シオグサ属		+	+	+	+										
	アオノリ属		+	+												
	ミル			30												
褐藻類	ワカメ			+	+											
	オオバツノマタ				+											
	フダラク		+	10	20	+										
	ムカデノリ属			+	10	+										
紅藻類	イギス科			10	20	30	+	10	+	10	20	20	20	10	+	
	タオヤギソウ				+	30	30	30	30	30	+	+	+	+		
	カバノリ				+	+	40	30	60	10	+	+				
	マクサ						+	+								
	イトグサ属							+								
	ススカケベニ							+	+	10	+	+	+	+		
	ベニスナゴ							+								
	藍藻綱															
出現種類数 (16)		-	5	8	9	8	6	6	6	4	4	4	3	3	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2-2-1 (2) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成20年 5月19日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
質	基	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻類	アオサ属		+	+	+											
	アオノリ属		+	+	+											
	シオグサ属			+	+											
	ミル			20	+											
褐藻類	ハネモ属				+	+										
	ワカメ			20	+											
	イギス科				+	+	+	+	+	+	10	10	+	+	+	
	ススカケベニ									20	+	+	+	+		
紅藻類	タオヤギソウ									20	+	+	+	+		
	カバノリ									+	+	+	+	+		
	藍藻綱			+	20	20	20	10	+	+	+	+	+	+		
	出現種類数 (11)	-	2	6	7	3	2	2	2	5	5	4	4	1	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2-2-1 (3) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成20年 5月19日

観察場所		エコ岸壁												
平均海面 (m)		壁面							遊水室					
基質または部		+1~+0	+0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
位	種類名	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑藻類	アオサ属	20	+	+	+	+								
	ミル	+	+	+										
	アオノリ属		+	10	+	+								
	シオグサ属		+	+	+									
褐藻類	ワカメ							+						
	シダモク									+			+	
紅藻類	ムカデノリ	+												
	フダラク	+	+											
藍藻綱	藍藻綱		10	10	10	10	10	10		10	+		+	+
	出現種類数 (9)	4	6	5	4	3	1	2	-	2	1	-	2	1

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

表 2-2-1 (4) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成20年 5月19日

観察場所		エコ岸壁								遊水室					
		壁面							上室			下室			
平均海面 (m)		+1~+0	+0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5							
位	種類名	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面	
	緑藻類	アオサ属	30	30	+	+				+					
		アオノリ属	10	+	+										
	褐藻類	ハバモドキ	30	70	40					10			+		
	珪藻綱	珪藻綱		+	20	40	60	80	80	+	20		+	20	
出現種類数 (4)		3	4	4	2	1	1	1	1	3	—	1	2	—	

注：数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

② 動物

泉大津沖処分場において実施した動物の調査結果を表 2-2-2 に示す。

調査地点 D-2 では、動物は平均海面 +1 ~ -12m に分布し、24 種類が確認された。種類数が多かったのは ±0 m で 7 種類であった。被度 30% 以上の種類を示すと、±0 m で軟体動物門のムラサキガイが 40%、-1 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 30%、-4 ~ 5 m で触手動物門のコケムシ綱が 30% であった。個体数で一桝 (0.25m²) あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、+1 m で軟体動物門のアラレタマキビが 15 個体、±0 m で軟体動物門のイボニシが一桝あたり 70 個体、-5 m で棘皮動物門のイトマキヒトデが 11 個体、-4 ~ 5 m、-8 m および -10 m で棘皮動物門のキヒトデが一桝あたり 12 ~ 37 個体確認された。

調査地点 D-3 では、動物は +1 ~ -12m に分布し、18 種類の動物が確認された。種類数が多かったのは -2 ~ 3 m と -6 m で 10 種類であった。被度 30% 以上でみられた種類を示すと、±0 ~ -1 m でムラサキガイが 30 ~ 70%、-3 ~ 6 m でコケムシ綱が 30 ~ 80% であった。個体数で一桝あたり 10 個体以上みられた種類を示すと、+1 m でアラレタマキビが一桝あたり 120 個体、-7 m と 10 m でキヒトデが 12 ~ 42 個体確認された。

調査地点 D-5 では、動物は +1 ~ -5.5m に分布し、17 種類が確認された。種類数は壁面では 15 種類、遊水室内では、上室において 9 種類、下室において 13 種類で、種類数が多かったのは壁面の -1 ~ 2 m で 11 種類であった。エコ岸壁において被度 30% 以上でみられた種類を示すと、壁面の +1 ~ -1 m でムラサキガイが 40 ~ 80%、-1 ~ 5.5m でコケムシ綱が 30 ~ 60%、遊水室内では下室の側面でカンザシゴカイ科が 40%、上室と下室の側面でコケムシ綱が 30 ~ 40%、上室の上面と側面、下室の上面でムラサキガイが 40 ~ 70%、上室の上面で原索動物門のシロボヤが 30% であった。個体数で観察範囲に 10 個体以上みられた種類を示すと、壁面の ±0 ~ -2 m、遊水室内の上室の側面、下室の側面と下面でキヒトデが 12 ~ 90 個体、-3 ~ 4 m でイトマキヒトデが 11 個体確認された。

調査地点 D-6 では、動物は +1 ~ -1 m と -2 ~ 5.5m に分布し、3 種類が確認された。種類数は壁面では 2 種類、遊水室内では、上室において 2 種類、下室において 1 種類で、どの観察桝も 1 種類であった。エコ岸壁において被度 30% 以上でみられた種類はなく、個体数で観察範囲に 10 個体以上みられた種類もなかった。最も個体数が多かったのはキヒトデで壁面の水深 -5 ~ 5.5m で 8 個体であった。

表 2-2-2 (1) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成20年 5月19日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	タデマイソギンチャク		+													
腔腸動物門	ヒドロ虫綱			+												
	デギレイソギンチャク			+	+											
環形動物門	シオガマサンゴ														+	+
	カンザシゴカイ科		10	30	10	10	+	+								
触手動物門	コケムシ綱		10	+	+	10	30	30	10	+	+	+	+	+	+	+
	アミコケムシ科								+	10	10	10	20	20	20	
軟体動物門	アラレタマキビ	(15)														
	ベッコウガサ	(1)														
	コガモガイ	(7)														
	カモガイ	(3)														
	カラマツガイ		(3)													
	イボニシ		(70)													
	ヨメガカサ		(1)													
	ムラサキガイ		40	10	20	10										
	ムギガイ							(3)								
	コシダカガンガラ								(1)							
節足動物門	イワフジツボ	+														
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(5)		(7)	(11)		(3)	(1)	(2)	(3)	(3)	(2)	
	キヒトデ						(26)	(37)	(6)	(2)	(12)	(9)	(15)	(5)		
	マナマコ								(2)							
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+												
	ユウレイボヤ属				+											
—	泥炭															
出現種類数 (24)		5	7	6	6	3	4	5	5	4	4	5	5	6	5	—

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (2) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成20年 5月19日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	タデマイソギンチャク		+	+												
腔腸動物門	ヒドロ虫綱			+	+	+	+									
	デギレイソギンチャク				20	+										+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	20	10	20	20	10	+							
	コケムシ綱		20	20	20	30	40	60	80							
触手動物門	フサコケムシ科			+	+	10	+	+	+							
	アミコケムシ科						+	+	+	+	+	+	10	20	20	
軟体動物門	アラレタマキビ	(120)								+						
	ムラサキガイ		70	30	10	10										
	イボニシ		(4)													
節足動物門	イワフジツボ	+	+													
	キヒトデ				(4)	(8)	(8)	(5)	(8)	(42)	(5)	(7)	(12)	(4)	(6)	
	マナマコ								(1)							
棘皮動物門	イトマキヒトデ								(2)	(4)	(4)	(9)	(5)	(4)	(3)	
	シロボヤ			+	+	+										
	ホヤ綱 (群体性)			+	20	+	+	+	+		+	+	+	+		
原索動物門	ユウレイボヤ属						+	+	+							
	ユウレイボヤ属						+	+	+							
—	泥炭				+	+	+	+	10	+	+	+	+	+	+	
出現種類数 (18)		2	6	8	10	10	9	9	10	5	5	5	5	5	4	—

注 1 : 数値は被度 (%) を示し、+ は 5 % 未満を示す。

注 2 : () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (3) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成20年 5月19日

観察場所		エコ岸壁												
平均海面 (m)		壁面						遊水室						
基質または		+1～+0	+0～-1	-1～-2	-2～-3	-3～-4	-4～-5	-5～-5.5	上室			下室		
部位	種別名	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク	+												
	チギレイソギンチャク		+	+					10	+	+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科	+	20	20	20	20	20	20	+	10		+	40	
	コケムシ綱	+	20	40	60	50	40	30	+	40		+	30	
触手動物門	フサコケムシ科			+	+	10	10	10					10	
	アミコケムシ科					+	10	10					+	
軟体動物門	ケガキ	+												
	ムラサキイガイ	80	40	10	+				60	40	10	70	+	+
節足動物門	レイシガイ												(4)	
	ヨーロッパフジツボ		+	5	5	+				+			+	
棘皮動物門	キヒトデ	(7)	(14)	(12)	(8)	(4)	(6)	(2)		(22)	(8)		(19)	(90)
	イトマキヒトデ		(5)	(6)	(8)	(11)	(4)	(7)				(4)	(3)	(2)
原索動物門	マナモコ													(1)
	ホヤ綱 (群体性)	+	10	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+
	シロボヤ	+	+	+	+	+	+	+	30	+				
	ユウレイゴヤ属		+	+	+	+	+	+	+	+		+		
	エボヤ							+						
	出現種数 (17)	8	10	11	10	10	9	9	7	9	3	7	10	5

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (4) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成20年 5月19日

観察場所		エコ岸壁												
平均海面 (m)		壁面						遊水室						
基質または		+1～+0	+0～-1	-1～-2	-2～-3	-3～-4	-4～-5	-5～-5.5	上室			下室		
部位	種別名	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
腔腸動物門	ヒドロ虫綱								+					
軟体動物門	ムラサキイガイ	10	+											
棘皮動物門	キヒトデ				(5)	(6)	(4)	(8)			(5)			(2)
出現種数 (3)		1	1	--	1	1	1	1	1	--	1	--	--	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

泉大津沖処分場において実施した魚類の調査結果を表 2-2-3 に示す。

調査地点 D-2 では 5 種類が確認され、水深-6～8 m で 4 種類と最も多かった。個体数が最も多かったのはメバルで、水深-4～8 m で 3～10 個体確認された。

調査地点 D-3 では 4 種類が確認され、水深-4～8 m で 2 種類ずつ確認された。個体数が 11 個体以上みられた種類を示すと、水深-6～8 m でメバルが 11～50 個体確認された。

調査地点 D-5 では 8 種類が確認され、エコ岸壁の周辺で 7 種類と最も多かった。個体数が 11 個体以上みられた種類を示すと、エコ岸壁の周辺においてメバルが 11～50 個体確認された。

調査地点 D-6 では 3 種類が確認され、エコ岸壁の遊水室内と周辺で 3 種類と多かった。個体数が 11 個体以上みられた種類を示すと、エコ岸壁の遊水室内においてメバルが 51 個体以上確認された。

表 2-2-3 (1) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

		平成19年5月19日							
水深 (m)		±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8	-8~10	-10~12	-12~14	14~
基質		ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫	泥
種類名	魚類	コモンフグ(12)		rr					
		メバル(5~12)		r	r				
		マアナゴ(6~20)			rr				
		アイナメ(10~15)			rr	rr			
		アナハゼ(10~12)			rr				
		出現種類数(5)	-	1	1	4	1	-	-

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (2) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

		平成19年5月19日							
水深 (m)		±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8	-8~10	-10~12	-12~14	14~
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
種類名	魚類	アイナメ(10~15)		rr					
		クロダイ(20~25)		rr					
		ウマツラハギ(15)			rr				
		メバル(3~5)			c				
		出現種類数(4)	-	-	2	2	-	-	-

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (3) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

		平成19年5月19日		
観察部位		エコ岸壁		
基質		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	魚類	ケーソン	ケーソン	ケーソン
		クロダイ(20~35)	r	
		アイナメ(8~12)	r	r
		ウミタナゴ(8~12)	rr	r
		メバル(5~10)	r	c
		スズメダイ(6~8)	r	r
		ホンベラ(3~7)		r
		クサフグ(12)		rr
その他	マダコ			rr
	出現種類数(8)	5	7	3

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (4) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

		平成19年5月19日		
観察部位		エコ岸壁		
基質		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	魚類	ケーソン	ケーソン	ケーソン
		メバル(3~5)	cc	r
		スズメダイ(10~12)	r	r
		アイナメ(8~12)	rr	r
	出現種類数(3)	3	3	1

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 枠取り採取および分析

泉大津沖処分場において実施した植物の枠取り分析結果を表2-2-4、動物の枠取り分析結果を表2-2-5に示した。

① 植物

D-2では、上層から下層で5～17種類が出現し、総湿重量は3.25～700.86g/0.25m²であった。種類数と湿重量は中層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層では緑藻綱のミルが全体の36%を、中層では藻場構成種である褐藻綱のワカメが全体の85%を、下層では紅藻綱のタオヤギソウが全体の90%を占めた。

D-3では、上層から下層で5～9種類が出現し、中層で多く、下層で少なかった。総湿重量は0.34～59.22g/0.25m²であり、中層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層では緑藻綱のアオサ属が全体の82%を、中層では藻場構成種であるワカメが全体の95%を、下層ではタオヤギソウが全体の99%を占めた。

表2-2-4 枠取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L.±0.0m)	中 (M.W.L.-2.0m)	下 (M.W.L.-4.0m)
泉大津沖 D-2 (5月19日)	出現種類数	5	17	7
	総湿重量 (g/0.25m ²)	3.25	700.86	671.25
	優占種	第1位 ミル 1.16 (36)	ワカメ 593.75 (85)	タオヤギソウ 602.97 (90)
		第2位 シオゲサ属 0.89 (27)	カハノリ 66.48 (9)	ツナギ属 60.51 (9)
		第3位 アサ属 0.57 (18)	ツナギ属 12.55 (2)	カハノリ 7.08 (1)
泉大津沖 D-3 (5月19日)	出現種類数	7	9	5
	総湿重量 (g/0.25m ²)	0.34	59.22	4.15
	優占種	第1位 アサ属 0.28 (82)	ワカメ 56.25 (95)	タオヤギソウ 4.10 (99)
		第2位 キヌイトワツガサネ 0.04 (12)	ミル 2.63 (4)	ヨツガサネ属 イトサ属 0.02 (-)
		第3位 アサ属 ミル 0.01 (3)	ハハモトキ 0.23 (-)	

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

② 動物

D-2では、上層から下層で22~71種類が出現し、総個体数は775~30,099個体/0.25m²、総湿重量62.65~3,109.83g/0.25m²であった。種類数は中層で多く、上層で少なかった。個体数と湿重量はともに上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、軟体動物門のムラサキイガイが、上層において個体数では全体の97%、湿重量では全体のほぼ100%を占め、中層においても個体数では全体の77%、湿重量では全体の58%を占めた。下層では節足動物門のマールエラワレカラが個体数で全体の23%、棘皮動物門のイトマキヒトデが湿重量で全体の30%を占めた。

D-3では、上層から下層で33~60種類が出現し、総個体数は1,521~46,980個体/0.25m²、総湿重量44.69~5,636.28g/0.25m²であった。種類数は下層で多く、上層で少なかった。個体数と湿重量はともに上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、ムラサキイガイが上層において、個体数では全体の99%、湿重量では全体のほぼ100%を占め、中層においても個体数では全体の38%、湿重量では全体の55%を占めた。下層では節足動物門のアリアケドロクダムシが個体数で全体の31%、属する動物門が不明の卵塊が湿重量で全体の15%を占めた。

表2-2-5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査口)	層	上 (M.W.L.±0.0m)	中 (M.W.L.-2.0m)	下 (M.W.L.-4.0m)
泉大津沖 D-2 (5月19日)	出現種数(種類)	22	71	60
	総個体数 (個体/0.25m ²)	30,099	13,588	775
	総湿重量 (g/0.25m ²)	3,109.83	660.67	62.65
	個体数からみた 優占種	第1位 ムラサキイガイ 29,185 (97) 第2位 セキゴイガイ 608 (2) 第3位 ホトギスガイ 105 (-)	第1位 ムラサキイガイ 10,501 (77) 第2位 キヌトイガイ 770 (6) 第3位 ゼウツリ属 617 (5)	第1位 マールエラワレカラ 179 (23) 第2位 キヌトイガイ 101 (13) 第3位 ゼウツリ属 68 (9)
	湿重量からみた 優占種	第1位 ムラサキイガイ 3,102.73 (100) 第2位 マールエラワレカラ 1.65 (-) 第3位 ホトギスガイ 1.42 (-)	第1位 ムラサキイガイ 384.03 (58) 第2位 マールエラワレカラ 213.91 (32) 第3位 キヌトイガイ 20.26 (3)	第1位 イトマキヒトデ 18.87 (30) 第2位 セキゴイガイ 14.00 (22) 第3位 マールエラワレカラ 13.96 (22)
	出現種数(種類)	33	54	60
	総個体数 (個体/0.25m ²)	46,980	4,270	1,521
	総湿重量 (g/0.25m ²)	5,636.28	193.40	44.69
	個体数からみた 優占種	第1位 ムラサキイガイ 46,336 (99) 第2位 セキゴイガイ 305 (1) 第3位 イソオサザシガイ 66 (-)	第1位 ムラサキイガイ 1,640 (38) 第2位 <i>Dodecaceria</i> sp. 798 (19) 第3位 イソオサザシガイ 584 (14)	第1位 アリアケドロクダムシ 465 (31) 第2位 マールエラワレカラ 199 (13) 第3位 キヌトイガイ 172 (11)
	湿重量からみた 優占種	第1位 ムラサキイガイ 5,611.52 (100) 第2位 セキゴイガイ 12.64 (-) 第3位 イソオサザシガイ 4.58 (-)	第1位 ムラサキイガイ 107.32 (55) 第2位 セキゴイガイ 16.22 (8) 第3位 マールエラワレカラ 15.99 (8)	第1位 卵塊 6.53 (15) 第2位 マールエラワレカラ 5.28 (12) 第3位 イソオサザシガイ 5.24 (12)

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

第3章 夏季調査結果

1. 調査実施日

- (1) 神戸沖処分場 平成20年 8月 3日
- (2) 大阪沖処分場 平成20年 8月 4日

2. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表3-1-1に示した。

① 神戸沖処分場

調査当日の天気は晴、雲量は2、気温は30.6～35.8℃、風浪階級は1、風速は2.8～6.8 m/sで風向は西南西のち南西であった。透明度は2.0～2.8m、水色は調査地点A-2、4、5でオリーブグリーン、A-7でボトルグリーンであった。

② 大阪沖処分場

調査当日の天気は晴、雲量は5～6、気温は29.6～33.9℃、風浪階級は1、風速は3.4～4.1 m/sで風向は南西であった。透明度は2.3～3.5m、水色は調査地点C-1、3でオリーブグリーン、C-2でボトルグリーンであった。

表3-1-1 一般観測結果

神戸沖 (8月3日)	調査地点	A-2	A-4	A-5	A-7
	調査時間	13:00～15:30	8:55～10:10	10:40～11:35	11:45～12:40
	天気・雲量	晴・2	晴・2	晴・2	晴・2
	気温	35.8℃	30.6℃	33.6℃	35.8℃
	風浪階級	1	1	1	1
	風速・風向	4.8m/s・南西	2.8m/s・西南西	4.7m/s・西南西	6.8m/s・西南西
	透明度	2.4m	2.6m	2.8m	2.0m
	水色	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0 	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0 	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0 	ボトルグリーン 3G 3.0/4.5 
大阪沖 (8月4日)	水深	16.1m	17.0m	12.3m	10.0m
	調査地点	C-1	C-2	C-3	\
	調査時間	10:00～10:45	10:55～12:00	12:45～13:45	
	天気・雲量	晴・5	晴・5	晴・6	
	気温	29.6℃	32.4℃	33.9℃	
	風浪階級	1	1	1	
	風速・風向	3.4m/s・南西	3.7m/s・南西	4.1m/s・南西	
	透明度	2.5m	3.5m	2.3m	
	水色	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0 	ボトルグリーン 3G 3.0/4.5 	オリーブグリーン 3GY 3.5/5.0 	
	水深	14.0m	14.4m	12.2m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表3-1-2に、鉛直分布図を図3-1-1(1)～(2)に示した。

① 神戸沖処分場

神戸沖処分場の水温は22.5～29.5℃、塩分は26.1～32.4、DOは0.0～8.4mg/L、相対光量は0.1～95.9%（光量子束密度2.3～1493.5 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$ ）の範囲であった。地点間で比較すると、水温、塩分の範囲にはほとんど差がみられなかったが、DOの最低値はA-2、4で1.0mg/L以下の低い値を示した。相対光量の最低値はA-7でやや高く、1%であった。

鉛直分布をみると、水温は4地点とも深くなるにつれて低下する傾向がみられたが、A-2では水深4～6mで、A-4では水深6～8mで、A-7では水深3～6mで水温の低下が顕著であった。塩分は4地点とも深くなるにつれて上昇する傾向がみられたが、A-2では水深1～6mで、A-4では水深1～3mで、A-7では水深3～6mで塩分の上昇が顕著であった。DOは4地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられたが、A-2では水深2～5mで、A-5では水深7～8mで、A-7では水深3～5mでDOの減少が顕著であった。光量は4地点とも底層にかけて減少し、A-2、4、5では水深10m以深で相対光量が1%未満となり、A-7では水深が浅く底層でも1%あったが、光量の減衰傾向はほぼ同じであった。

② 大阪沖処分場

大阪沖処分場の水温は23.0～29.1℃、塩分は27.4～32.4、DOは0.0～8.8mg/L、相対光量は0.5～95.3%（光量子束密度9.0～1967.0 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$ ）の範囲であった。地点間で比較すると、水温、塩分および相対光量の範囲にはほとんど差がみられなかったが、DOはC-2の最低値が0.0mg/Lの値を示した。

鉛直分布をみると、水温は3地点とも深くなるにつれて低下する傾向がみられた。塩分は3地点とも深くなるにつれて上昇する傾向がみられた。DOは3地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられ、特にC-2では水深12～13mでDOの減少が顕著で、水深13mでは0.0mg/Lとなった。光量は3地点とも底層にかけて減少し、C-1、3では水深10m以深で、C-2では水深13mで相対光量が1%未満となり、相対光量の減衰はC-2でやや緩やかであった。

表 3-1-2 水質測定結果概要表

項目 (単位) 調査地点		水温 (℃)	塩分 (-)	DO (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A-2	22.5 ~ 29.2	26.9 ~ 32.4	0.0 ~ 7.8	0.1 ~ 63.3	2.3 ~ 970.9
	A-4	23.0 ~ 29.0	26.1 ~ 32.4	0.4 ~ 8.4	0.2 ~ 95.9	2.7 ~ 1493.5
	A-5	23.9 ~ 28.5	28.6 ~ 31.9	1.6 ~ 7.9	0.6 ~ 67.4	8.3 ~ 978.8
	A-7	25.2 ~ 29.5	26.6 ~ 30.7	2.1 ~ 8.3	1.0 ~ 66.4	19.2 ~ 1237.4
大阪沖	C-1	23.9 ~ 29.1	28.1 ~ 32.0	2.1 ~ 7.5	0.5 ~ 81.8	9.0 ~ 1433.5
	C-2	23.0 ~ 29.1	28.3 ~ 32.4	0.0 ~ 8.1	0.9 ~ 61.5	18.6 ~ 1204.6
	C-3	24.2 ~ 29.0	27.4 ~ 31.9	2.7 ~ 8.8	0.7 ~ 95.3	13.9 ~ 1967.0

調査場所：神戸沖処分場
調査日：平成20年8月3日

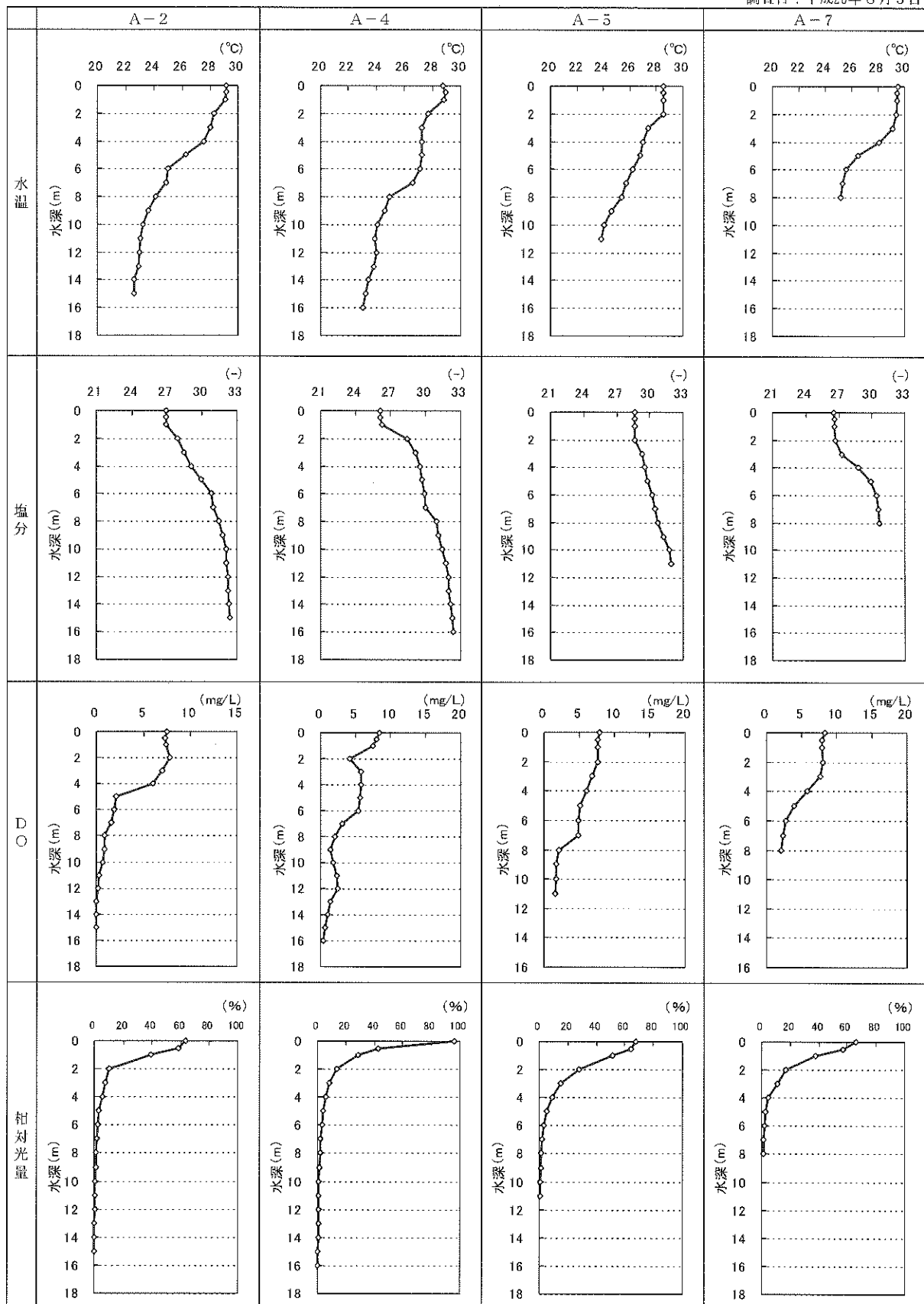


図3-1-1 (1) 水質の鉛直分布

調査場所：大阪沖処分場
調査日：平成20年8月4日

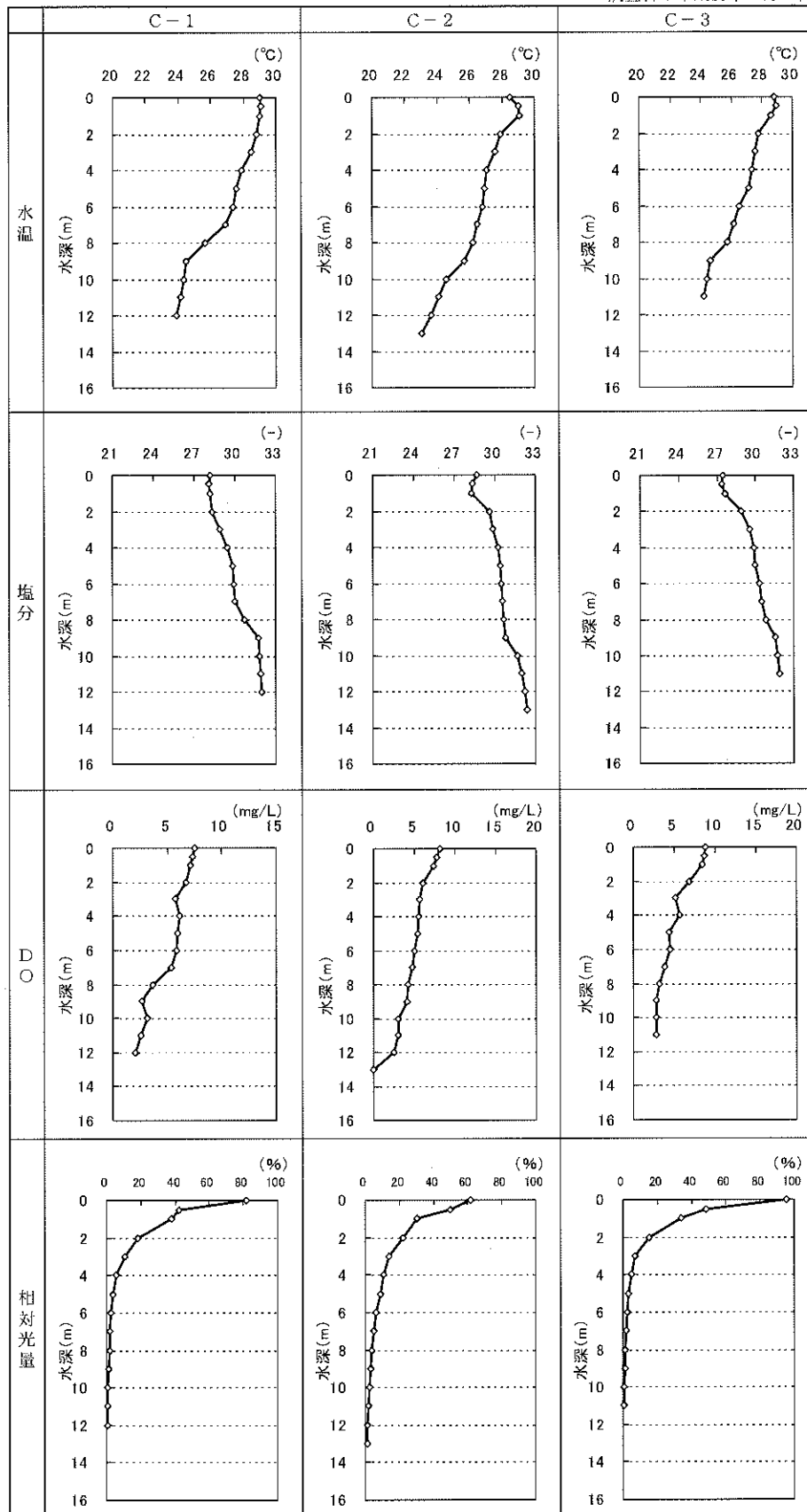


図3-1-1(2) 水質の鉛直分布

3. 生物調査

(1) 目視観察

① 植物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の植物の目視観察結果を表3-2-1(1)～(4)に示す。

調査地点A-2では、植物は平均海面+1～-8mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで7種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-1mで緑藻綱のアオサ属が60～70%、-4～6mで紅藻綱のイギス科が30%であった。藻場構成種は、-2mで褐藻綱のタマハハキモクが被度5%未満で確認された。

調査地点A-4では、植物は±0～-8mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは±0～-1mと-3～5mで6種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでアオサ属が40%、-4～5mでイギス科が30～40%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点A-5では、植物は+1～-2mと-4～9mに分布し、6種類が確認された。種類数が多かったのは-5mで5種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでアオサ属が30%、-5mでイギス科が30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点A-7では、植物は±0～-6mに分布し、5種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで4種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高い種類は±0mでアオサ属が20%であった。また、藻場構成種は確認されなかった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の植物の目視観察結果を表3-2-1(5)～(9)に示す。

調査地点C-1では、植物は平均海面±0～-9mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-3～5mでイギス科が30～70%、水深-6～7mで紅藻綱のイワノカワ科が35～40%、水深-7mで紅藻綱のススカケベニが30%であった。藻場構成種は、-3mでタマハハキモクが10%、-3mと-5mで褐藻綱のシダモクが5%未満、-5mで褐藻綱のヨレモクモドキが5%未満で確認された。

調査地点C-2では、植物は±0～-10mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-1mでアオサ属が70%、-7～8mでススカケベニが35～45%、-9mでイワノカワ科が65%であった。藻場構成種は、-3mでタマハハキモク、-3～5mでシダモクがともに5%未満で確認された。

調査地点C-3では、植物は±0～-9mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは-1mと-4mで5種類であった。被度30%以上の種類は、-1～2mでアオサ属が65～70%であった。藻場構成種は、-1mでタマハハキモク、-3mでシダモクがともに5%未満で確認された。

調査地点C-4では、植物は±0～-9mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-4～5mと-7mで6種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで藍藻

網と珪藻網がそれぞれ55%と30%、-1mでシオグサ属が35%、-3mでアオサ属が50%、
-5～6mで藻場構成種のタマハハキモクが30～80%、-5～7mでイギス科が65～80%
であった。藻場構成種はタマハハキモクが-3～7mで確認された。

調査地点C-5では、植物は±0～-8mに分布し、8種類が確認された。種類数が多か
ったのは-3mと-4～6mで3種類であった。被度30%以上の種類は、±0mと-2～
5mでアオサ属が30～70%であった。藻場構成種は確認されなかった。

表3-2-1(1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成20年8月3日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
緑藻綱	アオサ属	+	60	70	20	10	+	+					
	シオグサ属			+	10	10	+						
褐藻綱	タマハハキモク				+								
紅藻綱	フダラク			10	+	+							
	コスジフシツナギ			+	+								
	イギス科				10	20	30	30	30	10	+		
	マクサ					10	+	+					
	ムカデノリ属					+							
	イワノカワ科						10	10	+	+			
	カバノリ						+						
	ススカケベニ						+	10	20	10	+		
	藍藻綱	+											
出現種類数(12)		2	1	4	6	6	7	5	3	3	2	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成20年8月3日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
緑藻綱	ミル		+										
	シオグサ属		+	+	+	+	+						
	アオサ属		40	20	20	+	+	+					
紅藻綱	ツノマタ属		+	+									
	コスジフシツナギ		+	+									
	フダラク		+	+	+								
	イギス科				+	+	30	40	10	+	+		
	カバノリ					+	+	+					
	ススカケベニ					+	+	10	10	+			
	イワノカワ科							+	+				
	サビ亜科							10	+				
藍藻綱	藍藻綱			+	+	10	+						
出現種類数(12)		-	6	6	5	6	6	6	4	2	1	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-5)

平成20年8月3日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫
種類名													
緑藻綱	アオサ属		30	20	+								
紅藻綱	サビ亜科						+	+					
	イワノカワ科						20	+					
	イギス科						+	30	10	+			
藍藻綱	藍藻綱						+	+	+	+	+	+	+
珪藻綱	珪藻綱	20	+				10	10	10	10	10	+	
出現種類数(6)		1	2	1	1	-	4	5	3	3	2	2	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-7)

平成20年8月3日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
基質		ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
種類名											
緑藻綱	アオサ属		20	10	+	+	+				
紅藻綱	フダラク				+	+					
	カバノリ						+				
	ツルツル						+				
	ススカケベニ						+	+	+		
出現種類数(5)		-	1	1	2	2	4	1	1	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(5) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成20年8月4日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名														
緑藻綱	アオサ属		20	20	+	5	5	15				+		
褐藻綱	シオグサ属			20	+	+	+	10		+			+	
	タマハハキモク						10	10						
	シダモク						+	+		+				
	ヨレモクモドキ									+				
紅藻綱	フダラク			+			+	10						
	ベニスナゴ					5			+					
	イギス科					+	65	70	30	40	+	+	+	
	ツノマタ属						+			+				
	ムカデノリ						+							
	ススカケベニ								10	20	30	10	5	
	イワノカワ科									35	40	+		
藍藻綱	藍藻綱		+							+				
珪藻綱	珪藻綱										+			
出現種類数(14)		-	2	3	2	3	3	8	2	7	4	5	3	2

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(6) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成20年8月4日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名													
緑藻綱	アオサ属		10	70	+	15	+	+					
褐藻綱	シオグサ属			+									
	タマハハキモク					+							
	シダモク					+	+	+					
紅藻綱	フダラク			+		15							
	イギス科				+	+	15	15					
	ツノマタ属				+	+	+						
	ムカデノリ				+	+							
	イワノカワ科				5	+		10	5	+	+	65	+
	ススカケベニ						+	15	15	35	45	25	20
	サビ亜科							+	5				
藍藻綱	藍藻綱		10		10								
出現種類数(12)		-	2	3	6	7	5	6	4	2	3	2	2

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(7) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

平成20年8月4日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		25									
	アオサ属		15	70	65	15	+					
	シオグサ属			10	+	5	+	+				
褐藻綱	タマハハキモク			+								
	シダモク					+						
紅藻綱	フダラク			15	25	25						
	フシツナギ属			+	+							
	ベニスナゴ						10					
	ススカケベニ						20	15	15	25	15	5
	イギス科						+	15	20	10	15	
	イワノカワ科								5	5		
	イワノカワ科								+			
藍藻綱	藍藻綱											
出現種数(12)		-	2	5	4	4	5	3	4	3	2	1

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(8) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-4)

平成20年8月4日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		+	+	+	50	15	+				
	シオグサ属			35	20							
	アオノリ属				+							
褐藻綱	タマハハキモク					+	15	80	30	5		
	カバノリ					15	15	+	+	+		
紅藻綱	フダラク					20						
	ベニスナゴ						5	10				
	イワノカワ科						5			+		+
	サビ曲科						+					
	ススカケベニ							+	10	15	10	15
	イギス科							75	65	80	15	
	クオヤギソウ								+	5	+	
藍藻綱	藍藻綱		55									
珪藻綱	珪藻綱		30									
出現種数(14)		-	3	2	3	4	6	6	5	5	3	2

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表3-2-1(9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-5)

平成20年8月4日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		30	+	65	70	30	45	50	+			
	シオグサ属				+								
	アオノリ属					+							
紅藻綱	フダラク					15	+						
	イワノカワ科							+	+	5			
	イギス科							+	+	5	+	+	
	ススカケベニ										+	+	
藍藻綱	藍藻綱		20										
出現種数(8)		-	2	1	2	3	2	3	3	3	2	2	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の動物の目視観察結果を表3-2-2(1)～(4)に示す。

調査地点A-2では、動物は平均海面+1～-10mに分布し、15種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで7種類であった。被度30%以上の種類は、+1mで節足動物門のイワフジツボが60%、-2～3mで環形動物門のカンザシゴカイ科が40～70%であった。個体数で一桝(0.25m²)あたり10個体以上みられた種類は、-4mと-6mで棘皮動物門のキヒトデがそれぞれ11個体と12個体であった。

調査地点A-4では、動物は+1～-10mに分布し、18種類の動物が確認された。種類数が多かったのは-1mで8種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-3mでカンザシゴカイ科が30～70%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mで軟体動物門のアラレタマキビが60個体であった。

調査地点A-5では、動物は+1～-10mに分布し、22種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで10種類であった。被度30%以上の種類は、-1～3mでカンザシゴカイ科が60～95%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類を示すと、+1mでアラレタマキビが30個体、-3mで棘皮動物門のイトマキヒトデが16個体、-4mで軟体動物門のコシダカガンガラが31個体であった。

調査地点A-7では、動物は+1～-6mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-2～3mでカンザシゴカイ科が50～90%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが60個体、±0mで軟体動物門のレイシガイが17個体、-3mでイトマキヒトデとキヒトデがそれぞれ16個体と12個体であった。

B. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の動物の調査結果を表3-2-2(5)～(9)に示す。

調査地点C-1では、動物は平均海面+1～-10mに分布し、23種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで9種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでイワフジツボが40%、-1～2mで原索動物門のホヤ綱(群体性)が30～85%、-1～5mでカンザシゴカイ科が30～100%であった。一桝あたりの個体数が最も多い種類は、-10mで棘皮動物門のサンショウウニが7個体であった。

調査地点C-2では、動物は+1～-10mに分布し、26種類の動物が確認された。種類数が多かったのは-7mで8種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでイワフジツボが90%、-2～4mでカンザシゴカイ科が100%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mで軟体動物門のタマキビが46個体であった。

調査地点C-3では、動物は+1～-9mに分布し、20種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで8種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高い種類は、-3mでカンザシゴカイ科が25%であった。一桝あたりの個体数が最も多い種類は、-2mでキヒトデが9個体であった。

調査地点C-4では、動物は±0～-7mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで6種類であった。被度30%以上の種類は、-3mで軟体動物門のムラサキイガイが45%、-5～6mで節足動物門のサンカクフジツボが30～80%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、-3mでキヒトデが21個体であった。

調査地点C-5では、動物は±0～-7mと-9mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで9種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでイワフジツボが60%、-1～2mでカンザシゴカイ科が35～90%、-2mでホヤ綱(群体性)が60%、-5mで環形動物門のウズマキゴカイ科が40%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、-2mでキヒトデが23個体であった。

表3-2-2(1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成20年 8月 3日

平均海面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	小礫砂
腔腸動物門												
シロガヤ			+	+								
ヒドロ虫綱			+	+	+							
ハナギンチャク科												+
環形動物門		+	20	70	40	10	10	+				
カンザシゴカイ科												
触手動物門			+	+								
フサコケムシ科				+								
コケムシ綱				+								
軟体動物門	+											
ケガキ												
イボニシ		(1)										
レイシガイ			(5)									
コシダカガンガラ				(1)	(2)				(1)			
節足動物門	60											
イワフジツボ						(1)			(1)			
ヤドリカサ科						(5)	(1)	(6)	(4)	(2)		
棘皮動物門						(11)	(6)	(12)	(5)	(2)	(1)	
イトマキヒトデ												
キヒトデ												
原索動物門				+								
ユウレイボヤ属												
出現種類数(15)	2	2	5	7	3	4	3	3	4	2	1	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成20年 8月 3日

平均海面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	小礫砂
海綿動物門												
海綿動物門			+	+	+							
腔腸動物門		+										
イソギンチャク目												
チギレイソギンチャク		+	10	10	10	+	+					
ヒドロ虫綱		+	+	+	+	10	+	+				
ハナギンチャク科												+
環形動物門		30	60	60	70	10	+	+				
カンザシゴカイ科												
触手動物門			+	+								
フサコケムシ科			+	20	+							
コケムシ綱												
軟体動物門	(60)											
アラレタマキビ	(3)											
マツバガイ	(2)											
カモガイ	(1)	(3)										
イボニシ	(4)											
レイシガイ	(2)											
節足動物門	10											
イワフジツボ												
棘皮動物門							(9)					
キヒトデ							(1)	(1)	(1)			
イトマキヒトデ												
原索動物門		+	10	10	+	10						
ホヤ綱(群体性)									+	10	20	
泥集												
出現種類数(18)	5	7	8	7	6	4	5	3	2	1	1	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表 3-2-2 (3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平均海面 (m)		平成20年 8月 3日											
種類名	基質	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫砂
腔腸動物門	タデジマイソギンチャク		+										
	ヒドロ虫綱		+	(10)	+	10							
環形動物門	イソギンチャク目		+	+	+								
	カンザシゴカイ科		+	95	80	60							
触手動物門	ミズヒキゴカイ科							+	+	+	+	+	
	フサコケムシ科				+	+							
軟体動物門	コケムシ綱					+							
	アラレタマキビ	(30)											
	カモガイ	(3)											
	イボニシ			(4)									
	レイシガイ				(2)	(3)							
	サザエ						(2)						
	コシダカガンガラ						(31)	(4)	(2)	(1)			
	イワフジツボ	+	10										
節足動物門	イシガニ				(1)								
	サンショウウニ			(2)	(1)		(2)						(1)
棘皮動物門	マナマコ					(2)	(1)						
	キヒトデ					(7)		(2)	(4)	(3)	(1)	(3)	
	イトマキヒトデ					(16)	(1)	(2)	(1)	(1)		(1)	
	ホヤ綱 (群体性)				+	+							
原索動物門	エボヤ					+		+	+				
	マボヤ							+	+	+			
出現種類数 (22)		3	4	5	8	10	5	6	6	5	2	3	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 3-2-2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平均海面 (m)		平成20年 8月 3日									
種類名	基質	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
		ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂	小礫砂
腔腸動物門	タデジマイソギンチャク		(10)								
	ヒドロ虫綱		10								
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	10	10					
	イソギンチャク目			20	90	50					
触手動物門	コケムシ綱				+	+					
	アラレタマキビ	(60)									
	イボニシ		(3)								
	レイシガイ		(17)								
節足動物門	イワフジツボ	(10)	+								
	サンショウウニ		(1)	(3)	(1)		(1)				
棘皮動物門	キヒトデ			(4)	(5)	(12)	(2)	(4)	(1)		
	イトマキヒトデ			(7)	(6)	(16)		(1)			
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)				+	+					
	エボヤ				+	+					
	ユウレイボヤ属							+			
出現種類数 (14)		2	6	5	8	7	2	2	2	-	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(5) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成20年 8月 4日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	海綿動物門														
腔腸動物門	タデジマイソギンチャク		+							10					
	ヒドロ虫綱		5		5	+	+	5		+	+	+	+	+	
	<i>Anthopleura</i> sp.			+											
	チギレイソギンチャク				5	+									
	イソギンチャク目							+							
環形動物門	シオガマサンゴ												+	+	+
	カンザシゴカイ科			30	90	100	85	80	85	40	+	+	+		
	ミズヒキゴカイ					+	+	+	+	+					
	ウズマキゴカイ科										+	+	+		
	コケムシ綱			15	+	+									
触手動物門	アラレタマキビ	(5)													
	ムラサキガイ		25	+											
	多板綱		+												
	ゴシダカガンガラ									(5)					
	イワフジツボ		40												
節足動物門	タデジマフジツボ		+												
	キヒトデ					(2)	(1)	(1)							
	ザンショウウニ									(2)	(1)	(1)		(1)	(7)
	ホヤ綱(群体性)			30	85	15			+	+					
	シロボヤ			+											
原索動物門	カタユウレイボヤ					10	+		+						
	卵塊					+	5		+				+		
	泥巣														
	出現種類数(23)	1	6	6	5	9	6	5	5	6	4	4	5	3	2

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(6) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成20年 8月 4日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	海綿動物門				5								
腔腸動物門	イソギンチャク目			+	+								
	ヒドロ虫綱			+		10							
	チギレイソギンチャク					+							
	シオガマサンゴ												
	カンザシゴカイ科			+	100	100	100	+	+	+	+	+	
環形動物門	ミズヒキゴカイ				+					+			
	ウズマキゴカイ									+	+	+	+
	コケムシ綱						+						
	タマキビ	(46)											
	アラレタマキビ	(1)											
触手動物門	イワガキ			+									
	レイシガイ				(1)								
	ゴシダカガンガラ					(1)			(1)		(2)		
	シメノウフネガイ						(1)		(2)				
	コペルトフネガイ								+				
節足動物門	イワフジツボ		90										
	ヤドリカサ科							(1)					
	サンカクフジツボ							20	15	+			
	イトマキヒトデ						(1)	(4)	(1)	(4)			
	マナマコ							(1)					
棘皮動物門	キヒトデ							(2)					
	ホヤ綱(群体性)					+							
	カタユウレイボヤ					+	+						
	卵塊				10	+	+						
	泥巣					+	+						
出現種類数(26)		2	1	4	6	6	6	5	5	8	3	4	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(7) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

平成20年 8月 4日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	チゲレイソギンチャク			+	+	+						
	<i>Anthopleura</i> sp.			+								
環形動物門	カンザシゴカイ科			15	5	25	+					
	ウズマキゴカイ				+	+	+	+	+	15		
	ミズヒキゴカイ							+				
触手動物門	コケムシ綱				+	+	+		+			
軟体動物門	タマキビ	(1)										
	ヨメガカサ		(3)									
	マガキ		+									
	ムラサキイガイ		+	5								
	ナミマガシワ			+	+							
節足動物門	タテジマフジツボ		+									
	ヤドカリ科				(1)	(1)						
	サンカクフジツボ						15	10				
棘皮動物門	キヒトデ				(9)	(2)	(1)				(2)	
	イトマキヒトデ								(1)		(4)	
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			15								
	カタユウレイボヤ						+					
—	卵塊							+				
	泥巢					5	+	5	+	+	+	+
出現種類数 (20)		1	4	5	8	7	7	5	4	2	3	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(8) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-4)

平成20年 8月 4日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	チゲレイソギンチャク				+	+				+		
	ヒドロ虫綱							+				
環形動物門	カンザシゴカイ科				25	+						
	ウズマキゴカイ科						+	+				
軟体動物門	タマキビ		(3)									
	マガキ		+									
	ナミマガシワ			+			+					
	ムラサキイガイ			+	20	45						
節足動物門	タテジマフジツボ		+									
	<i>Balanus</i> spp.		+									
	イワフジツボ		+									
	サンカクフジツボ					+	15	80	30	5		
	ヤドカリ科					(1)	(1)					
棘皮動物門	キヒトデ				(1)	(21)	(1)	(8)				
	サンショウウニ				(1)							
	イトマキヒトデ								(2)	(1)		
—	泥巢							+				
出現種類数 (17)		—	5	2	5	6	5	5	2	3	—	—

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

表3-2-2(9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-5)

平成20年 8月 4日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	ヒドロ虫綱		+	25	+								
	イソギンチャク目			+	+	+							
環形動物門	カンザシゴカイ科			90	35	15	20	+	+				
	ウズマキゴカイ					+	5	15	40	20	+		
触手動物門	コケムシ綱			+	10		15	5	5				
軟体動物門	マガキ		+										
	ムラサキイガイ		+	+	+								
節足動物門	イワフジツボ		60										
	サンカクフジツボ			+	+								
	ミネフジツボ						+	+	5	15	+		
棘皮動物門	キヒトデ				(23)		(6)	(6)	(5)	(3)	(1)		(1)
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	60		10	+		+			
	エボヤ				+								
	カタユウレイボヤ									+			
出現種類数 (14)		—	4	7	9	3	6	6	5	5	3	—	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

注2: ()内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の魚類の調査結果を表3-2-3(1)～(4)に示す。

調査地点A-2では17種類が確認され、水深4～6mで8種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mでメジナが11～50個体とマアジが51個体以上、水深4～6mでメバルが51個体以上であった。

調査地点A-4では11種類が確認され、水深4～6mで9種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深4～6mでウミタナゴが11～50個体、メジナとスズメダイが51個体以上であった。

調査地点A-5では8種類が確認され、水深4～6mで5種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類はなく、個体数が多かったのはスズメダイ、キュウセンおよびアイナメなどで、水深2～4m、4～6mおよび6～8mのいずれかの水深で3～10個体が確認された。

調査地点A-7では9種類が確認され、水深4～6mで6種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深4～6mでネズツボ科が51個体以上、水深6～8mでハゼ科が11～50個体であった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の魚類の調査結果を表3-2-3(5)～(9)に示す。

調査地点C-1では7種類が確認され、水深6～8mで4種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類はなく、個体数が多かったのはクロダイ、メバル、クジメ、キュウセンおよびスズメダイで、水深2～4m、6～8mのいずれかの水深で3～10個体が確認された。

調査地点C-2では10種類が確認され、水深2～4mおよび6～8mで6種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mでスズキ、水深4～6mでスズメダイが11～50個体であった。

調査地点C-3では10種類が確認され、水深2～4mで6種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mでマアジが51個体以上、水深4～6mでアイゴが11～50個体であった。

調査地点C-4では9種類が確認され、水深2～4m、4～6mで6種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mでクロダイとメジナが11～50個体、水深4～6mでボラが11～50個体、水深6～8mでメバルが51個体以上であった。

調査地点C-5では6種類が確認され、水深4～6m、6～8mで3種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類はなく、個体数が多かったのはクロダイ、キュウセンおよびメバルで、水深2～4m、4～6mのいずれかの水深で3～10個体で確認された。

表3-2-3 (1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-2)

平成20年 8月 3日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
	種類名					
魚類	キュウセン (12~22)		r			
	メジナ (15~20)		c			
	マアジ (5~7)		cc			
	クロダイ (25~40)		r	r		
	カワハギ (7~10)		r			
	カサゴ (5~20)		r	r	r	
	ウミタナゴ (10~15)		r	r		
	アミメハギ (3~5)			rr		
	キチヌ (30)			rr		
	アイナメ (12~18)			r	r	
	メバル (6~15)			cc		
	アカオビシマハゼ (5)				rr	
	ウマズラハギ (8~12)				r	
	クサフグ (5)				r	
	ハゼ科 (6~8)				r	r
	テンジクダイ (7)					rr
その他	マダコ (15~30)			rr	r	rr
出現種類数 (17)		-	7	8	7	3

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3 (2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成20年 8月 3日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 小礫 砂
	種類名					
魚類	イシダイ (5~7)	r				
	キュウセン (12~20)		r	r	r	
	ササノハベラ (12~20)		r	r	r	
	ウミタナゴ (5~12)			c		
	メジナ (15~25)			cc		
	コブダイ (15~30)			r		
	クロダイ (15~30)			r		
	スズメダイ (8~10)			cc	r	
	クジメ (12~15)			r		
	カサゴ (8~20)			r		
	マダコ (15)		rr			
その他	出現種類数 (11)	1	3	9	3	-

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成20年 8月 3日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名		基質 ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫 砂
魚類	スズメダイ (8~10)		r			
	キュウセン (10~20)		r			
	アイナメ (15~20)		r	r		
	カサゴ (12~18)		r	r		
	ウミタナゴ (10~12)			r		
	メバル (8~12)			r		
	テンジクダイ (7)					rr
その他	マダコ (15~20)			r	r	
出現種類数 (8)		-	4	5	1	1

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成20年 8月 3日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8
種類名		基質 矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂
魚類	ナベカ (6)	rr			
	クサフグ (3~6)	rr			
	ネズボ科 (5~8)			cc	r
	ハゼ科 (5~7)			r	c
	マダイ (5)			rr	
	キュウセン (8~12)			r	
	カレイ科 (5)			r	
	アナハゼ (8)				rr
その他	マダコ (5~20)			rr	rr
出現種類数 (9)		2	-	6	4

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3 (5) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平成20年 8月 4日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名		基質 ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	クロダイ (35~40)		r			
	ウミタナゴ (12)		rr	rr		
	メバル (7~10)		r	rr	rr	
	クジメ (18)				r	
	キュウセン (17~20)				r	
	スズメダイ (10~12)				r	
	コブダイ (20)					rr
出現種類数 (7)		-	3	2	4	1

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3 (6) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平成20年 8月 4日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
基質		ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類					
	キュウセン (17~23)		r	r	r	
	クロダイ (20~35)		r			
	スズキ (40~65)		c			
	イシダイ (10)		r			
	カワハギ (8)		rr			
	メバル (5~7)		r	r	rr	
	スズメダイ (10~12)			c	r	
	ササノハベラ (15~17)			r	rr	
	クジメ (23)				r	
	ウミタナゴ (6~8)				r	
出現種類数 (10)		-	6	4	6	-

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3 (7) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平成20年 8月 4日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類					
	ウミタナゴ (11~13)		rr	r		
	クロダイ (30)		rr			
	マアジ (7)		cc			
	ウマヅラハギ (11)		rr			
	アイゴ (7~8)		r	c		
	キュウセン (18~20)		r	r	r	
	メバル (5~8)			r	rr	
	ササノハベラ (17)			rr	rr	
	キジハタ (35)				rr	
	クジメ (23)				rr	
出現種類数 (10)		-	6	5	5	-

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表3-2-3 (8) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成20年 8月 4日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類					
	イサキ (13)		r	r		
	クロダイ (30~35)		c	r		
	スズメダイ (10~12)		r	r		
	ウミタナゴ (7~10)		r		r	
	メジナ (10)		c			
	クジメ (13~17)		r		rr	
	ボラ (40)			c		
	メバル (5~10)			r	cc	
	キュウセン (16~20)			rr	rr	
出現種類数 (9)		-	6	6	4	-

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 3-2-3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成20年 8月 4日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名						
魚類	イシダイ (10)		rr			
	クロダイ (25~30)		r			
	キュウセン (17~20)			r	rr	
	ウマツラハギ (12)			rr		
	メバル (5~8)			r	rr	
	クジメ (17)				rr	
出現種類数 (6)		-	2	3	3	-

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 粹取り採取および分析

神戸沖処分場および大阪沖処分場において実施した植物の粹取り分析結果を表3-2-4、動物の粹取り分析結果を表3-2-5に示した。

① 植物

A. 神戸沖処分場

A-2では、上層から下層で7~10種類が出現し、総湿重量は15.08~41.87g/0.25m²であった。種類数と湿重量はともに下層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層と中層では緑藻綱のアオサ属がそれぞれ全体の64%と58%、下層では紅藻綱のカバノリが全体の68%を占めた。

C. 大阪沖処分場

C-2では、上層から下層で4~15種類が出現し、総湿重量は0.10~16.43g/0.25m²であった。種類数は下層で多く、上層で少なかったが、湿重量は上層で多く、中層で少なかった。

優占種をみると、上層ではアオサ属が全体のほぼ100%を、中層では緑藻綱のシオグサ属が全体の40%を、下層では紅藻綱のススカケベニが全体の35%を占めた。

表3-2-4 粹取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L.±0.0m)	中 (M.W.L.-2.0m)	下 (M.W.L.-4.0m)
神戸沖 A-2 (8月3日)	出現種類数	7	8	10
	総湿重量 (g/0.25m ²)	15.08	32.46	41.87
	優占種 第1位	アサ属 9.58 (64)	アサ属 18.91 (58)	カノリ 28.61 (68)
	第2位	アサ属 4.10 (27)	タマハキモク 9.44 (29)	マサ 4.05 (10)
	第3位	Lyngbya sp. 0.91 (6)	シオグサ属 2.44 (8)	アサ属 4.04 (10)
大阪沖 C-2 (8月4日)	出現種類数	4	7	15
	総湿重量 (g/0.25m ²)	16.43	0.10	3.27
	優占種 第1位	アサ属 16.40 (100)	シオグサ属 0.04 (40)	ススカケベニ 1.14 (35)
	第2位	アサ属 0.03 (-)	アサ属 ケイ'ス 0.02 (20)	タマハキモク 1.07 (33)
	第3位	シオグサ属 Lyngbya sp. + (-)		シダモク 0.23 (7)

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

A-2では、上層から下層で32～76種類が出現し、総個体数は944～10,068個体/0.25m²、総湿重量33.04～316.61g/0.25m²であった。種類数、個体数および湿重量はいずれも中層で多く、上層で少なかった。

優占種をみると、上層では、個体数において軟体動物門のムラサキガイが全体の60%、湿重量において軟体動物門のイボニシが全体の66%を占め最も多かった。中層では、環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが、個体数において全体の33%、湿重量において全体の25%を占め最も多かった。下層では、個体数において節足動物門のオサテワレカラが全体の40%、湿重量において棘皮動物門のイトマキヒトデが全体の67%を占め最も多かった。

C. 大阪沖処分場

C-2では、上層から下層で27～65種類が出現し、総個体数は1,631～9,825個体/0.25m²、総湿重量80.81～170.67g/0.25m²であった。種類数は下層で多く、上層で少なかった。また、個体数は上層で、湿重量は中層で多く、個体数と湿重量ともに下層で少なかった。

優占種をみると、上層では、節足動物門のイワフジツボが個体数において全体の89%、湿重量において全体の97%を占めた。中層では、エゾカサネカンザシゴカイが個体数において全体の65%、湿重量において全体の57%を占め最も多かった。下層では、個体数においてエゾカサネカンザシゴカイが全体の30%、湿重量において環形動物門の*Thelepus* sp.が全体の22%を占め最も多かった。

表3-2-5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L.±0.0m)	中 (M.W.L.-2.0m)	下 (M.W.L.-4.0m)
神戸沖 A-2 (8月3日)	出現種類数(種類)	32	76	63
	総個体数 (個体/0.25m ²)	944	10,068	1,347
	総湿重量 (g/0.25m ²)	33.04	316.61	94.71
	個体数 からみた			
	第1位	ムラサキガイ 569 (60)	エゾカサネカンザシゴカイ 3,328 (33)	オサテワレカラ 535 (40)
	第2位	マユウワカラ 118 (13)	トノガシメ 1,776 (18)	オサテワレカラ 159 (12)
	優占種	第3位	ムラサキガイ 72 (8)	ムラサキガイ 114 (8)
	湿重量	第1位	イボニシ 21.91 (66)	イトマキヒトデ 63.48 (67)
	からみた	第2位	イワフジツボ 7.93 (24)	オサテワレカラ 12.14 (13)
	優占種	第3位	ムラサキガイ 1.28 (4)	イトマキヒトデ 4.61 (5)
大阪沖 C-2 (8月4日)	出現種類数(種類)	27	62	65
	総個体数 (個体/0.25m ²)	9,825	5,447	1,631
	総湿重量 (g/0.25m ²)	152.44	170.67	80.81
	個体数 からみた			
	第1位	イワフジツボ 8,708 (89)	エゾカサネカンザシゴカイ 3,552 (65)	エゾカサネカンザシゴカイ 488 (30)
	第2位	マユウワカラ 305 (3)	カサネカンザシゴカイ 236 (4)	ムラサキガイ 218 (13)
	優占種	第3位	ムラサキガイ 264 (3)	<i>Thelepus</i> sp. 214 (13)
	湿重量	第1位	イワフジツボ 147.28 (97)	<i>Thelepus</i> sp. 17.42 (22)
	からみた	第2位	イボニシ 3.62 (2)	ムラサキガイ 13.77 (17)
	優占種	第3位	シロカサネ 0.34 (-)	エゾカサネカンザシゴカイ 13.52 (17)

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

第4章 秋季調査結果

1. 調査実施日

- (1) 神戸沖処分場 平成20年11月 2日
- (2) 尼崎沖処分場 平成20年11月 7日
- (3) 大阪沖処分場 平成20年11月10日
- (4) 泉大津沖処分場 平成20年11月16日

2. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表4-1-1に示した。

① 神戸沖処分場

調査当日の天気は晴、雲量は5~6、気温は16.6~22.0℃、風浪階級は1、風速は2.5~6.7 m/sで風向は北東のち西であった。透明度は4.0~5.2m、水色は全地点ともボトルグリーンであった。

② 尼崎沖処分場

調査当日の天気はくもり、雲量は10、気温は20.0℃、風浪階級は1、風速は1.0~2.4m/sで風向は南のち南西であった。透明度は2.3~3.2m、水色はすべての調査地点で黒緑であった。

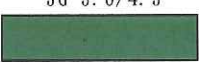
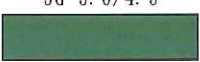
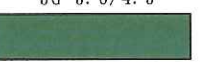
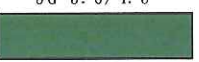
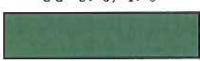
③ 大阪沖処分場

調査当日の天気は晴れのちくもり、雲量は8~10、気温は15.5~17.0℃、風浪階級は1~2、風速は2.0~3.1m/sで風向は北北西のち北北東であった。透明度は5.0~5.5m、水色はすべての調査地点でボトルグリーンであった。

④ 泉大津沖処分場

調査当日の天気は雨のちくもり、雲量は10、気温は17.2~18.3℃、風浪階級は1、風速は0.0~1.2m/sで風向は北北東のち北東であった。透明度は2.9~3.2m、水色はすべての調査地点でボトルグリーンであった。

表 4 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (11月2日)	調査地点	A-2	A-4	A-5	A-7
	調査時間	12:30~12:55	9:07~10:00	10:27~11:00	11:15~11:40
	天気・雲量	晴・6	晴・5	晴・5	晴・5
	気温	22.0℃	16.6℃	21.5℃	22.0℃
	風浪階級	1	1	1	1
	風速・風向	5.2m/s・西	2.5m/s・北東	2.8m/s・南西	6.7m/s・西
	透明度	4.8m	4.0m	5.2m	5.0m
	水色	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 
	水深	17.2m	17.2m	12.2m	10.2m
尼崎沖 (11月7日)	調査地点	B-1	B-2	/	/
	調査時間	10:39~11:00	10:17~10:35		
	天気・雲量	くもり・10	くもり・10		
	気温	20.0℃	20.0℃		
	風浪階級	1	1		
	風速・風向	2.4m/s・南西	1.0m/s・南		
	透明度	2.3m	3.2m		
	水色	黒緑 3G 2.0/1.5 	黒緑 3G 2.0/1.5 		
	水深	9.4m	10.0m		
大阪沖 (11月10日)	調査地点	C-1	C-2	C-3	/
	調査時間	10:00~10:50	10:59~11:30	12:47~13:01	
	天気・雲量	晴・8	くもり・10	くもり・10	
	気温	15.5℃	16.5℃	17.0℃	
	風浪階級	1	1	2	
	風速・風向	2.0m/s・北北西	3.1m/s・北北東	2.5m/s・北北東	
	透明度	5.5m	5.5m	5.0m	
	水色	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	
	水深	15.1m	12.5m	9.7m	
泉大津沖 (11月16日)	調査地点	D-2	D-5	D-6	/
	調査時間	10:45~10:55	8:40~9:11	12:20~12:38	
	天気・雲量	雨・10	雨・10	くもり・10	
	気温	17.2℃	17.2℃	18.3℃	
	風浪階級	1	1	1	
	風速・風向	1.0m/s・北東	1.2m/s・北北東	calm	
	透明度	2.9m	3.2m	2.9m	
	水色	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	ボトクグリーン 3G 3.0/4.5 	
	水深	13.1m	13.1m	12.6m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表4-1-2に、鉛直分布図を図4-1-2(1)～(4)に示した。

① 神戸沖処分場

神戸沖処分場の水温は19.2～21.7℃、塩分は29.7～32.6、DOは3.9～10.5mg/L、相対光量は0.0～94.3% (光量子束密度0.7～1594.0 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)の範囲であった。各調査地点の水温と塩分の範囲にはほとんど差がみられなかったが、DOの最低値はA-4でやや高い値を示した。相対光量の最高値には大きな差がみられ、A-7で高く、A-4で低かった。

鉛直分布をみると、水温は4地点とも深くなるにつれて徐々に高くなる傾向がみられ、特にA-7では水深0～1mで上昇が顕著であった。塩分も4地点とも深くなるにつれて徐々に上昇する傾向がみられたが、A-7では表層においても塩分がやや高かった。DOは4地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられ、特にA-2、7では水深2～4mで減少が顕著であった。相対光量は4地点とも底層にかけて減少した。相対光量はA-2、4、5では水深11mで1%未満となったが、A-7では水深が浅く底層でも1%あった。

② 尼崎沖処分場

尼崎沖処分場の水温は20.3～22.2℃、塩分は29.4～32.3、DOは0.7～8.7mg/L、相対光量は0.3～77.6% (光量子束密度1.8～416.8 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)の範囲であった。各調査地点の水温、塩分および相対光量の範囲にはほとんど差がみられなかったが、DOの最低値はB-1でやや低い値を示した。

鉛直分布をみると、水温は2地点とも深くなるにつれて徐々に高くなる傾向がみられた。塩分も2地点とも深くなるにつれて上昇する傾向がみられ、特にB-1では水深2～3mで上昇が顕著であった。DOは2地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられ、特にB-1では水深1～3mで減少が顕著であった。相対光量は2地点とも底層にかけて減少し、減衰傾向はほぼ同じであった。相対光量はB-1では水深7mで、B-2では水深8mで1%未満となった。

③ 大阪沖処分場

大阪沖処分場の水温は16.0～21.5℃、塩分は30.0～32.6、DOは5.4～7.8mg/L、相対光量は0.3～87.5% (光量子束密度2.8～875.6 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)の範囲であった。各調査地点の塩分の範囲にはほとんど差がみられなかったが、水温の最低値はC-2で高く、DOの最高値はC-3でやや高く、相対光量の最高値はC-1で高かった。

鉛直分布をみると、水温は3地点とも深くなるにつれて高くなる傾向がみられたが、特にC-1、3の水深0～0.5mで上昇が顕著であった。塩分は3地点とも水深1～4mでやや低い値を示し、以深では徐々に上昇する傾向がみられた。DOは3地点とも深くなるにつれて緩やかに減少し、C-3の表層ではやや高い値を示した。相対光量はC-1の表層でやや高い値を示したが、3地点とも深くなるにつれて減少し、減衰傾向はほぼ同じであった。相対光量はC-1の水深11mで1%未満となったが、C-2、3では水深が浅く底層でも2%以上あった。

④ 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の水温は 19.7～20.1℃、塩分は 27.2～32.3、DO は 6.1～8.1mg/L、相対光量は 0.4～89.1% (光量子束密度 0.6～319.5 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$) の範囲であった。各調査地点の水温と DO の範囲にはほとんど差がみられなかったが、塩分の最低値は D-6 で、相対光量の最低値は D-5 で低かった。

鉛直分布をみると、水温は 3 地点とも表層から底層までほぼ一様であった。塩分も D-6 の水深 0m では低かったが、このほかでは表層から底層までほぼ一様であった。DO は D-6 では深くなるにつれて徐々に減少したが、D-2、5 では表層から底層までほぼ一様であった。相対光量は D-2 の表層でやや低い値を示したが、3 地点とも底層にかけて減少し、減衰傾向はほぼ同じであった。相対光量は D-2、6 の水深 10m で、D-5 の水深 12m で 1% 未満となった。

表 4-1-2 水質測定結果概要表

調査地点 \ 項目 (単位)		水温 (℃)	塩分 (-)	DO (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
神戸沖	A-2	20.2 ~ 21.7	29.7 ~ 32.4	4.8 ~ 10.2	0.0 ~ 66.5	1.0 ~ 1331.0
	A-4	20.1 ~ 21.7	30.2 ~ 32.6	6.5 ~ 10.5	0.1 ~ 21.6	0.7 ~ 134.9
	A-5	20.5 ~ 21.2	30.8 ~ 31.6	3.9 ~ 9.2	0.8 ~ 43.4	15.8 ~ 824.6
	A-7	19.2 ~ 21.5	30.5 ~ 32.2	4.8 ~ 8.3	1.0 ~ 94.3	17.5 ~ 1594.0
尼崎沖	B-1	20.7 ~ 22.2	29.4 ~ 32.3	0.7 ~ 8.7	0.3 ~ 77.6	1.9 ~ 416.8
	B-2	20.3 ~ 22.0	30.1 ~ 32.3	1.3 ~ 6.6	0.4 ~ 74.1	1.8 ~ 314.9
大阪沖	C-1	16.0 ~ 21.4	31.0 ~ 32.6	5.4 ~ 6.9	0.3 ~ 87.5	2.8 ~ 875.6
	C-2	18.7 ~ 21.5	31.1 ~ 32.6	6.2 ~ 6.8	2.3 ~ 59.5	8.3 ~ 212.7
	C-3	16.6 ~ 21.4	30.0 ~ 32.6	5.6 ~ 7.8	2.3 ~ 59.0	14.4 ~ 363.4
泉大津沖	D-2	19.7 ~ 20.0	32.1 ~ 32.3	6.8 ~ 8.1	0.4 ~ 58.1	2.5 ~ 319.5
	D-5	20.0 ~ 20.1	32.1 ~ 32.2	6.3 ~ 6.8	1.0 ~ 89.1	0.6 ~ 55.3
	D-6	19.8 ~ 20.1	27.2 ~ 32.2	6.1 ~ 7.8	0.7 ~ 88.1	2.6 ~ 319.1

調査場所：神戸沖処分場
調査日：平成20年11月2日

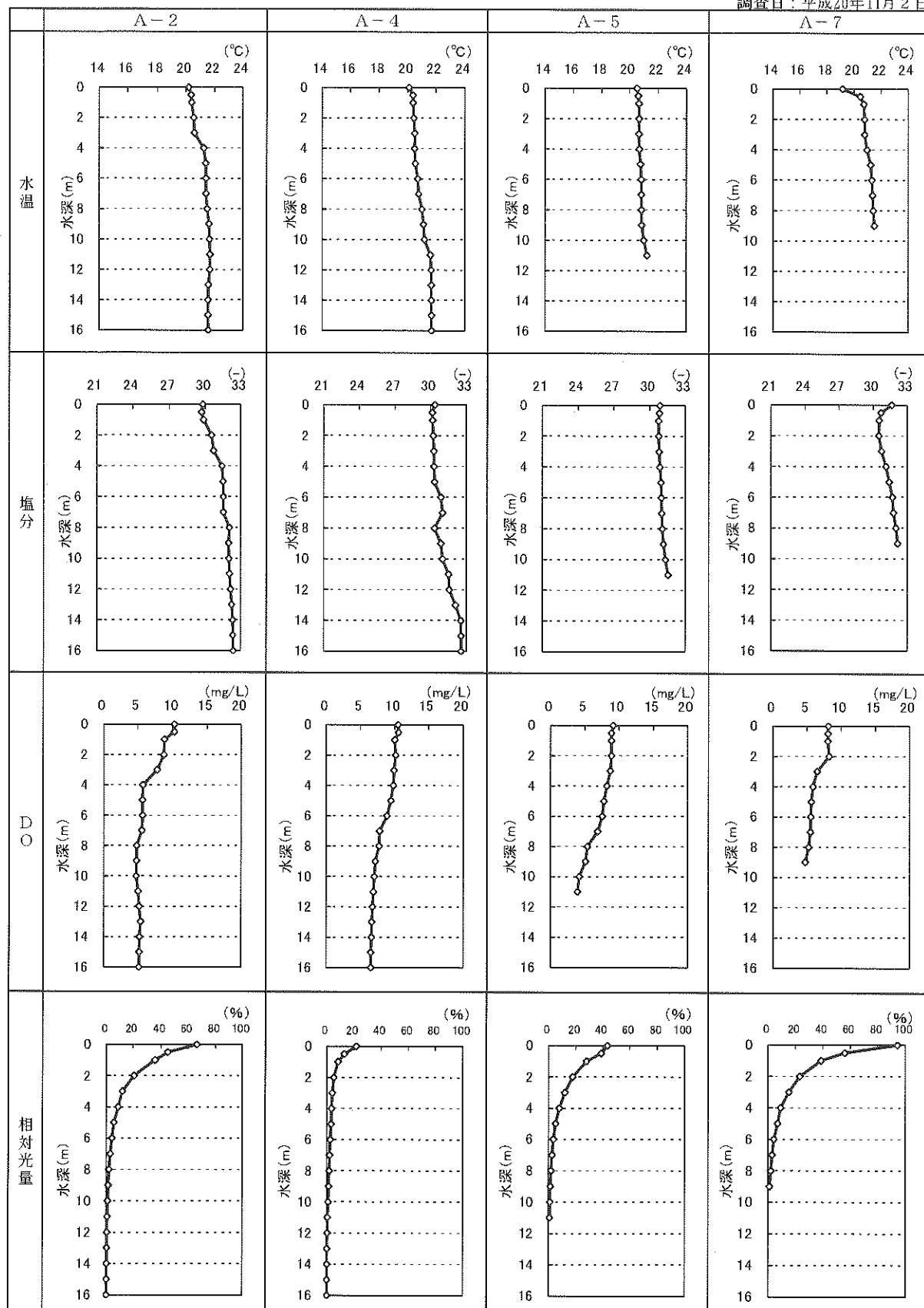


図4-1-2 (1) 水質の鉛直分布

調査場所：尼崎沖処分場
調査日：平成20年11月7日

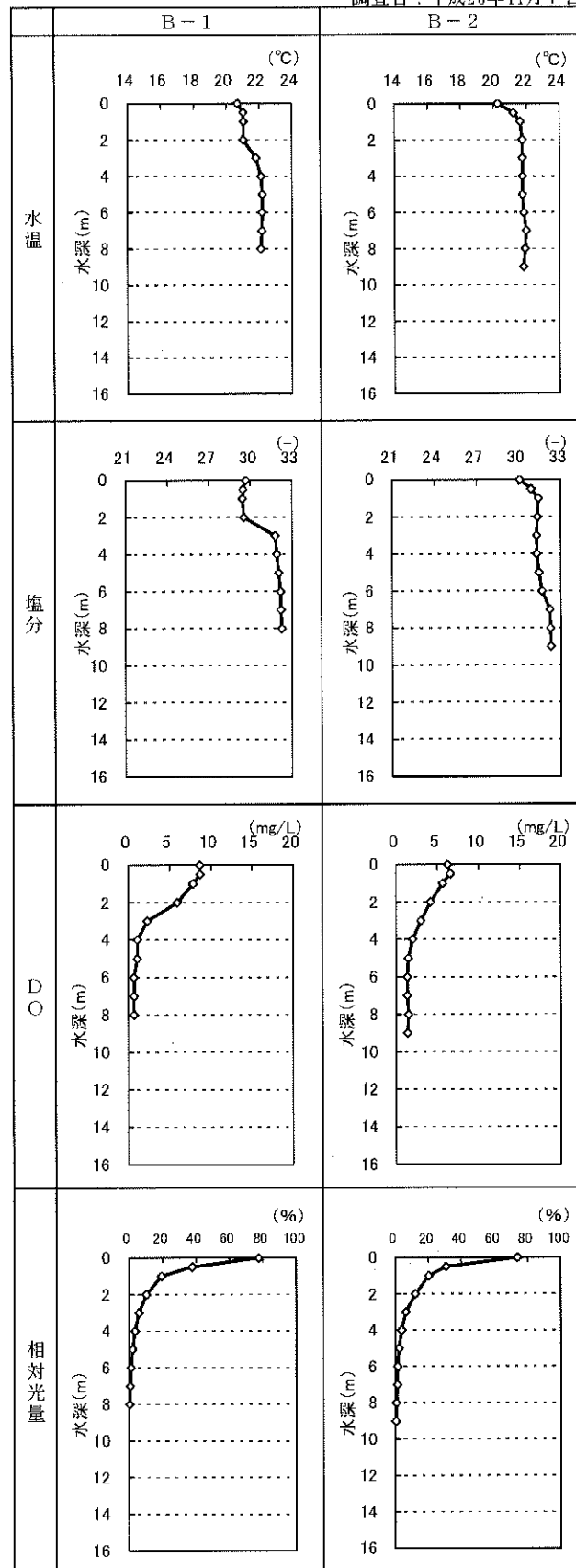


図4-1-2(2) 水質の鉛直分布

調査場所：大阪沖処分場
調査日：平成20年11月10日

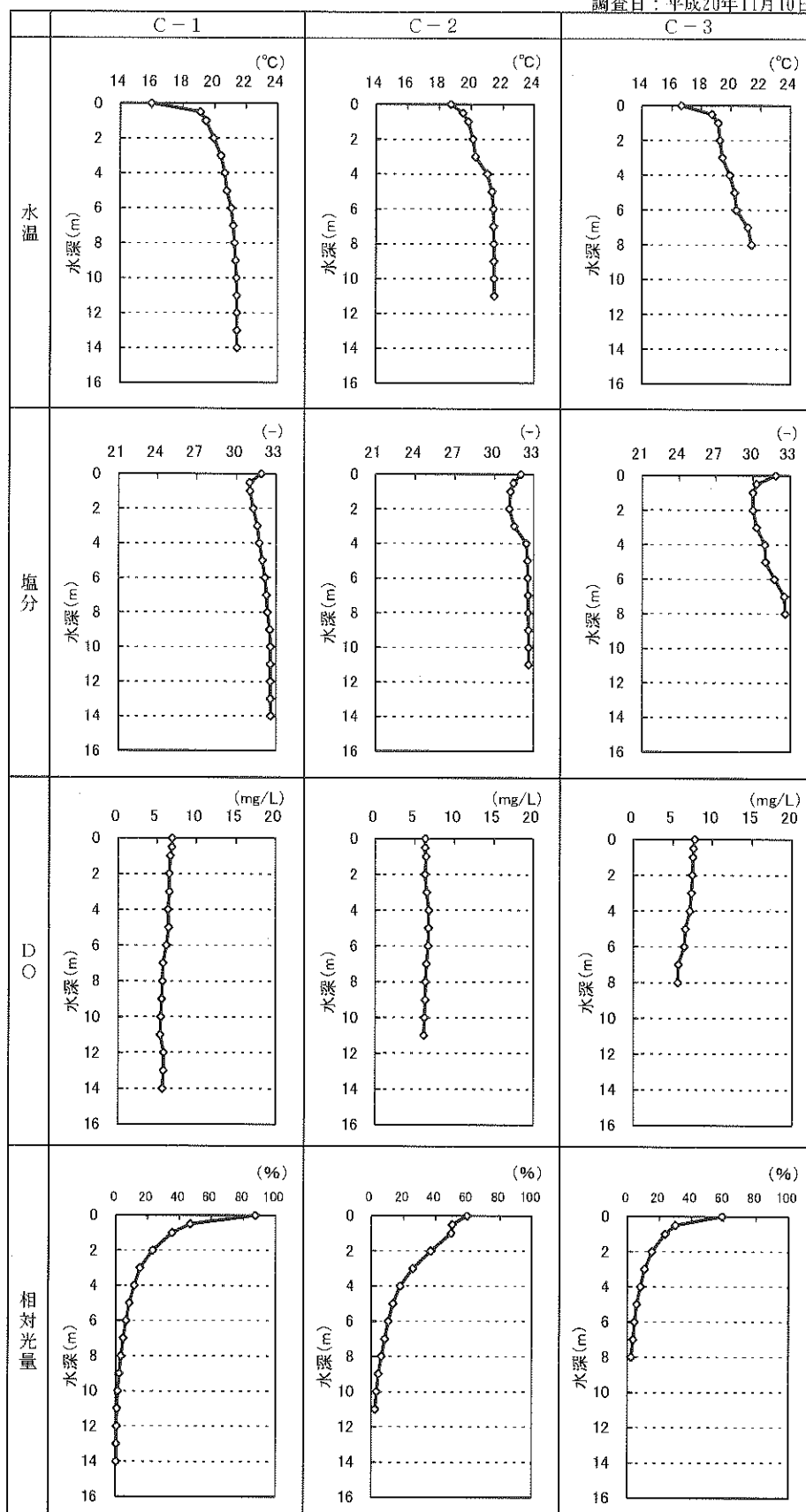


図4-1-2(3) 水質の鉛直分布

調査場所：泉大津沖処分場
調査日：平成20年11月16日

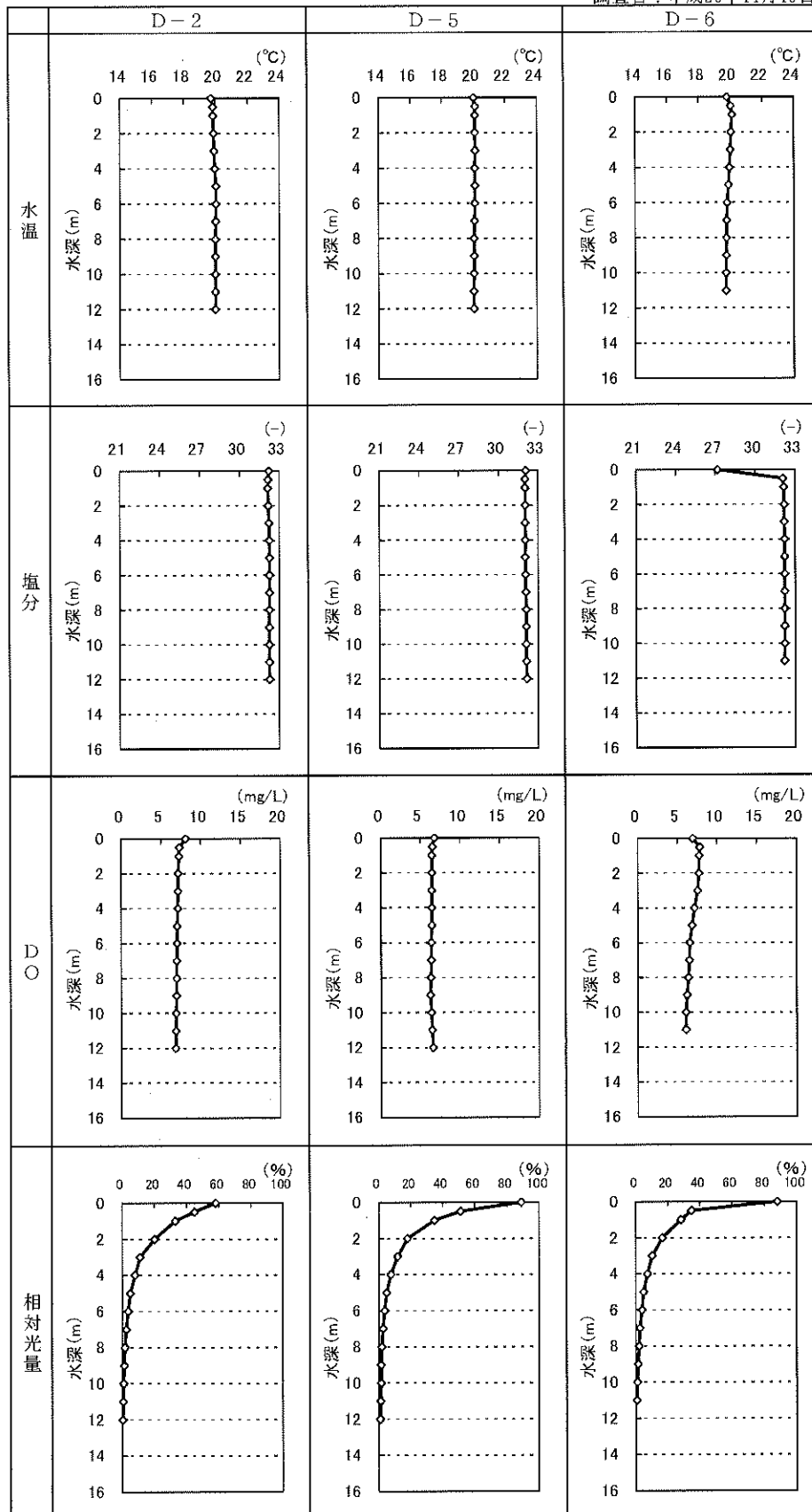


図4-1-2 (4) 水質の鉛直分布

3. 生物調査

(1) 目視観察

① 植物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の植物の目視観察結果を表4-2-1(1)～(4)に示す。

調査地点A-2では、植物は平均海面+1～-7mに分布し、15種類が確認された。種類数が多かったのは-2mと-4mで6種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-1mで緑藻綱のアオサ属が50～80%であった。藻場構成種は-1～2mで褐藻綱のタマハハキモクが5%未満で確認された。

調査地点A-4では、植物は±0～-6mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは-1mで7種類であった。被度30%以上の種類は、±0mでアオサ属が30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点A-5では、植物は±0～-2mと-4～7mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは-5～6mで4種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類はアオサ属や紅藻綱のイワノカワ科で10%であった。また、藻場構成種も確認されなかった。

調査地点A-7では、植物は+1～-1mと-4～5mに分布し、5種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで2種類であった。被度30%以上の種類はなく、アオサ属や紅藻綱のフダクなどが被度5%未満でみられた程度であった。また、藻場構成種も確認されなかった。

B. 尼崎沖処分場

尼崎沖処分場において実施した植物の目視観察結果を表4-2-1(5)～(6)に示す。

尼崎処分場では、調査地点B-1、2ともに植物は確認されなかった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の植物の目視観察結果を表4-2-1(7)～(11)に示す。

調査地点C-1では、植物は平均海面±0～-7mに分布し、9種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-3mで藻場構成種である褐藻綱のシダモクが30%であった。藻場構成種はこのほかに-3mでタマハハキモクが5%未満～15%で確認された。

調査地点C-2では、植物は-1～8mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは-1mと-4mで6種類であった。被度30%以上の種類は、-1mでアオサ属が65%、-3mで藻場構成種であるシダモクが50%であった。藻場構成種はこのほかに-4mでタマハハキモクが5%未満、シダモクが20%で確認された。

調査地点C-3では、植物は±0～-9mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで9種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-1mでアオサ属が35～40%であった。藻場構成種を示すと、-1～3mでタマハハキモクが5%以下で、-1

mでシダモクが5%未満で確認された。

調査地点C-4では、植物は±0～-9mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは-2～3mと-8mで4種類であった。被度30%以上の種類は±0～-1mでアオサ属が55～60%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点C-5では、植物は±0mと-2～6mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで5種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類は-3mでアオサ属が25%であった。藻場構成種は確認されなかった。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の植物の目視観察結果を表4-2-1(12)～(15)に示す。

調査地点D-2では、植物は平均海面±0～-9mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは-1～2mで4種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類は、-1～2mで珪藻綱が20%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点D-3では、植物は±0～-3mと-7～9mに分布し、7種類が確認された。種類数が多かったのは±0mで5種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで緑藻綱のアオノリ属が30%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点D-5では、植物は壁面の+1～-1mに分布し、4種類が確認されたが、遊水室内では確認されなかった。種類数が多かったのは、壁面の+1～±0mで4種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類は、+1～±0mでアオサ属が20%であった。藻場構成種は確認されなかった。

調査地点D-6では、植物は壁面の+1～-5mに分布し、4種類が確認されたが、遊水室内では確認されなかった。種類数が多かったのは、壁面の+1～±0mで4種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類は、±0～-2mで珪藻綱が20%であった。藻場構成種は確認されなかった。

表4-2-1(1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成20年11月2日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂 小礫
緑藻綱	アオサ属	10	50	80	10	+	+						
	アオノリ属	+											
褐藻綱	シオグサ属			+	+	+							
	タマハハキモク			+	+								
紅藻綱	ツノマタ		+										
	フダラク			+									
	コスジフシツナギ			+	+								
	オキツノリ				+								
	イギス科				+	+	+	+					
	マクサ					20	+	+					
	ムカデノリ属					+							
	イワノカワ科						+	+	+	+			
	カバノリ						+	+	+				
	ススカケベニ						+	+	+				
珪藻綱	珪藻綱	+											
出現種類数(15)		3	2	5	6	5	6	5	4	1	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表4-2-1(2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成20年11月2日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂 小礫
緑藻綱	シオグサ属		+	+	+	+							
	アオサ属		30	10	+	+	+						
紅藻綱	ツノマタ属		+	+									
	コスジフシツナギ		+	+	+								
	フダラク		+	+	+	+	+						
	イギス科			+	+	10	+						
	サビ亜科						+						
	マクサ						+	+	+				
	カバノリ							+	+				
	ススカケベニ							+	+				
	イワノカワ科							+					
	藍藻綱			+	+								
出現種類数(13)		-	5	7	6	4	4	5	3	-	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表4-2-1(3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-5)

平成20年11月2日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂 大礫
緑藻綱	アオサ属		10	10	+								
	シオグサ属			+	+								
紅藻綱	フダラク			+									
	サビ亜科						+	+	+	+			
	イワノカワ科						10	+	+				
	イギス科						+	+	+				
	ススカケベニ							+	+				
	珪藻綱												
	出現種類数(7)	-	1	3	2	-	3	4	4	1	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表4-2-1(4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-7)

平成20年11月2日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
基質		ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂
緑藻綱	アオサ属		+								
	フダラク			+							
紅藻綱	カバノリ						+	+			
	ススカケベニ						+				
珪藻綱	珪藻綱	+									
出現種類数(5)		1	1	1	-	-	2	1	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表4-2-1(5) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-1)

平成20年11月7日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン
		出現なし						

表4-2-1(6) 植物の目視観察結果 尼崎沖処分場(B-2)

平成20年11月7日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
		出現なし								

表4-2-1(7) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成20年11月10日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	アオサ属		5	+			+	+	+	+					
	タマハハキモク						15	+							
	シダモク						5	30	15	+					
	イギス科			+	5		+	15	+		+	+			
	イワノカワ科						5	+	+	+	+				
	ムカデノリ						+								
	ススカケベニ											+	+		
	藍藻綱		5		+	5									
	珪藻綱				+	15	+		5						
	出現種類数(9)	-	2	2	3	2	7	5	5	3	4	2	-	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表4-2-1(8) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成20年11月10日

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	アオサ属			65	+	+							
	タマハハキモク			+			+						
	シダモク					50	20						
	イギス属			+									
	フダラク			+									
	ツノマタ属			+									
	イワノカワ科			+			10	5	+		5		
	ススカケベニ				+	+	+	+	+	+	+		
	ムカデノリ						+						
	イギス科				15	+	+						
	出現種類数(10)	-	-	6	4	4	6	2	2	1	2	-	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 4-2-1 (9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平均海面 (m)		平成20年11月10日										
種類名	基質	+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		40	35	+	+	+	+				
	シオグサ属				+	+	+					
褐藻綱	タマハハキモク			3	+	+						
	フクロノリ			+	+							
紅藻綱	シダモク			+								
	イギス属			15	5	+						
	フシソコモ属			+	5							
	ツノマダ属			+	+							
	ムカデノリ			+	+							
	イワノカワ科				+	+						
	イギス科					+	+	+	+	+	+	+
	ススカケベニ					+	+	+	+	+	+	+
出現植物数 (12)		-	1	7	9	7	3	3	2	2	2	2

注: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 4-2-1 (10) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平均海面 (m)		平成20年11月10日										
種類名	基質	+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		60	55	10	+	+					
	シオグサ属				+	+	+					
紅藻綱	ツノマダ属			+								
	イギス科				+	15		5	+	+	+	
	カバノリ				+	+	5	+	+	+	+	
	ススカケベニ							+	+	+	+	+
	タオヤギソウ										+	+
	出現植物数 (7)	-	1	2	4	4	3	3	3	3	4	2

注: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 4-2-1 (11) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平均海面 (m)		平成20年11月10日											
種類名	基質	+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	
緑藻綱	アオサ属		+		+	25	15	5	+				
	シオグサ属				+	+	+						
褐藻綱	タマハハキモク				+								
	イギス科				+	+	+	+		+	+		
紅藻綱	ススカケベニ							+	+	+			
	ムカデノリ属							+	+	+			
珪藻綱	珪藻綱							+	+	+			
出現植物数 (7)		-	1	-	4	2	3	5	2	3	-	-	

注: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 4-2-1 (12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平均海面 (m)		平成20年11月16日														
種類名	基質	+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+	+												
	シオグサ属			10												
紅藻綱	フダラク			+	+											
	ムカデノリ属				+											
	オオバツノマダ				+											
	カバノリ						+	+	10	+	+	+				
	イギス科							+	+	+						
	マクサ								+							
	ススカケベニ								+							
出現植物数 (10)		-	2	20	20	10	+		3	5	1	1	-	-	-	-

注: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 4-2-1 (13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成20年11月16日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	アオサ属		10	+												
	アオノリ属		30													
	シオグサ属		+													
	イトグサ属		10													
	イギス科									10	+	+				
	カバノリ									+	+					
	藍藻綱		+	+	+	+										
出現種数 (7)		-	5	2	1	1	-	-	-	2	2	1	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 4-2-1 (14) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成20年11月16日

観察場所		エコ岸壁												
平均海面 (m)		壁面							遊水室					
		+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
部位	基質または	網金網	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
種類名														
	緑藻綱	アオサ属	20											
	紅藻綱	ムカデノリ	+											
		フダタク	+	+										
	藍藻綱	藍藻綱	+											
出現種数 (4)		4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表 4-2-1 (15) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成20年11月16日

観察場所		エコ岸壁												
		壁面							遊水室					
平均海面 (m)		+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
種類名	基質または部位	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑藻綱	アオサ属	+	+											
	アオノリ属	10	+	+										
藍藻綱	藍藻綱	+												
珪藻綱	珪藻綱	+	20	20	+	+	+							
出現種数数 (4)		4	3	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の動物の目視観察結果を表4-2-2(1)～(4)に示す。

調査地点A-2では、動物は平均海面+1～-9mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-1mで8種類であった。被度30%以上の種類は、+1mで節足動物門のイワフジツボが30%、-2～3mで環形動物門のカンザシゴカイ科が30～80%、-4～6mで節足動物門のサンカクフジツボが30～40%であった。個体数で一桝(0.25m²)あたりに最も多かった種類は、-4mで棘皮動物門のイトマキヒトデが9個体であった。

調査地点A-4では、動物は+1～-10mに分布し、20種類が確認された。種類数が多かったのは±0mで9種類であった。被度30%以上の種類は、+1mでイワフジツボが30%、-1～2mでカンザシゴカイ科が70～80%、-3～4mでサンカクフジツボが40%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mで軟体動物門のアラレタマキビが140個体であった。

調査地点A-5では、動物は+1～-9mに分布し、22種類が確認された。種類数が多かったのは-1mで9種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで節足動物門のイワフジツボが30%、-1mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが30%、-1～2mでカンザシゴカイ科が70～90%、-3mと-5mでサンカクフジツボが30%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが50個体であった。

調査地点A-7では、動物は+1～-7mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで10種類であった。被度30%以上の種類は、-1mでサンカクフジツボが30%、-2mでチギレイソギンチャクが30%、-2～3mでカンザシゴカイ科が30～90%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが40個体、-1mと-3mでイトマキヒトデがそれぞれ16個体と28個体であった。

B. 尼崎沖処分場

尼崎沖処分場の動物の目視観察結果を表4-2-2(5)～(6)に示す。

調査地点B-1では、動物は平均海面+1～-5mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-1～3mで軟体動物門のミドリイガイが40～90%、-5mで原索動物門のホヤ綱(群体性)が35%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが35個体、±0mで軟体動物門のイボニシが47個体であった。

調査地点B-2では、動物は+1～-7mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-1～4mでミドリイガイが45～70%、-3～4mでチギレイソギンチャクが65～85%、-5～6mでホヤ綱(群体性)が50～85%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが24個体、±0mでイボニシが38個体であった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の動物の調査結果を表4-2-2 (7) ~ (11) に示す。

調査地点C-1では、動物は平均海面+1~-10mに分布し、23種類が確認された。種類数が多かったのは±0mで10種類であった。被度30%以上の種類は、-1~4mでカンザシゴカイ科が40~100%、-5~6mで泥巣が40~50%であった。一桝あたりの個体数が10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが63個体であった。

調査地点C-2では、動物は+1~-10mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-2~3mでカンザシゴカイ科が90~100%、-5~7mで泥巣が40~85%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでタマキビが20個体、アラレタマキビが47個体であった。

調査地点C-3では、動物は+1~-9mに分布し、22種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-2mでカンザシゴカイ科が35%、-5mで泥巣が30%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでタマキビが21個体、アラレタマキビが40個体であった。

調査地点C-4では、動物は+1~-9mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-3mで6種類であった。被度30%以上の種類は、-3mでカンザシゴカイ科が80%、-5mでサンカクフジツボが45%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが53個体、タマキビが18個体、軟体動物門のカラムツガイが14個体であった。

調査地点C-5では、動物は±0~-9mに分布し、20種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-1~2mでカンザシゴカイ科が100%、-5mで泥巣が30%であった。個体数で一桝あたりの個体数が最も多かった種類は、-5mで棘皮動物門のキヒトデが8個体であった。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の動物の調査結果を表4-2-2 (12) ~ (15) に示す。

調査地点D-2では、動物は平均海面+1~-13mに分布し、21種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-1mでカンザシゴカイ科が30%、-4~5mで泥巣が30~60%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが80個体であった。

調査地点D-3では、動物は+1~-13mに分布し、23種類が確認された。種類数が多かったのは-2~4mで9種類であった。被度30%以上の種類は、-1~5mでカンザシゴカイ科が50~80%、-6~7mで泥巣が30%であった。個体数で一桝あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが180個体、±0mでカラマツガイが11個体であった。

調査地点D-5では、動物は壁面の+1~-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、15種類が確認された。種類数は壁面では14種類、遊水室内では上室において7種類、下室において9種類で、種類数が多かったのは壁面の+1~±0mで10種類であった。被度30%以上の種類は、壁面の+1~-1mで軟体動物門のムラサキイガイが30~40%、-1~5.5mでカンザシゴカイ科が40~80%、遊水室内の上室の側面、下室の上面と側面でカンザシゴカイ科が30~70%、上室の上面でムラサキイガイが60%であった。観察範囲で個体数が最も多かった種類は、遊水室内の下室の下面でイトマキヒトデが8個体であった。

調査地点D-6では、動物は壁面の+1~-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、8種類が確認された。種類数は壁面では8種類、遊水室内では上室において4種類、下室において5種類で、種類数が多かったのは壁面の-2~4m、遊水室内の下室の上面と側面で5種類であった。被度30%以上の種類は、壁面の+1~±0mで軟体動物門のマガキが60%、±0~-5.5mでカンザシゴカイ科が80%、遊水室内の上室の上面と側面、下室の上面と側面でカンザシゴカイ科が60~90%、上室の上面で原索動物門のシロボヤが30%であった。個体数では、計数の対象となる種類が出現しなかった。

表4-2-2(1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成20年11月2日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂小礫
種類名													
海綿動物門	海綿動物門			+									
腔腸動物門	ヒドロ虫綱		+	+									
	チギレイソギンチャク		+	+	+								
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	20	80	30	+	+	+				
触手動物門	コケムシ綱		+	+									
	フサコケムシ科		+	+	+								
軟体動物門	ケガキ	+											
	イボニシ		(3)										
	レイシガイ			(2)	(4)	(2)							
	トゲアメフラシ								(1)		(1)	(1)	
節足動物門	イワフジツボ	30											
	サンカクフジツボ						40	30	30	20	10		
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(1)		(1)	(9)	(2)	(7)	(3)	(1)		
	キヒトデ									(1)			
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)					+							
	エボヤ									+			
出現種数 (16)		2	6	8	4	4	3	3	4	4	3	1	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成20年11月2日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂小礫
種類名													
海綿動物門	海綿動物門		+										
腔腸動物門	チギレイソギンチャク		20	+	10	+							
	ヒドロ虫綱		+	+	+	+							
	イソギンチャク目			+									
	ハナギンチャク科												+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	80	70	20	10	+	+				
触手動物門	フサコケムシ科		+	+									
	コケムシ綱		+	+	+	+	+						
軟体動物門	アラレタマキビ	(140)											
	ベッコウガサ	(1)											
	イボニシ	(1)											
	キクノハナガイ		(2)										
	カラマツガイ		(3)										
	裸鰓目						(2)						
節足動物門	イワフジツボ	30	20										
	サンカクフジツボ					40	40	10	+				
棘皮動物門	キヒトデ							(1)					
	イトマキヒトデ								(1)				
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)					+	+						
	鹿島							+	+	10	20	+	
出現種数 (20)		4	9	6	4	6	6	4	4	1	1	1	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-5)

平成20年11月2日

平均海面 (m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂大礫
種類名													
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		10										
	チギレイソギンチャク		+	30	20	+							
	イソギンチャク目		+	+									
	ヒドロ虫綱			+	+								
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	90	70	20							
	ミズヒキゴカイ科							+					
	ケヤリムシ								+				
触手動物門	フサコケムシ科			+									
	コケムシ綱			+	+								
軟体動物門	カモガイ	(3)											
	タマキビ	(3)											
	コガモガイ	(2)											
	アラレタマキビ	(50)											
	イボニシ		(2)	(3)									
	レイシガイ			(5)	(4)	(3)	(7)						
	サザエ			(1)									
	シマメノウフネガイ					+	+	+					
	コシダカガンガラ						(5)						
節足動物門	イワフジツボ	+	30										
	サンカクフジツボ				+	30	20	30	10	10	10	10	
棘皮動物門	サンショウウニ					(2)	(4)						
	トゲモミジガイ											(1)	
出現種数 (22)		5	6	9	6	6	5	3	2	1	1	2	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 4-2-2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平均海面 (m)		平成20年11月2日									
種類名	基質	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
	ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小磯	小磯	小磯	小磯	小磯	小磯
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+								
	ヒドロ虫綱		10								
環形動物門	チギレイソギンチャク		+	+	30	+					
	カンザシゴカイ科		+	+	90	30	+				
触手動物門	コケムシ綱					+					
軟体動物門	アラレタマキビ	(40)									
	レイシガイ		(1)	(7)	(2)						
	イボニシ		(2)	(3)	(4)						
	ミドリイガイ				+						
節足動物門	イワフジツボ	+	10								
	サンカクフジツボ			30	+	20	+	+			
棘皮動物門	キヒトデ		(1)	(2)	(2)	(4)	(1)				
	イトマキヒトデ			(16)	(4)	(28)	(3)	(2)			
	サンショウウニ			(1)	(1)						
原索動物門	エボヤ					+					
	シロボヤ							+	+	+	
-	海藻					+					
出現種類数 (17)		2	8	9	10	9	4	3	1	1	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 4-2-2 (5) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B-1)

平均海面 (m)		平成20年11月7日							
種類名	基質	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		5						
	チギレイソギンチャク		+	5	10	+	5		
	ヒドロ虫綱		5	+	+	+	5		
	イソギンチャク目							+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	10	+	+		
	ミズヒキゴカイ					+	+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(35)							
	ミドリイガイ		+	90	65	40	25		
	イボニシ		(47)						
	コウロエンカワヒバリガイ		+	15	15				
	マガキ		+	+					
	ムラサキイガイ					+			
	ナミガシワ						+		
	シロボヤ				+	+			
原索動物門	マンハッタンボヤ							+	
	ホヤ綱 (群体性)				5	5	15	35	
	出現種類数 (16)	1	7	6	7	8	7	3	

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 4-2-2 (6) 動物の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B-2)

平均海面 (m)		平成20年11月7日									
種類名	基質	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	
	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		5								
	チギレイソギンチャク		+	10	15	65	85	25	+	+	
	ヒドロ虫綱		10	15					5	+	
	イソギンチャク目										
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+	+	+	+			
	ミズヒキゴカイ					+	+			+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(24)									
	イボニシ		(38)								
	マガキ		5								
	ミドリイガイ		+	60	50	70	45				
	コウロエンカワヒバリガイ		+	+							
	ムラサキイガイ				+						
	シロボヤ			+	+	+					
	カタユウレイボヤ				+		+	+			
原索動物門	マンハッタンボヤ				+						
	ホヤ綱 (群体性)			5	25	+	15	85	50	25	
	出現種類数 (16)	1	7	7	8	6	6	4	3	4	

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(7) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成20年11月10日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	海綿動物門														
腔腸動物門	コケムシ綱		5	+	25	+	+	10	5	+					
	チギレイソギンチャク		+	+	+	+									
	<i>Anthonicea</i> sp.		+	+											
	ヒドロ虫綱			+		+									
	シオガマサンゴ										+	+	+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科		15	90	40	100	70	60	65						
	ウズマキゴカイ科							+							
	ミズヒキゴカイ科							+							
軟体動物門	アラレタマキビ	(63)													
	カラマツガイ		(2)												
	キクノハナガイ		(1)												
	イボニシ		(5)												
	レイシガイ		(3)	(1)											
	コモレビコガモガイ		(1)												
	クロシタナシウミウシ				(1)				(1)						
	コシダカガンガラ						(5)	(1)							
節足動物門	イワフジツボ		+												
	ヤドカリ科			(1)											
	サンカクフジツボ						+	+		+	+	+	+	+	+
原索動物門	ホヤ綱(群体性)			+	+	+		+							
	カタスフレイボヤ					+									
-	底棲			15	15		+	+	+	40	50	5	+		
出現種数(23)		1	10	9	6	6	7	9	6	4	3	4	3	2	1

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
 注2: ()内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(8) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成20年11月10日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	海綿動物門				15	20	5	+					
腔腸動物門	チギレイソギンチャク					+							
	ヒドロ虫綱						+						
	コケムシ綱							+					
	シオガマサンゴ											+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	100	90	25	+	+	+			
	ミズヒキゴカイ						+						
	ウズマキゴカイ科								+				
軟体動物門	タマキビ	(20)											
	アラレタマキビ	(47)											
	ヨメガカサ		(1)										
	レイシガイ				(1)		(1)						
節足動物門	ヤドカリ科			(3)			(1)						
	サンカクフジツボ						+	+	+	+			
棘皮動物門	サンショウウニ						(2)	(1)					
-	底棲			+	20	+	40	40	85		+	+	+
出現種数(16)		2	1	2	4	4	8	6	4	3	1	2	2

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
 注2: ()内の数値は個体数を示す。

表4-2-2(9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

平成20年11月10日

平均海面(m)		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	海綿動物門				5		+		+			
腔腸動物門	チギレイソギンチャク			+	+							
	コケムシ綱					+						
	シオガマサンゴ							+				
環形動物門	カンザシゴカイ科			15	35	20			+	+		
	ミズヒキゴカイ								+			
軟体動物門	タマキビ	(21)										
	アラレタマキビ	(40)										
	ヨメガカサ		(1)									
	コウロエンカウヒバリガイ		10									
	コモレビコガモガイ		(3)									
	ナミマガシワ				+							
	シメノウフネガイ				+							
	レイシガイ							(1)				
節足動物門	イワフジツボ	5										
	アカフジツボ		+									
	ヤドカリ科			(2)	(3)		(1)					
	サンカクフジツボ			+		10	+	+	+			
棘皮動物門	キヒトデ											(1)
原索動物門	ホヤ綱(群体性)			5	+	+						
	エボヤ					+						
-	底棲			+	5	25	15	30	20	20	15	10
出現種数(22)		3	4	6	8	6	4	4	5	3	1	2

注1: 数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
 注2: ()内の数値は個体数を示す。

表4-2-2 (10) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平均海面 (m)		平成20年11月10日										
種類名	基質	+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門					+						
腔腸動物門	コケムシ綱					+		+				
	シオガマサンゴ									+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			15	15	80						
	ミズヒキゴカイ							+				
軟体動物門	アラレタマキビ	(53)										
	タマキビ	(18)										
	カラマツガイ	(14)										
	マガキ		10									
	キクノハナガイ	(1)										
節足動物門	イワフジツボ	+										
	サンカクフジツボ			+	20	10	15	45	15	+	+	+
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(2)	(1)	(5)	(3)		(2)	(1)	(1)	(1)
	キヒトデ							(1)	(2)			(1)
原索動物門	ホヤ綱 (群体系)			+								
-	泥星				+	+	5	+	10	10	10	+
出現種数 (16)		3	3	1	1	6	3	5	1	1	3	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、1は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表4-2-2 (11) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平均海面 (m)		平成20年11月10日										
種類名	基質	+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門				+			+	+	+		
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+									
	チキレイソギンチャク		+	15	+	5	5	+			+	
	コケムシ綱				+				+			
	ヒドロ虫綱							+	+			
	シオガマサンゴ											+
環形動物門	カンザシゴカイ科			100	100	10	15	10	+	+	+	
	ウズマキゴカイ科								+			
腕足動物門	ホウキムシ科									+	+	
軟体動物門	マガキ		10									
	イボニシ	(6)										
	ミドリイガイ			+								
	レイシガイ				(4)							
	ヒメヨウラク							(1)				
節足動物門	イワフジツボ		15									
	サンカクフジツボ							10				
棘皮動物門	キヒトデ						(3)	(8)	(5)	(2)	(3)	
原索動物門	ホヤ綱 (群体系)				+		+	+			+	
	シロボヤ								+			
-	泥星				+	25	15	15	30	10	5	5
出現種数 (20)		-	5	3	7	3	1	8	7	7	5	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、1は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表4-2-2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平均海面 (m)		平成20年11月15日													
種類名	基質	+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12
		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	ヒドロ虫綱			+											
	チキレイソギンチャク			+	10	+	10	+							
	シオガマサンゴ										+		+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科														+
腕足動物門	コケムシ綱		+	30	10	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(50)				+	+	+	+	10	+	+	+	+	
	マツバガイ	(5)													
	カキガイ	(6)													
	ヒザラガイ		(2)												
	キクノハナガイ		(4)												
	シマメノウフネガイ				+					+	+	+			
節足動物門	イワフジツボ	+	+												
	サンカクフジツボ					(2)	(1)	(2)	+						
棘皮動物門	イトマキヒトデ									(1)					
	キヒトデ									(2)			(1)		
原索動物門	シロボヤ				10	+	+	+							
	ユウレイボヤ														
-	泥星				+	20	80	30	+	+	+	+	+	+	+
出現種数 (21)		1	5	3	5	6	7	6	3	6	5	5	1	3	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、1は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 4-2-2 (13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成20年11月16日

観察場所		平均海面 (m)														
		+1	+0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+													
	チギレイソギンチャク			10	10	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	シオガマセンゴ												+	+	+	
	ハナギンチャク科															+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	30	60	80	80	60	20							
触手動物門	コケムシ綱		+	10	+	+	+	10	10	+	+					
	アミコケムシ科									+	10	+	+	+	+	
軟体動物門	アラレタマキヒ	(180)								+	+					
	カマキ	(1)														
	タマキ	(6)														
	カラムツガイ		(11)													
	マガキ		+													
	ミドリイガイ		+	10	+	+	+									
	ムラサキイガイ			+	+	+	+									
	シマメノウツネガイ							+								
節足動物門	イソフジツボ	10	+													
	サンカクフジツボ									+	+	+				
棘皮動物門	イトマキヒトデ									(3)	(1)	(1)				
原索動物門	シロボヤ			10	+	10	10	+	+							
	ホヤ綱 (群休性)			+	+	+	+	+	+							
	ユウレイボヤ属			+	+	+	+	+	+							
	エボヤ															
-	泥炭			+	+	+	+	+	80	30	10	+	+	+	+	
出現種類数 (23)		4	7	8	9	9	9	8	6	7	8	5	3	3	3	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 4-2-2 (14) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成20年11月16日

観察場所		エコ岸壁										遊水室					
平均海面 (m)		+1~+0	+0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室					
部位	基質または	綱金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面			
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク	+															
	チギレイソギンチャク	20	10	10	10	10	10	+	10	10	10	+	10	10			
環形動物門	カンザシゴカイ科	+	20	80	60	40	40	40	20	60		70	30				
触手動物門	コケムシ綱	+	10	+	+	10	10	10	+	20		+	40				
	フサコケムシ科	+	+						+	+							
軟体動物門	ケガキ	+															
	ムラサキイガイ	40	30	+					60	+		+					
	ミドリイガイ	20	10	+	+				10	10		+	+				
	シマメノウツネガイ				+	+	+	+									
	レイシガイ													(2)			
節足動物門	ワタリガニ科							(1)									
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(4)	(3)		(1)	(1)					(2)	(8)			
原索動物門	ホヤ綱 (群休性)	+	+	+	+	+	+	+									
	シロボヤ	+	10	20	10	+	+	+	10	10		+					
	ユウレイボヤ属			+										+			
-	泥炭																
出現種類数 (15)		10	8	9	8	6	7	8	7	7	1	6	7	2			

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 4-2-2 (15) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成20年11月16日

観察場所		エコ岸壁										遊水室					
平均海面 (m)		+1~+0	+0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室					
部位	基質または	綱金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面			
腔腸動物門	チギレイソギンチャク		+	+	+	+				+	+	+	+	+			
環形動物門	カンザシゴカイ科	+	80	80	80	80	80	80	70	60		90	80				
軟体動物門	ムラサキイガイ																
	マガキ	60															
	ミドリイガイ	20															
原索動物門	ユウレイボヤ属		10	10	+	+	+	+	10	20		+	+				
	シロボヤ		10	20	20	10	+	+	30	20		+	+				
-	泥炭				+	10	10	10				+	+				
出現種類数 (8)		4	4	4	5	5	4	4	3	4	1	5	5	1			

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の魚類の目視観察結果を表4-2-3(1)～(4)に示す。

調査地点A-2では12種類が確認され、水深4～6mで10種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深4～6mでメジナが11～50個体とマアジが51個体以上、6～8mでウマズラハギが11～50個体であった。

調査地点A-4では14種類が確認され、水深4～6mで11種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mでスズメダイが51個体以上、4～6mでメジナとウマズラハギが11～50個体、マアジが51個体以上であった。

調査地点A-5では10種類が確認され、水深2～4mで10種類と最も多かった。個体数が多かったのは水深2～4mでスズメダイ、キュウセン、イシダイおよびカサゴが、水深4～6mでキュウセンおよびウミタナゴがそれぞれ3～10個体であった。

調査地点A-7では6種類が確認され、水深4～6mで4種類と最も多かった。個体数が多かった種類は水深0～2mクサブリが、水深4～6mでキュウセンがそれぞれ3～10個体であった。

B. 尼崎沖処分場

尼崎沖処分場の魚類の目視観察結果を表4-2-3(5)～(6)に示す。

調査地点B-1では魚類は確認されなかった。

調査地点B-2では1種類が確認され、水深0～2mでクロダイが1～2個体確認されたのみであった。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の魚類の目視観察結果を表4-2-3(7)～(11)に示す。

調査地点C-1では8種類が確認され、水深2～4mと4～6mで3種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mと4～6mでメバルが、4～6mでメジナがそれぞれ11～50個体であった。

調査地点C-2では8種類が確認され、水深2～4mで7種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mでスズメダイが11～50個体であった。

調査地点C-3では8種類が確認され、水深4～6mで8種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mと4～6mでボラが51個体以上、スズキが11～50個体、2～4mでクロダイとキュウセンが11～50個体であった。

調査地点C-4では8種類が確認され、水深4～6mで5種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深2～4mと4～6mでボラが51個体以上であった。

調査地点C-5では3種類が確認され、水深2～4mと4～6mで2種類と多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深4～6mでメバルが11～50個体であった。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の魚類の目視観察結果を表4-2-3(12)～(15)に示す。

調査地点D-2では2種類が確認され、水深2～4mと4～6mでともに1種類であった。個体数が多かったのはボラで、水深4～6mで3～10個体確認された。

調査地点D-3では4種類が確認され、水深6～8mで4種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、水深6～8mでキュウセンが11～50個体であった。

調査地点D-5では12種類が確認され、エコ岸壁の周辺で11種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、遊水室内とエコ岸壁の周辺においてメバルが11～50個体、スズメダイが51個体以上、エコ岸壁周辺においてクロダイ、キュウセンおよびキチヌが11～50個体、マアジが51個体以上であった。

調査地点D-6では3種類が確認され、エコ岸壁の周辺で2種類と多かった。個体数が多かった種類は、エコ岸壁の周辺においてキュウセンが3～10個体であった。

表4-2-3(1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成20年11月2日

水深(m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
	魚類					
	キュウセン(12~22)		r			
	メジナ(15~22)		r	c		
	カワハギ(15~20)		r	r		
	コモンフグ(10~12)		rr	rr		
	マアジ(12~15)			cc		
	クロダイ(25~40)			r	r	
	カサゴ(8~20)			r	r	
	ウミタナゴ(15~20)		r	r	r	
	アイナメ(15~20)			r		
	メバル(12~18)			r	rr	
	ウマズラハギ(15~22)			r	c	
	イシダイ(15~20)				r	
出現種類数(12)		—	5	10	6	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3(2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成20年11月2日

水深(m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 小礫 砂
	魚類					
	メジナ(15~25)	r	r	c		
	オヤビッチャ(12)	rr				
	スズメダイ(8~12)	r	cc			
	イシダイ(15~25)		r	r		
	コモンフグ(12)		rr			
	ウミタナゴ(10~15)		r	r		
	マアジ(12~15)			cc		
	キュウセン(12~20)			r	r	
	ササノハベラ(15~20)			r		
	ウマズラハギ(15~22)			c		
	メバル(12)			r	rr	
	カワハギ(15)			rr		
	クロダイ(30~35)			r		
	カサゴ(10~20)			r	rr	
出現種類数(14)		3	5	11	3	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成20年11月 2日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名		基質 ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫 砂
魚類	スズメダイ (8~12)		r			
	キュウセン (15~20)		r	r		
	イシダイ (15~20)		r			
	カサゴ (12)		r	rr		
	ウミタナゴ (12~15)		rr	r		
	メバル (12~15)		rr	rr		
	カワハギ (20)		rr			
	コモンフグ (12)		rr			
	ウミタナゴ (15)		rr			
その他	マダコ (15~20)		rr			
出現種類数 (10)		—	10	4	—	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成20年11月 2日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8
種類名		基質 矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂
魚類	ナベカ (8)	rr			
	クサフグ (12)	r			
	キュウセン (5~12)		rr	r	
	ササノハベラ (15~20)			rr	
	カサゴ (12~15)			rr	
その他	マダコ (5~20)			rr	rr
出現種類数 (6)		2	1	4	1

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (5) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B-1)

平成20年11月 7日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6
種類名		基質 ケーソン	ケーソン	ケーソン
出現なし				

表4-2-3 (6) 魚類の目視観察結果 尼崎沖処分場 (B-2)

平成20年11月 7日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8
種類名		基質 ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫
魚類	クロダイ (35~40)	rr			
出現種類数 (1)		1	—	—	—

注1: rr=1~2個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3(7) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成20年11月10日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名		基質 ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	キュウセン (15~22)	rr				
	クジメ (18~20)		rr			
	ボラ (55)		rr			
	メバル (8~20)		c	c		
	アナハゼ (14)			rr		
	メジナ (20)			c		
	ウマズラハギ (23)				rr	
	イシダイ (25)				rr	
出現種類数 (8)		1	3	3	2	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3(8) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成20年11月10日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10
種類名		基質 ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	ボラ (55)		rr			
	イシダイ (25)		rr			
	スズメダイ (8~12)		c			
	ササノハベラ (14~20)		r			
	キュウセン (18~22)		r	r	rr	
	メジナ (20)		r	r		
	クロダイ (18~24)		rr	r		
	カワハギ (18)			rr		
出現種類数 (8)		—	7	4	1	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3(9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

平成20年11月10日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~9
種類名		基質 ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	ボラ (50~55)		cc	cc		
	クロダイ (15~18)		c	r	r	
	キュウセン (7~17)		c	r	rr	
	スズキ (45~50)		c	c		
	メバル (13~15)			rr		
	ササノハベラ (12~20)			r	rr	
	メジナ (15)			r		
	イシダイ (18~20)			rr	rr	
出現種類数 (8)		—	4	8	4	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (10) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成20年11月10日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類	クジメ (18)	rr			
	クロダイ (14~18)	rr	r	rr		
	ボラ (45~55)		cc	cc		
	スズメダイ (8~12)		r	r		
	スズキ (45~50)		r			
	メバル (8~12)			r		
	キュウセン (18~20)			rr	rr	
	イシダイ (17~20)				rr	
出現種類数 (8)		2	4	5	2	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (11) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成20年11月10日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~9
基質		ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
種類名	魚類	メバル (8~10)	r	c		
	クロダイ (14~20)		r	r		
	ウミタナゴ (10)				rr	
	出現種類数 (3)	—	2	2	1	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成20年11月16日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~
基質		ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫	泥
種類名	魚類	コモンフグ (12)	rr						
	ボラ (30~55)			r					
	出現種類数 (2)	—	1	1	—	—	—	—	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成20年11月16日

水深 (m)		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
種類名	魚類	キチヌ (20~25)		rr	r				
	クロダイ (25~35)			r	rr				
	コモンフグ (12)				r				
	キュウセン (5~7)				c				
	出現種類数 (4)	—	—	2	4	—	—	—	—

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (14) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成20年11月16日

観察部位		エコ護岸		
		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
魚類	クロダイ (20~35)	r	c	
	キュウセン (5~15)	r	c	
	ウミタナゴ (10~15)	rr	r	
	メバル (5~12)	c	c	rr
	スズメダイ (8~12)	cc	cc	r
	コモンフグ (12)	rr	rr	
	ボラ (30~35)		r	
	ニジギンボ (12)		rr	
	オヤビッチャ (10~12)		r	
	キチヌ (20~30)		c	
	マアジ (10~12)		cc	
	ナベカ (5)			
出現種類数 (12)		6	11	2

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体, c=11~50個体, cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表4-2-3 (15) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成20年11月16日

観察部位		エコ護岸		
		遊水室内	周辺	貫通孔
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン
魚類	キュウセン (5~7)		r	
	ネズボ科 (10~12)		rr	
	ナベカ (4)			rr
出現種類数 (3)		-	2	1

注1: rr=1~2個体, r=3~10個体を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

(2) 粹取り採取及び分析

神戸沖処分場および大阪沖処分場において実施した植物の粹取り分析結果を表4-2-4、動物の粹取り分析結果を表4-2-5に示した。

① 植物

A. 神戸沖処分場

A-2では、上層から下層で7~10種類が出現し、総湿重量は5.34~72.84g/0.25m²であった。種類数は中層と下層で多く、上層で少なかったが、湿重量は上層で多く、下層で少なかった。

優占種をみると、上層では緑藻綱のアオサ属が全体の86%、中層では藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが全体の93%、下層では紅藻綱のマクサが全体の83%を占めた。

C. 大阪沖処分場

C-2では、上層から下層で5~14種類が出現し、総湿重量は8.35~30.99g/0.25m²であった。種類数は下層で多く、上層で少なかったが、湿重量は上層で多く、中層で少なかった。

優占種をみると、上層ではアオサ属が全体の99%を、中層では紅藻綱のツノマタ属が全体の89%を、下層では藻場構成種である褐藻綱のシダモクが全体の55%を占めた。このほかに中層と下層では、藻場構成種のタマハハキモクが優占種上位3種類に含まれた。

D. 泉大津沖処分場

D-2では、上層から下層で6~9種類が出現し、総湿重量は0.13~17.80g/0.25m²であった。種類数は下層で多く、上層で少なかったが、湿重量は上層で多く、中層で少なかった。

優占種をみると、上層では藍藻綱の*Lyngbya* sp. が全体の89%を、中層と下層では紅藻綱のカバノリがそれぞれ全体の62%と85%を占めた。

D-3では、上層から下層で1~6種類が出現し、総湿重量は0.01g未満~2.86g/0.25m²であった。種類数は上層で多く、下層で少なかった。個体数も上層で多く、中層と下層で少なかった。

優占種をみると、上層では緑藻綱のアオノリ属が全体の58%を占めた。中層ではアオノリ属と紅藻綱のキヌイトフタツガサネが、下層ではキヌイトフタツガサネがわずかに出現した程度であった。

表 4 - 2 - 4 枠取り分析結果 (植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M. W. L. ± 0. 0m)	中 (M. W. L. - 2. 0m)	下 (M. W. L. - 4. 0m)
神戸沖 A-2 (11月2日)	出現種類数	7	10	10
	総湿重量 (g/0. 25m)	72. 84	62. 37	5. 34
	優占種	第1位 アサ属 62. 64 (86)	タマハキモ 57. 94 (93)	マサ 4. 42 (83)
		第2位 アサ属 3. 53 (5)	アサ属 3. 17 (5)	ムササビ 0. 68 (13)
		第3位 ヲシロイソトコギ 3. 08 (4)	ツノササ属 0. 82 (1)	アサ属 0. 12 (2)
大阪沖 C-2 (11月10日)	出現種類数	5	10	14
	総湿重量 (g/0. 25m)	30. 99	8. 35	17. 69
	優占種	第1位 アサ属 30. 82 (99)	ツノササ属 7. 44 (100)	シダ 9. 81 (55)
		第2位 <i>Lyngbya</i> sp. 0. 12 (-)	アサ属 0. 65 (-)	タマハキモ 7. 55 (43)
		第3位 アサ属 0. 05 (-)	タマハキモ 0. 14 (-)	スサキベニ 0. 12 (1)
泉大津沖 D-2 (11月16日)	出現種類数	6	7	9
	総湿重量 (g/0. 25m)	17. 80	0. 13	2. 56
	優占種	第1位 <i>Lyngbya</i> sp. 15. 84 (89)	カハノリ 0. 08 (62)	カハノリ 2. 18 (85)
		第2位 アサ属 0. 88 (5)	タヤギソウ イグサ科 0. 02 (15)	イグサ科 0. 28 (11)
		第3位 アサ属 0. 80 (4)		タヤギソウ 0. 10 (4)
泉大津沖 D-3 (11月16日)	出現種類数	6	2	1
	総湿重量 (g/0. 25m)	2. 86	+	+
	優占種	第1位 アサ属 1. 65 (58)	アサ属 + (-) キヌイトツカサネ + (-)	キヌイトツカサネ + (-)
		第2位 イグサ属 0. 48 (17)		
		第3位 アサ属 0. 41 (14)		

注) 表中の+は0. 01g未満を示す。また、()内の数値は総量に対する占有率を示し、-は1%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

A-2では、上層から下層で32~97種類が出現し、総個体数は1,148~11,851個体/0.25m²、総湿重量は4.64~328.49g/0.25m²であった。種類数、個体数および湿重量はいずれも中層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では、個体数において節足動物門のヒゲナガヨコエビ属が全体の29%、湿重量において軟体動物門のカラムツガイが全体の42%を占め最も多かった。中層では、環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが個体数において全体の75%、湿重量において全体の29%を占め最も多かった。下層では、個体数において節足動物門のサンカクフジツボが全体の50%、湿重量において棘皮動物門のイトマキヒトデが全体の70%を占めた。

C. 大阪沖処分場

C-2では、上層から下層で30~77種類が出現し、総個体数は1,383~3,371個体/0.25m²、総湿重量は31.97~50.92g/0.25m²であった。種類数と総重量は中層で最も多く、上層で最も少なかった。個体数は上層で最も多く、下層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では、個体数において節足動物門のイワフジツボが全体の64%、湿重量において軟体動物門のイボニシが全体の60%を占めた。中層では、エゾカサネカンザシゴカイが個体数において全体の48%、湿重量において全体の29%を占め最も多かった。下層では、個体数において節足動物門のトゲワレカラが全体の20%、湿重量において環形動物門の*Thelepus* sp. が全体の21%を占め最も多かった。

D. 泉大津沖処分場

D-2では、上層から下層で22~66種類が出現し、総個体数は359~3,595個体/0.25m²、総湿重量は5.19~519.26g/0.25m²であった。種類数、個体数および湿重量はいずれも中層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では、個体数において節足動物門のモクズヨコエビ属が全体の25%、湿重量においてカラムツガイが全体の79%を占め最も多かった。中層では、個体数において腔腸動物門のイソギンチャク目が全体の16%、湿重量において原索動物門のシロボヤが全体の64%を占め最も多かった。下層では、個体数において環形動物門の*Polydora* sp. が全体の32%、湿重量において軟体動物門のイワガキが全体の30%を占め最も多かった。

D-3では、上層から下層で46~71種類が出現し、総個体数は1,549~5,213個体/0.25m²、総湿重量25.08~239.43g/0.25m²であった。種類数は下層で最も多く、上層で最も少なかった。個体数と湿重量は中層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では、個体数において節足動物門のマルエラワレカラが全体の60%、湿重量においてイボニシが全体の36%を占め最も多かった。中層では、個体数においてエゾカサネカンザシゴカイが全体の23%、湿重量においてシロボヤが全体の28%を占め最も多かった。下層では、個体数においてエゾカサネカンザシが全体の35%、湿重量においてシロボヤが全体の54%を占め最も多かった。

表 4-2-5 棒取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L.+0.0m)	中 (M.W.L.-2.0m)	下 (M.W.L.-4.0m)
神戸沖 A-2 (11月2日)	出現種類数(種類)	32	97	58
	総個体数 (個体/0.25㎡)	1,148	11,851	2,328
	総湿重量 (g/0.25㎡)	4.64	328.49	87.45
	個体数 からみた			
	第1位	ヒゲナガヨコエ属 336 (29)	イソオサナシシゴカイ 8,905 (75)	ギンカワジツギ 1,156 (50)
	第2位	コリコ科幼虫 320 (28)	ヒゲニシ 672 (6)	<i>Polydora</i> sp. 313 (13)
	第3位	マルエウレカラ 264 (23)	<i>Dodecaceria</i> sp. 242 (2)	オサナシシゴカイ 156 (7)
	湿重量 からみた			
	第1位	カマツガイ 1.93 (42)	イソオサナシシゴカイ 94.25 (29)	イトモヒトデ 60.79 (70)
	第2位	ヒゲナガヨコエ属 0.48 (10)	レイシガイ 40.69 (12)	ギンカワジツギ 17.48 (20)
大阪沖 C-2 (11月10日)	出現種類数(種類)	30	77	75
	総個体数 (個体/0.25㎡)	3,371	2,166	1,383
	総湿重量 (g/0.25㎡)	31.97	50.92	35.18
	個体数 からみた			
	第1位	イワジツギ 2,144 (64)	イソオサナシシゴカイ 1,036 (48)	イトモヒトデ 270 (20)
	第2位	ヒゲナガヨコエ属 221 (7)	<i>Polydora</i> sp. 386 (18)	イソオサナシシゴカイ 204 (15)
	第3位	コビトウラシガイ 212 (6)	<i>Thelepus</i> sp. 124 (6)	<i>Thelepus</i> sp. 104 (8)
	湿重量 からみた			
	第1位	イボニシ 19.28 (60)	イソオサナシシゴカイ 14.90 (29)	<i>Thelepus</i> sp. 7.44 (21)
	第2位	イワジツギ 6.91 (22)	尋常海綿綱 14.63 (29)	イソオサナシシゴカイ 6.20 (18)
泉大津沖 D-2 (11月16日)	出現種類数(種類)	22	66	62
	総個体数 (個体/0.25㎡)	359	3,595	1,836
	総湿重量 (g/0.25㎡)	5.19	519.26	82.19
	個体数 からみた			
	第1位	ヒゲナガヨコエ属 89 (25)	イソオサナシシゴカイ 589 (16)	<i>Polydora</i> sp. 592 (32)
	第2位	ヒゲナガヨコエ属 76 (21)	ヒゲニシ 353 (10)	ウスカラシツガイ 373 (20)
	第3位	コリコ科幼虫 50 (14)	ウスカラシツガイ 349 (10)	ヒゲニシ 220 (12)
	湿重量 からみた			
	第1位	カマツガイ 4.12 (79)	シロギ 331.03 (64)	イワジツギ 24.93 (30)
	第2位	コビトウラシガイ 0.33 (6)	ウスカラシツギ 83.24 (16)	シロギ 24.45 (30)
泉大津沖 D-3 (11月16日)	出現種類数(種類)	46	57	71
	総個体数 (個体/0.25㎡)	1,549	5,213	3,346
	総湿重量 (g/0.25㎡)	25.08	239.43	212.08
	個体数 からみた			
	第1位	マルエウレカラ 925 (60)	イソオサナシシゴカイ 1,185 (23)	イソオサナシシゴカイ 1,157 (35)
	第2位	ウスカラシツガイ 165 (11)	ホリヨコエ 969 (19)	ホリヨコエ 672 (20)
	第3位	ヒゲナガヨコエ属 93 (6)	オサナシシゴカイ 614 (12)	イソオサナシシゴカイ 312 (9)
	湿重量 からみた			
	第1位	イボニシ 9.03 (36)	シロギ 66.67 (28)	シロギ 114.87 (54)
	第2位	ウスカラシツガイ 5.17 (21)	イソオサナシシゴカイ 47.84 (20)	オサナシシゴカイ 17.17 (8)
泉大津沖 D-3 (11月16日)	出現種類数(種類)	46	57	71
	総個体数 (個体/0.25㎡)	1,549	5,213	3,346
	総湿重量 (g/0.25㎡)	25.08	239.43	212.08
	個体数 からみた			
	第1位	マルエウレカラ 925 (60)	イソオサナシシゴカイ 1,185 (23)	イソオサナシシゴカイ 1,157 (35)
	第2位	ウスカラシツガイ 165 (11)	ホリヨコエ 969 (19)	ホリヨコエ 672 (20)
	第3位	ヒゲナガヨコエ属 93 (6)	オサナシシゴカイ 614 (12)	イソオサナシシゴカイ 312 (9)
	湿重量 からみた			
	第1位	イボニシ 9.03 (36)	シロギ 66.67 (28)	シロギ 114.87 (54)
	第2位	ウスカラシツガイ 5.17 (21)	イソオサナシシゴカイ 47.84 (20)	オサナシシゴカイ 17.17 (8)

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示す。

資料編

粹取り分析結果

1. 採取分析結果（植物）

（1）神戸沖処分場；A-2

夏季調査（平成20年8月3日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		A-2		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		4.10		
2		アサ属		9.58	18.91	4.04
3		シロガサ属		0.08	2.44	+
4	褐藻	タマハキモク			9.44	
5	紅藻	オージユネラ属				+
6		マクサ				4.05
7		ススカケベニ				3.57
8		ツノマタ属			1.06	0.49
9		ムカデノリ				+
10		フダウカ		0.34		
11		オキツリ		0.06		
12		カバノリ				28.61
13		コスジフシツナギ		0.01	0.58	
14		キヌイトフツガサネ				0.99
15		フツガサネ属			+	
16		イギス			0.01	
17		イギス属			0.02	
18		イトガサ属				0.12
19	藍藻	<i>Lyngbya</i> sp.		0.91		
出現種類数				7	8	10
総湿重量				15.08	32.46	41.87

注）表中の「+」は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成20年11月2日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		A-2		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アサ属		62.64	3.17	0.12
2		アオリ属		3.53		
3		シロガサ属		2.52	0.13	0.01
4	褐藻	タマハキモク			57.94	
5	紅藻	マクサ				4.42
6		ススカケベニ				+
7		ツノマタ属		0.94	0.82	
8		ムカデノリ			0.12	0.68
9		イワナワ科			-	
10		カバノリ				0.09
11		コスジフシツナギ		3.08	0.14	
12		キヌイトフツガサネ			0.03	0.02
13		フツガサネ属				+
14		イギス属		+	0.02	
15		イトガサ属			+	+
16	藍藻	<i>Lyngbya</i> sp.		0.13		+
出現種類数				7	10	10
総湿重量				72.84	62.37	5.34

注）表中の「+」は0.01g未満を示す。

(2) 大阪沖処分場；C-2

夏季調査（平成20年8月4日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		C-2		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.03	0.01	0.02
2		アサ属		16.40	0.02	0.10
3		シオサ属		+	0.04	0.05
4	褐藻	シタモク				0.23
5		タマハキモク			0.01	1.07
6	紅藻	スサケベニ				1.14
7		ムカデノリ				0.13
8		フタラク				0.06
9		タヤギソウ				0.01
10		キヌイトフタツガサネ			+	0.17
11		ケイブス			0.02	0.15
12		イグス属			+	0.05
13		ダシラ属				0.04
14		ヒメコサネ				0.05
15	藍藻	<i>Lyngbya</i> sp.		+		
16	珪藻	珪藻綱				+
出現種類数				4	7	15
総湿重量				16.43	0.10	3.27

注）表中の「+」は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成20年11月10日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		C-2		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アサ属		30.82	0.65	0.07
2		アオリ属		0.05		
3		シオサ属		+	0.05	0.01
4	褐藻	シタモク				9.81
5		タマハキモク			0.14	7.55
6	紅藻	サンゴモ目			-	
7		スサケベニ				0.12
8		ツノタ属			7.44	0.01
9		ムカデノリ			0.03	
10		イワナガリ科				-
11		タヤギソウ			0.04	0.03
12		キヌイトフタツガサネ			+	+
13		イグス属			+	+
14		イソハギ				0.04
15		イトクサ属				0.01
16		ヒメコサネ			+	0.02
17	藍藻	<i>Lyngbya</i> sp.		0.12		
18	珪藻	珪藻綱		+		0.02
出現種類数				5	10	14
総湿重量				30.99	8.35	17.69

注）表中の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場；D-2

春季調査（平成20年5月19日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		D-2		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.45	0.07	
2		アサ属		0.57		
3		シオグサ属		0.89	0.14	
4		ミル		1.16		
5	褐藻	ハハモトキ			1.34	
6		ワカメ			593.75	
7	紅藻	オーシユイネラ属			+	
8		マクサ			0.34	
9		ツノマタ属			12.55	60.51
10		カハノリ			66.48	7.08
11		クオヤギノリ			8.51	602.97
12		ムカデノリ			0.57	
13		ツルツル			2.53	
14		キョウヒモ			12.46	
15		キヌイトフツガサネ			1.40	0.05
16		ヨツガサネ属				0.08
17		イギス科			0.15	0.01
18		ショウジヨウケノリ			0.29	
19		イトグサ属		0.18	0.28	0.55
20	珪藻	<i>Grammatophora</i> sp.			+	
出現種類数				5	17	7
総湿重量				3.25	700.86	671.25

注）表中の「+」は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成20年11月16日）

単位：g/0.25m²

		調査地点		D-2		
No.	綱	種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.80		
2		アサ属		0.88		
3		シオク'サ属			0.01	+
4	紅藻	無節サンゴ'モ類			-	
5		カハ'ノリ			0.08	2.18
6		クオヤギ'ノリ			0.02	0.10
7		キヌイトフツガ'サネ			+	+
8		フツガ'サネ属			+	
9		イ'ク'ス科			0.02	0.28
10		イトク'サ属				+
11		藍藻	コレモ属		+	
12		Lyngbya sp.		15.84		+
13	珪藻	Melosira sp.				+
14		Licmophora sp.		+		
15		Navicula sp.		0.28		
16		珪藻綱				+
出現種類数				6	7	9
総湿重量				17.80	0.13	2.56

注）表中の「+」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場；D-3

春季調査（平成20年5月19日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		D-3		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.01	0.01	
2		アサ属		0.28		
3		シロガサ属			0.02	
4		ミル		0.01	2.63	
5		ハネ属				+
6	褐藻	<i>Hinckia</i> sp.		+	+	
7		ハハモトキ			0.23	
8		ワカメ			56.25	
9	紅藻	クサギソウ				4.10
10		キヌイトフツガサネ		0.04	0.01	0.01
11		フツガサネ属		+		
12		ヨツガサネ属				0.02
13		イトガサ属		+	0.02	0.02
14	藍藻	クロモ属			0.05	
出現種類数				7	9	5
総湿重量				0.34	59.22	4.15

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成20年11月16日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	調査地点		D-3		
		種名	地点	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		1.65	+	
2		アサ属		0.41		
3		シロガサ属		0.20		
4	紅藻	キヌイトフツガサネ		0.12	+	+
5		イトガサ属		0.48		
6	珪藻	珪藻綱		+		
出現種類数				6	2	1
総湿重量				2.86	+	+

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

2. 採取り分析結果（動物）

(1) 神戸沖処分場；A-2

夏季調査（平成20年8月3日）－1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点 A-2					
						調査地点		上層		中層	
						項目	層	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿綱	-	-	尋常海綿綱			-	0.52	-	-
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クダ	ウミサカグサ科	ウミサカグサ科			-	0.04	-	+
3					ウミシバ			-	+		
4		花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目			3	7.93	3	0.05
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目				53	1.32	1
6	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科				11	0.23	2
7		有針	針紐虫	テトラステア	メロキモシ				33	0.13	1
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidasthenia sp.				1	0.01	
9					Lepidonotus sp.				8	0.54	1
10					マダウロコムシ			1	0.01	105	0.76
11					ミロクウロコムシ				36	1.79	38
12					サシバゴカイ	Anatides spp.			1	0.01	
13					アキサシバ				1	+	1
14					サシバゴカイ				24	0.56	
15					マダウサシバ				2	0.03	
16					オヒメゴカイ	Ophiodromus sp.			87	0.82	23
17					シリス	シリス			3	0.01	4
18					Typosyllis sp.			1	+	9	0.07
19					Autolytus sp.				8	0.05	1
20					ゴカイ	ウルビゴカイ					4
21						クマトリゴカイ		1	0.02	2	0.21
22						アサゴカイ		1	0.04		1
23						ヒメゴカイ					3
24						マサゴカイ		2	0.03	195	5.64
25					チロリ	Glycera sp.			6	0.18	3
26					イソメ	Eunice sp.			7	0.89	2
27					セグロイソメ	Arabella sp.		1	0.01		
28			定在		スピオ	Polydora sp.			17	0.09	11
29						Prionospio sp.			14	0.05	
30					ミスヒキゴカイ	Dodecaceria sp.					2
31						Tharyx sp.					1
32						ミスヒキゴカイ			101	13.54	8
33					オフェリアゴカイ	カスリオフェリヤ			1	+	3
34					イトゴカイ	Capitella sp.			2	0.01	
35					フサゴカイ	Thelepus sp.			335	27.30	3
36					ケヤリ	Branchioma sp.			12	3.49	
37					カンザシゴカイ	エダカンザシゴカイ		5	0.06	3,328	80.64
38	触手動物	苔虫	唇口		フサコケムシ	フサコケムシ		-	0.02	-	0.60
39					ヒラコケムシ	チゴケムシ		-	0.01	-	4.48
40					ウスコケムシ	ウスコケムシ科					-
41					モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科					0.56
42	軟体動物	多板	新ヒザラガイ		ウスヒザラガイ	ウスヒザラガイ			1	0.01	
43					ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属		3	0.24	5	0.27
44									4	0.19	
45		腹足	古腹足		ニシキウスガイ	アシヤガイ					
46			盤足		タマキビ	ゴビトウラウスガイ		1	+		
47					リソツボ	タマツボ			1	+	1
48					カリハガサガイ	シマメノウツネガイ					0.82
49			翼舌		ミツクチキリ	ミツクチキリ科			1	0.04	
50			新腹足		アツキガイ	レイシガイ			17	14.84	1
51						イボニシ		12	21.91		
52					フトコロガイ	ムギガイ			304	23.44	114
53						ノミナモトキ					1
54			異旋		トウガタガイ	ヨロイケチレ属			3	+	
55			裸鰓		トリス	トリス科			1	0.08	
56			基眼		カラマツガイ	カラマツガイ		2	0.40		
57			二枚貝		イガイ	コベルトネガイ		1	0.06		1
58						ムラサキガイ		569	1.28	110	1.49
59						ヒバリガイ			3	0.07	
60						コウロエンカワヒバリガイ		3	+		
61						タマエガイ			11	0.27	1
					ミナガイ	ミナガイ			31	3.91	+

注）個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A-2

夏季調査（平成20年8月3日）- 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点 A-2									
						項目	上層		中層		下層				
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量			
62	軟体動物	二枚貝	蚌	ナミガシ	ナミガシ					1	12.14				
63				イボガキ	マカキ		1	0.39							
64					コケロモ						1	1.13			
65				マルタレガイ	チリハギガイ	コハクワコ属					1	0.01			
66					トヤガイ	トヤガイ					1	0.01			
67					イワホリガイ	ウスカラシオツガイ		3	0.02	2	0.11	2	0.02		
68					オオノガイ	キヌマトガイ	キヌマトガイ			376	9.53	67	0.86		
69				節足動物	ウミグモ	蟹脚	イソウミグモ	クダトゲイソウミグモ					1	+	
70							顎脚	無柄	フジツボ	タテジマフジツボ		1	0.01		
71									サンカクフジツボ			43	1.10	3	0.32
72		タナシ	タナシ							17	0.02	42	0.06		
73	等脚	ウミズミ	ウミズミ		1	+		264	0.17	5	+				
74	軟甲	端脚		タテソコエビ	タテソコエビ属		38	0.01							
75				アリタヨコエビ	アリタヨコエビ属		72	0.14	456	1.20					
76				モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属		11	0.01	18	0.01					
77				コンボソコエビ	コンボソコエビ属				57	0.08	78	0.06			
78				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属		58	0.15	18	0.06	1	+			
79				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属		6	+	8	+	12	0.01			
80				コンボソコエビ	ドロソコエビ属						2	0.01			
81				ドロクダミ	ホソヨコエビ				6	+	159	0.18			
82					アリアケドロクダミ		8	0.01							
83					トンガリドロクダミ		1	+							
84					ウエノドロクダミ			1.104	0.33	6	0.01				
85					ドロクダミ属			1.776	0.48	26	0.04				
86				ウレカラ		トゲウレカラ			101	0.14	95	0.10			
87						オサチウレカラ						535	0.18		
88						クビナガウレカラ				26	0.03				
89						マルエラウレカラ		118	0.11	525	0.29	42	0.05		
90				十脚		テッポウエビ	テッポウエビ属				26	4.71			
91						モエビ	イソモエビ				55	0.59			
92						ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ						2	0.01	
93						エビジャコ	エビジャコ属				1	0.01			
94		ヤマトホンナダカリ	ヤマトホンナダカリ							1	0.13				
95		カンダマシ	コブカンダマシ				103	7.43	1	0.05					
96		クモガニ	ヨツハモガニ				72	7.77	2	0.02					
97		ガザミ	フタバベニツケガニ							1	+				
98		イチョウガニ	イボイチョウガニ							9	0.18				
99		オウギガニ	スベスベオウギガニ					14	6.89						
100			ヒメクダガニ				40	3.38	2	0.03					
101			イワガニ	ヒメベンケイガニ		1	0.14								
102	棘皮動物	昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫		19	0.03							
103				ヒトデ	キヒトデ	キヒトデ					6	3.49			
104					ヒメヒトデ	ヒメヒトデ					2	63.48			
105					ウニ	ホンウニ	オホバフウウニ	バフウウニ		1	0.05				
106	原索動物	ナマコ	樹手	スズメノテ	イシコ属			29	6.86						
107				尾索	シシデ	ウスボヤ属			-	36.74					
108						ネンキボヤ			-	0.25					
109						キナ	カタコレイボヤ					3	0.13		
110						アスキニア	ナツメボヤ			30	38.71				
111		壁性	スチエラ	フタスズボヤ				3	0.44						
出現種類数						32		76		63					
合計						944	33.04	10,068	316.61	1,347	94.71				

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A-2

秋季調査（平成20年11月2日）- 1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量：g/0.25m²

No	門	綱	目	科	種名	調査地点		A-2					
						層	項目	上層		中層		下層	
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.65	-		-	
2	腔腸動物	ヒトロ虫	軟クサ	ウミカサガイ	ウミカサガイ科			-	+	-		+	
3				ウミシバ	ウミシバ科			-	+	-			
4		花虫	-	-	イソギンチャク目			22	0.12	133	2.13		
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			9	0.03	13	0.23	30	0.10
6	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科			8	0.02	26	0.55		
7		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモシ					3	0.09	1	+
8					アンフィボールス属			1	+				
9				テトラステマ	ミノコヒモシ					13	0.05	2	+
10	星口動物	サメダホシムシ	サメダホシムシ	サメダホシムシ	サメダホシムシ					1	0.08	1	0.01
11	環形動物	多毛	遊任	クロコムシ	Lepidonotus sp.					23	1.57	1	0.06
12					マダラクロコムシ					149	2.42	5	0.06
13					ミロウクロコムシ					92	6.36		
14				サンバゴカイ	アケノサンバ					1	0.01		
15					サミドリサンバ					13	0.26		
16					Eulalia sp.					1	0.01		
17					マダラサンバ					1	0.01		
18				オビメゴカイ	Ophiodromus sp.			5	0.02	133	0.80	49	0.30
19					オビメゴカイ科					1	+		
20				シリス	Trypanosyllis sp.					3	0.01	3	+
21					シロマダラシリス					7	0.09	2	0.02
22					Typosyllis sp.			8	0.02	7	0.06	1	+
23					Autolytus sp.					3	0.01	2	0.01
24				ゴカイ	ツルビゴカイ							1	0.01
25					イソツルビゴカイ			1	+	3	0.01	1	0.01
26					クマドリゴカイ			28	0.20	2	0.36		
27					アシナゴカイ			5	0.04				
28					ヒメゴカイ					9	0.04	8	0.04
29					マサゴカイ			1	0.03	15	0.21		
30					アウゴカイ							1	0.03
31				イソメ	Eunice sp.					7	0.88	4	0.08
32				セグロイソメ	Arabella sp.					1	0.06		
33				スピオ	Polydora sp.					228	0.96	313	0.66
34			定任		ケンサキスピオ					1	+		
35				ミズヒキゴカイ	Dodecaceria sp.					242	0.22		
36					ミズヒキゴカイ					192	18.24	10	0.14
37				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア					9	0.01		
38				アサゴカイ	Thelepus sp.					121	15.01	2	0.05
39				ケヤリ	Sabella sp.					19	0.61	4	0.05
40					Branchiomma sp.					5	1.38		
41				カンザシゴカイ	ユヅカサカンザシゴカイ			5	0.03	8,905	94.25	30	0.45
42					カンザシゴカイ科					1	0.03		
43	触手動物	筈虫	筈虫	ホリキムシ	Phoronis sp.							1	+
44		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			-	0.46	-	0.43		
45				ヒラコケムシ	チコケムシ			-	0.08	-	0.39		
46				ウスコケムシ	ウスコケムシ科					-	+		
47				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科			-	0.01				
48				コブコケムシ	コブコケムシ科					-	0.04		
49	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ウスヒザラガイ	ウスヒザラガイ					1	0.01		
50				ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属			6	0.04	1	0.08		
51		腹足	盤足	リソソホ	タマソホ					14	0.02	27	0.03
52				カリバガサ	シマメノカサバガイ					3	0.85	1	0.02
53				タカラガイ	メダカラ					1	2.41		
54				シラタマガイ	サクロガイ					3	0.23		
55			新腹足	アツキガイ	レイシガイ			1	0.02	69	40.69	1	2.81
56					イボニシ			1	0.35	672	35.04		
57				フトコロガイ	ムギガイ			1	+			21	0.65
58					ノミナモトキ							4	0.03
59			翼舌	ミツクチキレ	ミツクチキレ科					4	0.08	1	+
60			異旋	トクガクガイ	クチキレモドキ属					2	0.02	3	0.03
61					ヨロイクチキレ属							2	+
62					イトカククチキレ属					1	+	1	
63					クサズレクチキレ							1	+
64			裸鰓	ドーリス	ドーリス科					2	0.04		
65			基眼	カマツガイ	カマツガイ			26	1.93				
66					キクハナガイ			2	0.17				

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

神戸沖処分場；A-2

秋季調査（平成20年11月2日）-2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No	門	綱	目	科	種名	調査地点		A-2						
						項目	上層		中層		下層			
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
67	軟体動物	二枚貝	フネガイ	フネガイ	コベ'ルトフネガイ			1	0.01	7	0.81			
68				イガイ	ムササギイガイ			3	0.02					
69					ミドリイガイ			2	0.06	3	0.13			
70					ヨウロウシカワベ'リガイ	1	+							
71					タマガイ	1	0.01	1	0.01	4	0.03			
72					イシモチ					2	0.03			
73				カキ	ナミマガ'シ	ナミマガ'シ			1	14.95				
74					シマナミマガ'シ	シマナミマガ'シ				1	0.12			
75				マルスタ'レガイ	キカザ'ル	キカザ'ル属			1	0.01				
76					トマヤガイ	トマヤガイ				1	0.05			
77					イワホ'リガイ	ウスカラシオウガイ			12	0.50	46	0.28		
78				オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			6	0.32	64	1.54		
79			節足動物		顎脚	無柄	イワフジ'ツボ	イワフジ'ツボ	1	0.01				
80							サンカクフジ'ツボ		2	0.07	43	2.05	1,156	17.48
81							アカフジ'ツボ		15	0.03				
82				軟甲	タナイス	タナイス	セ'ウツ属		72	0.04	8	+	8	+
83						等脚	ウミナ'フシ	ウミナ'フシ属			1	+		
84							ウミミズ'ムシ	ウミミズ'ムシ			18	0.01	1	+
85		コツブ'ムシ				シリケンウミセミ	5	0.01						
86	端脚	タテソコ'エビ			タテソコ'エビ属			5	+	1	+			
87					メ'リタ'ソコ'エビ	メ'リタ'ソコ'エビ属			68	0.20				
88					イソ'ソコ'エビ						1	+		
89					モカズ'ソコ'エビ	モカズ'ソコ'エビ属			4	+				
90					コンボ'ソコ'エビ	コンボ'ソコ'エビ属			65	0.03	127	0.07		
91					ヒゲ'ナガ'ソコ'エビ	ヒゲ'ナガ'ソコ'エビ属	336	0.48	2	0.01				
92					ド'ロク'タ'ムシ	ホソソコ'エビ			24	0.03	51	0.03		
93						ド'ロク'タ'ムシ属			32	0.02	5	+		
94						ド'ロク'ソコ'エビ属			48	0.02				
95					ワ'レカラ	ト'ゲ'ワ'レカラ			21	0.03	108	0.09		
96						オサ'ワ'レカラ			1	+	156	0.10		
97						ク'ビ'ナガ'ワ'レカラ			23	0.02	3	+		
98						マル'エ'ラ'ワ'レカラ		264	0.24	5	0.01	24	0.02	
99	十脚	テッポ'ウ'エビ			テッポ'ウ'エビ	テッポ'ウ'エビ属			22	1.92	1	+		
100						モ'エ'ビ	イソ'モ'エ'ビ			25	0.66			
101							<i>Eualus</i> sp.			2	0.07			
102						ロウソク'エビ	ハシロウソク'エビ			6	0.02	6	0.05	
103						ヤ'ド'カリ	ク'ビ'ナガ'カリ	ク'ビ'ナガ'カリ属			1	1.34		
104						ホ'ン'ヤ'ド'カリ	ホ'ン'ヤ'ド'カリ属			1	0.02			
105						カ'ニ'ダ'マ'シ	コ'ブ'カ'ニ'ダ'マ'シ			68	7.16			
106						コ'ブ'シ'ガ'ニ	コ'ブ'シ'ガ'ニ属					1	0.03	
107						ク'モ'ガ'ニ	ヨ'ツ'ハ'モ'ガ'ニ			48	2.80			
108						ガ'サ'ミ	フ'タ'ハ'ベ'ニ'ツ'ガ'ニ			20	0.56	1	0.02	
109						オ'ウ'キ'ガ'ニ	ス'ベ'ス'ベ'オ'ウ'キ'ガ'ニ			16	24.88			
110							ヒ'タ'フ'カ'ニ			44	1.20	7	0.13	
111						-	カ'ニ'類'幼'生		1	+				
112	昆虫	ハエ		ユ'ス'リ'カ'科	ユ'ス'リ'カ'科'幼'虫		320	0.08						
113				ヒ'ト'デ	ヒ'メ'ヒ'ト'デ	ヒ'メ'ヒ'ト'デ					9	60.79		
114				ウ'ニ	ホ'ン'ウ'ニ	サ'ン'シ'ョ'ウ'ウ'ニ			1	0.28				
115	原索動物	尾索	樹'子	ス'クレ'ロ'ク'テ'イ'ラ	イ'シ'コ'属			23	4.28					
116				シ'デ'ム'ニ	ネ'シ'キ'ボ'ヤ		-	0.10	-	0.03				
117				ア'ス'キ'シ'ア	ス'ジ'キ'レ'ボ'ヤ				2	0.16				
118			壁'性		ナ'ツ'メ'ボ'ヤ			16	36.07					
119				ス'チ'エ'ラ	シ'ロ'ボ'ヤ			1	0.02					
120					フ'タ'シ'ボ'ヤ			2	0.60					
121	脊椎動物	硬骨魚	ス'ズ'キ	イ'ソ'ギ'ン'ボ'	イ'ソ'ギ'ン'ボ'			2	0.12					
出現種類数						32		97		58				
合計						1,148	4.64	11,851	328.49	2,328	87.45			

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C-2

夏季調査（平成20年8月4日）- 2

単位：個体数；個体/0.25m²、湿重量；g/0.25m²

No	門	綱	目	科	種名	調査地点					
						C-2					
						上層		中層		下層	
					項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
54	軟体動物	腹足	新腹足	フトコガイ	ムギガイ	1	0.01	82	6.28	218	13.77
55			異旋	トウガタガイ	ヨロイチキレ属					2	0.01
56					イトカクチキレ属					1	+
57			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	10	0.03				
58			二枚貝	フネガイ	フネガイ			2	0.02	3	4.52
59				イガイ	イガイ	17	0.10	8	0.02		
60					ムラサキイガイ	68	0.19				
61					コウロエンカワヒバリガイ						
62					タマエガイ			8	0.18	4	0.05
63					ホトキス	1	+				
64				ミノガイ	ミノガイ					8	1.71
65				マルスタレガイ	マルスタレガイ					5	0.69
66				イワホリガイ	ウスハラシツガイ	2	0.01			1	0.05
67				オノガイ	キヌマトイガイ			104	2.64	9	0.26
68					ツクエガイ					1	0.02
69	節足動物	顎脚	無柄	イワフシツボ	イワフシツボ	8,708	147.28				
70				フジツボ	サンカフジツボ			8	0.32	5	0.32
71		軟甲	タナシ	タナシ	セウクリ属	3	+	2	+	2	+
72			等脚	ウミナナシ	ウミナナシ属			80	0.32		
73				ウミミズムシ	ウミミズムシ	1	+	76	0.06	17	0.01
74		端脚		ゴツブムシ	シリケンウミミ	201	0.34				
75				タテソコエビ	タテソコエビ属	6	0.01				
76				メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属			190	0.68		
77					イソヨコエビ属			202	0.40		
78				モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	264	0.18	30	0.02	3	+
79				ユンボソコエビ	ユンボソコエビ属	1	+	52	0.03	5	+
80				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属	15	0.05			1	0.01
81				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	10	0.01				
82				トノクダムシ	ホソヨコエビ					37	0.02
83					ウエノトノクダムシ			236	0.10	61	0.03
84				ワレカラ	トゲワレカラ			4	0.01	5	0.01
85					オサチワレカラ					65	0.03
86					クビナガワレカラ			128	0.16		
87					マルエワレカラ	305	0.28				
88		十脚		チツボウエビ	チツボウエビ属					12	1.21
89				モエビ	イソモエビ			4	0.06		
90					アシナガモエビモドキ					1	0.01
91				ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ					31	0.24
92				エビシヤコ	エビシヤコ属					1	0.03
93				ホンヤトカリ	ケアシホンヤトカリ					1	1.48
94					ヤマトホンヤトカリ					6	0.92
95				カニダマシ	コブカニダマシ			6	0.04	1	0.04
96				クモカニ	コツハモカニ			12	0.48	20	1.14
97				カザミ	フタバベニツガニ					3	0.08
98				オウギカニ	シワオウギカニ					1	0.43
99					スベスベオウギカニ			4	1.66		
100					ヒメアザガニ			26	4.10	49	3.47
101	棘皮動物	ヒトデ	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	85	0.05				
102				キトデ	キトデ			2	0.14		
103			尾索	ジデムニ	ウスボヤ属			-	10.72		
104					ネンエキボヤ			-	5.92	-	0.06
105				キナ	カタコレイボヤ			2	0.44		
106				アスキシア	スジキレボヤ			2	0.82		
					ナツメボヤ			12	10.18	11	7.34
出現種類数						27		62		65	
合計						9,825	152.44	5,447	170.67	1,631	80.81

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 大阪沖処分場；C-2

夏季調査（平成20年8月4日）- 1

単位：個体数：個体/0.25m²，湿重量：g/0.25m²

No.	調査地点					C-2						
	門	綱	目	科	種名	層	上層		中層		下層	
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱					-		0.33
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱				-	0.72	-	0.27
3	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサザキ目	ウミサザキ目	-	+	-	-	0.06	-	0.03
4		花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目				46	1.12	6	0.14
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目				32	0.36	2	0.01
6	紐形動物	無針	異組虫	リネス	リネス科	5	0.04					
7		有針	針組虫	テトラステマ	メノコヒモシ	2	0.01	6	0.04			
8	星口動物	星虫	星虫	ホシムシ	ササバホシムシ						1	0.01
9	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.						1	0.04
10					マダウロコムシ			50	0.48		62	0.43
11					ミロクウロコムシ			8	0.42			
12					サシバゴカイ	アサハサシバ			2	0.02	1	+
13						サミドリサシバ	2	0.01	14	0.46		
14					ウミケムシ	ウミケムシ科			1	+	1	+
15					オトヒメゴカイ	Ophiodromus sp.			56	0.22	42	0.38
16					シリス	シロマダラシリス	58	0.12	4	0.02		
17						Typosyllis sp.			22	0.12	2	0.01
18						Autolytus sp.			2	+		
19					ゴカイ	ツルビゴカイ					13	0.07
20						イソツルビゴカイ					1	+
21						クマドリゴカイ			6	0.38	11	1.14
22						アサハゴカイ	3	0.03				
23						ヒメゴカイ			10	0.08	7	0.03
24						マサゴカイ			116	3.38	16	0.69
25					イソメ	Eunice sp.					5	0.75
26				定在	スビオ	Polydora sp.			10	0.02	3	0.01
27					ミズヒキゴカイ	Dodecaceria sp.			10	0.01		
28						チグサミズヒキ			46	1.42		
29						ミズヒキゴカイ			2	0.04	96	3.88
30					オホエリゴカイ	オホエリゴカイ			2	+	32	0.05
31					フサゴカイ	Thelepus sp.			136	9.78	214	17.42
32						Nicolea sp.			8	2.88	2	0.58
33						Lanice sp.			2	0.04		
34					ケヤリ	Sabella sp.			2	0.14	3	0.10
35						Branchiomma sp.					13	2.35
36					カンザシゴカイ	エゾカンザシゴカイ			3,552	97.92	488	13.52
37						Hydroides sp.					1	+
38						イノカンザシゴカイ					11	0.47
39						Dexiospira sp.			2	+		
40	触手動物	苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ				-	0.22		
41					ヒラコケムシ	チゴケムシ			-	1.44		
42						ヒラコケムシ科					-	0.02
43					モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科			-	0.22		
44					ゴブコケムシ	ゴブコケムシ科			-	0.12		
45	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ウスヒザラガイ	ヤスヒザラガイ						1	0.01
46		腹足	盤足	スズメハマツボ	スズメハマツボ				2	+		
47					タマキビ	ゴビトウラウスガイ	32	0.03				
48						タマキビ	13	0.02				
49					リソツボ	タマツボ					1	+
50				翼舌	ミツクチキリオレ	キリオレ			6	0.12		
51						ミツクチキリオレ科					5	0.11
52				新腹足	アツキガイ	レイシガイ	11	0.02	10	2.62		
53						イボニシ	1	3.62				

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C-2

秋季調査（平成20年11月10日）-2

単位：個体数：個体/0.25m²，湿重量：g/0.25m²

No	門	綱	目	科	調査地点		C-2					
					種名	項目	上層		中層		下層	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
64	軟体動物	二枚貝	ツバガイ	ツバガイ	コベノツバガイ				4	2.56	7	0.86
65			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ				1	+		
66					ヒナリガイ				1	0.06	3	0.07
67					コウロエンカワヒナリガイ		39	0.29				
68					タマエガイ		1	+	1	+	5	0.05
69					イシモチ						10	0.16
70			カキ	ナミガシロ	ナミガシロ						1	1.85
71					シマナミガシロモドキ						1	0.05
72			マルスタレガイ	チリハキガイ	コハクノツコ属						1	+
73				トマヤガイ	トマヤガイ						2	0.35
74				キクザル	キクザル属						1	0.08
75				マルスタレガイ	オキナマツカセ				2	0.07	2	0.13
76				イワホリガイ	ウスカサシオツガイ				16	0.19		
77			オノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ						69	1.22
78				ツカエガイ	チビツカエガイ						5	0.04
79	節足動物	ウミグモ	節足動物	カニノテウミグモ	カニノテウミグモ科				1	+		
80				無柄	イワシツボ		2,144	6.91				
81				フツツボ	サンカクフツツボ				2		24	0.77
82			軟甲	タナイス	ゼウツク属		221	0.04	1	+	8	+
83				ウミナナシ	ウミナナシ属				5	0.01	14	0.02
84				ウミミズムシ	ウミミズムシ				17	0.01	3	+
85				コツツムシ	シリケンウミミズ		182	0.25				
86			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属		1	+				
87				アリタコエビ	イソコエビ属				48	0.33	3	0.01
88				モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属		87	0.13	23	0.01	18	0.01
89				ユンボソコエビ	ユンボソコエビ属				9	0.01	17	0.01
90				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属		160	0.42			1	+
91				ドロクダムシ	ホソヨコエビ						65	0.04
92					ドロクダムシ属						11	0.01
93				ワレカラ	トゲワレカラ		1	+	10	0.02	270	0.10
94					オサデワレカラ		1	+			10	0.02
95					クビナガワレカラ				19	0.01		
96					マルエワレカラ		4	+				
97			十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属				5	0.08	10	0.25
98				ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ				11	0.15	53	0.56
99				ホシヤドリ	ホシヤドリ属				2	0.08	2	0.04
100				クモガニ	ヨウハモガニ				4	0.11	6	0.17
101				イチョウガニ	イチョウガニ						1	0.05
102				ガザミ	フタバニツカガニ				3	0.03	2	0.02
103				オウギガニ	ケブカワツカガニ				1	+		
104					スベスベオウギガニ				1	0.01		
105					ヒメツバカガニ				23	0.36	15	0.31
106				イソガニ	ヒライツガニ				1	0.01		
107	昆虫	ハエ		ガガンボ	ガガンボ科幼虫		2	+				
108				ユスリカ	ユスリカ科幼虫		43	0.03				
109	棘皮動物	ナマコ	樹子	スケロクテイル	イソコ属				1	0.02		
110	原索動物	尾索	腸性	ジデム	ネエキボヤ				-	0.02		
111				アスキシア	ナツメボヤ				1	0.06	3	0.05
112			壁性	スチエラ	フタスチエラ						1	0.02
113	脊椎動物	硬骨魚	スズキ	イソギンボ	イソギンボ				1	0.04		
出現種類数							30		77		75	
合計							3,371	31.97	2,166	50.92	1,383	35.18

注) 個体数の「-」は計数不能を，湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

大阪沖処分場；C-2

秋季調査（平成20年11月10日）- 1

単位：個体数；個体/0.25m²、湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		C-2					
						層	項目	上層		中層		下層	
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱			-	0.19	-	1.01		
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	14.63	-	0.28		
3	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサザキガヤ	ウミサザキガヤ科			-	+	-	+		
4		花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目	2	0.02	6	0.06	2	0.05		
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	13	0.04	21	0.05				
6	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	63	0.17	4	0.02	2	0.01		
7		有針	針紐虫	アンフィボネール	マダラヒモムシ					1	0.02		
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.	1	0.01	4	0.05	4	0.10		
9					マダラウロコムシ			3	0.06	25	0.32		
10					ミロクウロコムシ			14	0.69	2	0.08		
11				サシバゴカイ	アケノサシバ			1	+	1	+		
12					サミドリサシバ	5	0.03	13	0.17	5	0.04		
13					Eulalia sp.			1	+				
14					マダラサシバ			1	0.01	1	0.02		
15				オビヒメゴカイ	Ophiodromus sp.			51	0.22	89	0.47		
16				シリ	Trypanosyllis sp.	1	+						
17					シロマダラシリ	24	0.05	5	0.04				
18					Typosyllis sp.	7	0.02	11	0.05	2	+		
19					Autolytus sp.			2	0.01				
20				ゴカイ	ツルビサゴカイ			39	0.39	8	0.06		
21					イソツルビサゴカイ			1	+	12	0.05		
22					クマドリゴカイ	112	0.93	34	0.47	19	0.61		
23					アサナガゴカイ	1	0.01	1	0.01				
24					ヒメゴカイ			45	0.19	3	0.01		
25					マサゴゴカイ			7	0.03				
26				イソメ	Eunice sp.					10	0.26		
27			定在	スピオ	Polydora sp.			386	1.09	67	0.17		
28				ミズヒキゴカイ	Dodecaceria sp.			16	0.01	7	+		
29					チクサミズヒキ			3	0.01	1	+		
30					ミズヒキゴカイ			65	0.76	39	1.72		
31				オフェリアゴカイ	カスリアフェリア			4	0.01	2	+		
32				フサゴカイ	Thelepus sp.			124	6.44	104	7.44		
33					Nicolea sp.					5	0.73		
34				ケヤリ	Sabella sp.			5	0.08				
35					Branchiomma sp.					4	0.11		
36				カンザシゴカイ	エビカンザシゴカイ			1,036	14.90	204	6.20		
37					イハカンザシゴカイ			1	0.01	9	0.33		
38	触手動物	筍虫	筍虫	ホキムシ	Phoronis sp.			1	+				
39		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			-	0.02				
40				ヒラコケムシ	チゴケムシ			-	0.06				
41					ウスコケムシ科			-	+				
42				コブコケムシ	コブコケムシ科			-	0.71	-	0.02		
43		腕足	頂殻	盤殻	Discinisca sp.					1	0.02		
44	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ウスヒザラガイ	ウスヒザラガイ					1	0.01		
45				ヒゲヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ			1	0.01	1	0.07		
46				ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属			4	0.08				
47		腹足	カサガイ	ヨメガサガイ	ヨメガサ	2	1.84						
48			盤足	タマキビ	ゴビトウラウスガイ	212	0.19						
49				リソツボ	タマツボ	1	+	1	+	2	+		
50				カリハガサ	シマメノウツガイ					1	0.33		
51			新腹足	アツキガイ	カゴメガイ			1	0.32				
52					レイシガイ	6	0.12	11	1.28	4	4.27		
53					イボニシ	4	19.28						
54				フトコロガイ	ムギガイ			15	1.27	82	2.85		
55			翼舌	ミツクチキリ	ミツクチキリ科			3	0.04	9	0.11		
56			異旋	トウカクガイ	イトマキクチキリモドキ属			2	+				
57					イトカケギリ属					3	0.02		
58					ヨコシジギリ			1	+				
59					クサスウチキ					1	0.01		
60			頭鰓	ブドウガイ	ブドウガイ	1	+	5	0.05	4	0.03		
61			裸鰓	-	裸鰓目			1	0.01	2	0.03		
62			収柄眼	イソアワモチ	イソアワモチ			2	2.17				
63			基眼	カラムツガイ	カラムツガイ	30	1.19						

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場；D-2

春季調査（平成20年5月19日）－1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

単位: 個体数; 個体/0.25m², 湿重量; g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点						
						項目	上層		中層		下層	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウシバ	ウシバ科					-	+	
2		花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目	4	0.03	39	0.52			
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			11	0.31	8	0.04	
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	7	0.06	2	0.01	1	0.01	
5		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ			3	0.02	48	0.18	
6				テトラステマ	メノコヒモムシ			5	0.06	1	+	
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.			2	0.03			
8					マダラウロコムシ			69	0.21			
9					ミロクウロコムシ	1	0.01	1	0.09			
10				サシバゴカイ	アケハサシバ					1	+	
11					サミドリサシバ			1	+			
12				オビヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.			12	0.04	1	+	
13				シリス	シロマダラシリス	42	0.66					
14					<i>Typosyllis</i> sp.			59	0.47	15	0.07	
15					<i>Autolytus</i> sp.			5	0.09			
16				ゴカイ	イソツルヒゲゴカイ			2	0.02	3	0.05	
17					クマドリゴカイ	31	1.65	6	0.93			
18					アシナガゴカイ			1	0.01			
19					ヒメゴカイ			20	0.14			
20					マサゴカイ	17	1.28	68	1.93	1	+	
21				チロリ	<i>Glycera</i> sp.			13	0.05	9	0.03	
22				イソメ	<i>Eunice</i> sp.			4	0.26			
23				セウロイソメ	<i>Arabella</i> sp.	2	0.13	1	0.12			
24			定在	スピオ	<i>Polydora</i> sp.			89	0.23	25	0.07	
25				ミスヒキゴカイ	<i>Dodecaceria</i> sp.			2	+	4	+	
26					チグサミズヒキ			2	0.02			
27					ミスヒキゴカイ			73	2.66	5	0.18	
28				タマシキゴカイ	<i>Abarenicola</i> sp.			2	0.05			
29				フサゴカイ	<i>Thelepus</i> sp.			1	0.09			
30					<i>Nicolea</i> sp.			2	0.04			
31					<i>Lanice</i> sp.			2	0.15			
32				カンザシゴカイ	エリカサネカンザシゴカイ			4	0.05			
33	触手動物	筈虫	筈虫	ホウキムシ	<i>Phoronis</i> sp.			12	0.03			
34		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			-	0.04			
35				ヒラコケムシ	ヒラコケムシ科			-	0.01	-	4.88	
36				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科					-	0.77	
37				コブコケムシ	コブコケムシ科			-	0.02	-	0.61	
38	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	クハダヒザラガイ	クハダヒザラガイ属	3	0.09					
39		腹足	カサガイ	エキナサガイ	コモレヒコガモガイ	1	0.02					
40			古腹足	ニシキウスガイ	コシダカガナガラ			2	12.26			
41			盤足	リツツボ	タマツボ			1	+	4	+	
42				カリハカサガイ	シマメノウツネガイ			4	0.72	1	+	
43			翼舌	イトカケガイ	イトカケガイ科	1	0.01	2	0.02	1	0.01	
44			新腹足	アッキガイ	カゴメガイ					4	0.41	
45					レイシガイ			1	0.05			
46					イボニシ			1	0.96			
47				フトコロガイ	ムギガイ			20	0.89	36	1.81	
48					ノミナモドキ					6	0.01	
49			異旋	クルマガイ	クリイロクルマガイ			1	0.01	5	0.08	
50				トウガタガイ	ヨロイチキレ属					1	+	
51					イトカケチキレ属					1	+	
52					クサズリクチキレ					1	+	
53			頭楯	ブドウガイ	ブドウガイ			3	0.11	1	0.03	

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-2

春季調査（平成20年5月19日）-2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		D-2							
						項目	上層		中層		下層				
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量			
54	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	ムササギガイ	29,185	3,102.73	10,501	384.03	12	0.27				
55					ヒバリガイ			2	0.21						
56					タマガイ			58	2.05	5	0.19				
57					ホトギスカイ	105	1.42	24	0.23	1	0.01				
58			ミノガイ	ミノガイ	ユキミノ属		1	0.01	3	0.02					
59					ナミマガシワ	ナミマガシワ		2	0.79						
60			カキ	イカホガキ	マガキ	4	0.07								
61					マルスタレガイ	キザルガイ	キザル属				1	14.00			
62			マルスタレガイ		チリハギガイ	コハクツ属				1	+				
63					イワホリガイ	ウスカサオウガイ		11	0.10	196	10.11	9	0.37		
64					マルスタレガイ	アサリ			23	0.16	4	0.05			
65					オキナマツカゼ					1	0.02				
66			節足動物	顎脚	オノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			770	20.26	101	1.67		
67							無柄	アジツボ	サンカクツツボ			159	213.91	23	13.96
68							タナイス	タナイス	ゼウクリ属	2	+	617	0.73	68	0.05
69							クマ	クマ	クマ			2	+		
70					等脚	コツメムシ	シリケンウミセミ	1	0.01						
71							ツノオウミセミ			1	0.04	2	0.09		
72					端脚		タテソコエ	タテソコエ属			1	+			
73							メタソコエ	メソコエ属			5	0.02			
74							エンマソコエ	トゲホソコエ属					2	+	
75							モクスヨコエ	モクスヨコエ属	608	1.35					
76							ヒゲナガヨコエ	ヒゲナガヨコエ属	43	0.15	54	0.34	11	0.11	
77							カマキリヨコエ	カマキリヨコエ属	1	+	20	0.02	2	+	
78							ドロクダムシ	アリゲルロクダムシ			129	0.20	43	0.06	
79							ワレカラ	トンガリドロクダムシ					2	+	
80	トゲワレカラ								4	0.02	10	0.01			
81	オサワレカラ										5	0.01			
82	クビナガワレカラ								9	0.01	6	0.02			
83	マルエラワレカラ						マルエラワレカラ	24	0.04	414	0.52	179	0.26		
84					ロウソクエ	ハヤシロウソクエ			6	0.02	12	0.03			
85	十脚				ホンヤドカリ	ヤマトホンヤドカリ				7	0.48				
86					ホンヤドカリ	ホンヤドカリ属			1	+	15	0.05			
87					クモガニ	イッカククモガニ			3	0.35	2	0.09			
88					ガザミ	フナハベニツガガニ					1	0.03			
89					オウギガニ	スベスベオウギガニ			5	0.68					
90					-		ヒメグサガニ			27	0.31	40	0.42		
91							短尾下目幼生					2	+		
92			昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	6	0.02							
93	キヒトデ	キヒトデ			キヒトデ			4	0.18	19	1.68				
94	棘皮動物	ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ					3	18.87					
95			原索動物	尾索	壁性	ステイラ	フタスジボヤ		2	1.60					
96	-	-	-	-	卵塊	-	+	-	0.15	-	0.59				
出現種類数						22		71		60					
合計						30,099	3,109.83	13,588	660.67	775	62.65				

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-2

秋季調査（平成20年11月16日）- 1

単位：個体数：個体/0.25㎡、湿重量：g/0.25㎡

No	門	綱	目	科	種名	調査地点					
						D-2					
						上層		中層		下層	
					項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱	-	-	-	0.04	-	-
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサザガキヤ	ウミサザガキヤ科	-	-	-	-	-	+
3		花虫	イソギンチャク	-	イソギンチャク目	3	0.01	589	12.04	61	0.24
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	-	-	19	0.65	4	0.02
5	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	24	0.09	-	-	4	0.02
6		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモシ	-	-	1	+	-	-
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ	-	-	15	0.27	8	0.16
8					ミロクウコムシ	-	-	3	0.11	2	0.01
9					サシハゴカイ	1	+	-	-	-	-
10					サシハゴカイ	-	-	3	0.03	-	-
11					オビメゴカイ	-	-	200	0.87	71	0.25
12					シリス	-	-	2	0.01	8	0.04
13					ムラサキシマシリス	-	-	8	0.02	2	0.01
14					シロマダラシリス	2	0.01	-	-	-	-
15					Typosyllis sp.	1	+	11	0.04	3	0.01
16					Autolytus sp.	-	-	14	0.14	3	0.02
17					ゴカイ	-	-	1	0.01	-	-
18					ツルビケゴカイ	-	-	6	0.05	-	-
19					イソツルビケゴカイ	-	-	7	0.21	-	-
20					クマドリゴカイ	42	0.33	-	-	-	-
21					アシナゴカイ	3	0.01	6	0.10	-	-
22					ヒメゴカイ	-	-	37	0.22	1	0.01
23					マサゴカイ	2	0.01	3	0.01	2	0.01
24					イソメ	-	-	3	0.04	3	0.03
25					セウロイソメ	-	-	-	-	1	0.03
26					定在	-	-	272	0.48	592	0.72
27					ミズヒキゴカイ	-	-	73	0.69	20	0.41
28					フサゴカイ	-	-	5	0.29	-	-
29					Lanice sp.	-	-	1	0.07	-	-
30					ケヤリ	-	-	251	5.86	10	0.11
31					カンザシゴカイ	-	-	339	5.92	3	0.02
32	触手動物	筈虫	筈虫	納キムシ	Hydroides sp.	1	+	8	0.07	1	+
33		苔虫	群口	ヒラコケムシ	Phoronis sp.	-	-	6	0.01	1	+
34					トゲイタコケムシ	-	-	-	-	-	0.05
35					イタコケムシ	-	-	-	-	-	+
36					アミコケムシ	-	-	-	0.08	-	0.02
37		腕足	頂殻	盤殻	Discinisca sp.	-	-	-	-	-	0.08
38	軟体動物	腹足	盤足	タマキビ	ゴビトウラウスガイ	13	+	-	-	1	+
39					タマキビ	3	+	-	-	-	-
40					リツツボ	-	-	-	-	18	0.03
41					カリハガサ	-	-	2	0.02	14	10.02
42					アツキガイ	-	-	1	0.10	7	0.41
43					レイシガイ	-	-	23	8.00	6	7.96
44					イボニシ	10	0.15	-	-	-	-
45					フトコロガイ	-	-	353	13.89	220	2.16
46					ムギガイ	-	-	2	+	5	0.01
47					クリイロワメグサ	-	-	1	+	6	0.13
48					トウガタガイ	-	-	-	-	1	+
49					イトカギリ属	-	-	1	+	2	+
50					アトウガイ	-	-	3	0.02	4	0.04
51					ドーリス	-	-	-	-	1	0.03
52					-	-	-	1	0.01	5	0.02
53					基眼	-	-	-	-	-	-
54					カラマツガイ	-	-	14	4.12	-	-
55					フネガイ	-	-	-	-	2	0.02
56					イガイ	-	-	5	0.36	1	0.01
57					ムラサキイガイ	-	-	9	1.06	25	0.38
58					ミドリイガイ	1	+	1	0.68	3	0.06
59					ヒナリガイ	-	-	-	-	15	0.32
60					タマシガイ	-	-	-	-	3	0.06
61					ホトキスガイ	-	-	1	0.11	-	-
62					ナミマガシ	-	-	-	-	1	24.93
63					イワボガキ	-	-	-	-	1	0.02
64					マルスタレガイ	-	-	-	-	-	-
					イワボガイ	-	-	-	-	-	-
					ウスハラシオツガイ	1	+	349	45.12	373	7.88
					マダコ科	-	-	1	0.08	-	-

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-2

秋季調査（平成20年11月16日）-2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

					調査地点		D-2					
No.	門	綱	目	科	層		上層		中層		下層	
					種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
65	節足動物	顎脚	軟甲	無柄	アシ'ツボ'	サンカアジ'ツボ'			60	83.24	2	0.39
66				タナイス	タナイス	ゼ'ウツリ属	1	+	1	+	42	0.01
67				等脚	コツ'ムシ	シラタンウミセミ	19	0.04				
68						ツノオウミセミ			32	0.47	29	0.25
69				端脚	タテソコエ'	タテソコエ'属			225	0.08	2	+
70					メダ'ヨコエ'	イソヨコエ'属			200	0.53	2	+
71					モクス'ヨコエ'	モクス'ヨコエ'属	89	0.08				
72					ヒケ'ナガ'ヨコエ'	ヒケ'ナガ'ヨコエ'属	76	0.23				
73					ド'ロクダ'ムシ	ホソヨコエ'			349	0.40	142	0.10
74						ド'ロクダ'ムシ属			24	0.04	74	0.02
75					十脚	テッポ'ウエビ'	テッポ'ウエビ'属			1	0.03	
76				ロウソクエビ'		ハヤシロウソクエビ'			1	0.06	3	0.02
77				カニダ'マシ		コブ'カニダ'マシ			1	+		
78						ストウチ'ネジ'レカニダ'マシ					1	0.01
79				ケモガ'ニ		イッカクケモガ'ニ			8	0.97	5	0.05
80						ヨツハギガ'ニ			14	2.79		
81				イチョウガ'ニ		コイチョウガ'ニ			2	0.20		
82				ガ'サ'ミ		フタハへ'ニツカガ'ニ					2	0.03
83						クワ'カアツツ'ガ'ニ			1	0.03		
84						スベ'スベ'オウギ'ガ'ニ			2	0.43		
85						ヒメクワ'カガ'ニ			12	0.23	12	0.05
86						ヒライソガ'ニ	2	0.01				
87				昆虫	ハエ	ユスリカ科	ユスリカ科幼虫	50	0.10			
88	棘皮動物	クモヒト'	閉蛇尾	クモヒト'	クモヒト'	クサイロクヒ'クモヒト'			1	0.02	3	0.01
89						<i>Ophiactis</i> sp.			2	0.01		
90	原索動物	尾索	腸性	ジ'テ'ムニ	ネンエキボ'ヤ			-	+			
91				キオナ	カタコウレイボ'ヤ			7	0.78			
92				アスキジ'ア	スジ'キレボ'ヤ			1	0.03	1	0.04	
93					ナツメボ'ヤ			1	0.11			
94				壁性	スチエラ	シロボ'ヤ			14	331.03	2	24.45
					出現種類数		22		66		62	
					合計		359	5.19	3,595	519.26	1,836	82.19

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場 ; D-3

春季調査 (平成 20 年 5 月 19 日) - 1

単位: 個体数; 個体/0.25m², 湿重量: g/0.25m²

単位: 個体数; 個体/0.25m², 湿重量: g/0.25m²

No	調査地点					D-3											
						上層		中層		下層							
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量					
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱		-	-	-	4.98							
2	腔腸動物	花虫	イギンチャク	-	イギンチャク目												
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	3	0.02	584	12.64	1	0.01						
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	34	1.59	13	0.37	5	0.07						
5		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモシ	7	0.08										
6					テトラステマ属	4	0.03	4	0.05								
7	星口動物	星虫	星虫	ホシムシ	サハダ' ホシムシ	1	0.06	1	0.06								
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.	2	0.10										
9					マダ' ウロコムシ			5	0.04	34	0.27						
10					ミロクウロコムシ		3	0.04	1	0.16	2	0.27					
11					サシバ' ゴ' カイ	サミド' リサンバ'	1	0.02	11	0.47	2	0.08					
12					オトヒメ' ゴ' カイ	Ophiodromus sp.			21	0.13	23	0.11					
13					シリス	ムサキシマシリス	4	0.08									
14						シロマダ' ラシリス	30	0.70									
15						Typosyllis sp.	4	0.02			1	+					
16						Autolytus sp.			8	0.03	2	0.01					
17						ゴ' カイ	クマト' リ' ゴ' カイ	24	1.84								
18							ヒメ' ゴ' カイ			9	0.09	10	0.06				
19							マサゴ' ゴ' カイ	305	4.58	475	7.29	89	3.36				
20							イソメ	Eunice sp.				8	0.70				
21							セグ' ロイツメ	Arabella sp.	2	0.41							
22						定在	スピ' オ	Polydora sp.	27	0.09	17	0.05	25	0.05			
23							ミズ' ヒキ' ゴ' カイ	Dodecaceria sp.			798	0.77	3	+			
24								チグ' サミズ' ヒキ			3	0.05					
25								ミズ' ヒキ' ゴ' カイ			8	0.44	18	0.55			
26								フサゴ' カイ	Thelepus sp.			1	0.19				
27									Lanice sp.					1	0.05		
28								ウキリ	Sabella sp.			7	0.09	4	0.20		
29								カンザ' シ' ゴ' カイ	エ' カサネカンザ' シ' ゴ' カイ	66	1.05	112	3.41	144	5.24		
30									Hydroides sp.			2	0.02				
31				触手動物	筵虫		筵虫	ホウキムシ	Phoronis sp.			2	0.01	3	+		
32			フサコケムシ			フサコケムシ				-	1.87	-	5.28				
33			モンク' チコケムシ			モンク' チコケムシ科		-	12.64	-	16.22	-	0.56				
34			イタコバ' コケムシ			イタコバ' コケムシ科				-	-	-	0.64				
35			コバ' コケムシ			コバ' コケムシ科				-	4.39	-	1.25				
36			アミコケムシ			アミコケムシ科				-	0.28	-	3.84				
37		腕足	頂殻		盤殻	Discinisca sp.					1	0.02					
38	軟体動物	腹足	盤足		カリバ' ガ' サ' イ	シマメノウツネ' イ					1	0.01					
39																	
40			新腹足		アツキ' ガ' イ	レイシ' ガ' イ	3	0.12	38	6.24	12	1.26					
41						フトコロ' ガ' イ	ムギ' ガ' イ			2	0.17	45	3.04				
42							パニナモト' キ					6	0.01				
43			異旋		クルマ' ガ' イ	クリイロワタ' ルマ						1	0.02				
44						トウガ' タ' ガ' イ	ヨロイタチキレ属					1	+				
45							クサス' リクチキレ					1	+				
46			裸鰓		-	裸鰓目						1	0.05				
47																	
48			一枚貝	イ' ガ' イ	イ' ガ' イ	ムササギ' ガ' イ	46,336	5,611.52	1,640	107.32	33	1.18					
49						ヒバ' リ' ガ' イ	2	0.14	3	0.24							
50						タマ' ガ' イ	6	0.04			1	0.01					
51						ホトギ' ス' ガ' イ	1	+									
52																	
			マルスタ' レ' ガ' イ	キクザ' ル	キクザ' ル属						1	0.26					
				イワホリ' ガ' イ	ウスカサシオ' ガ' イ				14	0.98							
			キヌマト' イ' ガ' イ	キヌマト' イ' ガ' イ	20	0.27	67	1.75	172	3.06							

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-3

春季調査（平成20年5月19日）-2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点	D-3						
						項目	上層		中層		下層		
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
53	節足動物	顎脚	無柄	フジツボ	サンカフジツボ			3	0.27				
54				タナシ	タナシ	ゼウツボ属		8	0.01	6	0.01		
55				等脚	コツブムシ	シリケンミセミ		1	0.03	3	0.08		
56						ツノオウミセミ				2	0.09		
57				端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属		43	0.02				
58					メリタヨコエビ	イソヨコエビ属		36	0.18	6	0.04		
59					モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	41	0.10					
60					コンボソコエビ	コンボソコエビ属		5	+	14	0.03		
61					ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属	7	0.02	21	0.10	1	0.01	
62					カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	1	+	10	0.01	26	0.04	
63					ドクダムシ	ホソヨコエビ					24	0.10	
64						アリアタドクダムシ		197	0.10	465	0.43		
65					ワレカラ		トダワレカラ		1	+	14	0.04	
66							オサデワレカラ				4	0.01	
67							ヒゲナガワレカラ	1	+	50	0.09	199	0.39
68							マルエワワレカラ	38	0.08	12	0.04	18	0.04
69						1脚	ホソヤドカリ	ヤマトホソヤドカリ				1	0.05
70								ホソヤドカリ属				4	0.04
71					カニダマシ		コブカニダマシ		1	0.02	4	0.03	
72					カイカムリ		カイカムリ科				1	0.02	
73				クモガニ			イッカククモガニ		5	0.57			
74							ヨツハモガニ				1	+	
75				オウギガニ			スベスベオウギガニ		12	1.16			
76							ヒメツブカガニ		11	0.24	47	1.07	
77				イワガニ	ヒメハシイワガニ	2	0.03						
78				-	-	短尾下口ガニの期幼生				1	+		
79	棘皮動物	クモトデ	閉蛇尾	ヒレクモトデ	クサイロヒレクモトデ				1	+			
80		ヒトデ	ヒトデ	ヒトデ		1	0.12	26	2.73				
81	原索動物	尾索	腸性	ジゲムニ	ネンキボヤ			-	15.99				
82				キオナ	カユレイボヤ		1	0.67					
83			壁性	スチエラ		シロボヤ	1	0.10	1	2.12			
84						フタスジボヤ	3	0.49	4	0.80	2	1.39	
85			-	-	-	-	卵塊	-	0.02	-	0.05	-	6.53
出現種類数						33		54		60			
合計						46,980	5,636.28	4,270	193.40	1,521	44.69		

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-3

秋季調査（平成20年11月16日）-1

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

No.	門	綱	目	科	調査地点					
					種名	項目	D-3			
							上層		中層	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱		-	-	0.85	
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クダ	ウミバ	ウミバ科		-	-	0.24	
3		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク		5	0.13		
4				-	イソギンチャク目		15	0.19	608	47.84
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目		34	0.12	51	0.65
6	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツルクス	ケファロツルクス科		3	0.04		
7			古紐虫	サブラス	サブラス科					
8			異紐虫	リネウス	リネウス科		31	0.15	3	0.03
9		有針	針紐虫	アシフィボールス	マダラヒモシ				3	0.03
10				テトラステマ	モノヒモシ				3	0.02
11	環形動物	ササダホシムシ	ササダホシムシ	ササダホシムシ	ササダホシムシ		1	+		
12		多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.		56	0.44	3	0.03
13					マダラウロコムシ					
14					ミロクウコムシ		1	+	10	0.57
15				サシバゴカイ	アササシバ				1	0.02
16					サシバ		12	0.06	5	0.05
17					Eulalia sp.		1	+		
18				ウミケムシ	ウミケムシ科					
19				オトヒコカイ	Ophiodromus sp.		4	0.02	66	0.34
20				シリス	カキトシリス		2	0.01		
21					ムササキシマシリス				4	+
22					シロマダシリス		1	+		
23					Typosyllis sp.		18	0.05	2	0.01
24					Autolytus sp.		1	+	23	0.08
25				ゴカイ	イソツバキゴカイ		8	0.02		
26					クマドリゴカイ				1	0.09
27					アササシバ					
28					ヒメゴカイ				2	0.01
29					マサゴカイ		2	+	9	0.05
30				イソメ	Eunice sp.				7	0.07
31				セダロイソメ	Arabella sp.		1	0.10		
32				スヒメ	Polydora sp.		6	0.01	28	0.06
33				ミズヒキゴカイ	Dodecacerta sp.				289	0.34
34					ミズヒキゴカイ		1	+	16	0.29
35				アサゴカイ	Thelepus sp.		1	0.01	4	0.17
36					Lanice sp.					
37				ケヤリ	Sabella sp.		9	0.08	28	0.77
38				カンザシゴカイ	エダカンザシゴカイ		5	0.01	1,185	15.77
39					Hydroides sp.				5	0.16
40	触手動物	筈虫	筈虫	ホウキムシ	Phoronis sp.				41	0.10
41		苔虫	唇口	アサコカムシ	アサコカムシ		-	0.06	-	+
42				モンクアサコカムシ	モンクアサコカムシ科		-	0.56	-	0.08
43				イタコアサコカムシ	イタコアサコカムシ科					
44				コブアサコカムシ	コブアサコカムシ科		-	0.01	-	0.09
45				アミコカムシ	アミコカムシ科					
46		腕足	頂殻	盤殻	Discinisca sp.				1	+
47	軟体動物	腹足	盤足	リッパ	タマツバ					
48				カリバガサ	シマノリツバガイ				1	0.29
49			新腹足	アツキガイ	カゴメガイ					
50					レイシガイ		27	2.18	43	8.85
51					イボニシ		10	9.03	2	1.24
52				フトコガイ	ムギガイ				192	15.52
53			異旋	クルマガイ	クリロナワメグルマ					
54				ミツクチキリ	キリキリ					
55					ミツクチキリ科					
56			頭橋	ブドウガイ	ブドウガイ		15	0.17		
57			裸鰓	ドーリス	ドーリス科					
58				-	裸鰓目					
59			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ		1	0.12		
60			一枚貝	アサガイ	アサガイ					
61				イガイ	イガイ		93	2.66	5	12.03
62					ミドリイガイ		25	0.23	19	21.58
63					ヒバリガイ		1	0.03	1	0.52
64					コウロエンカワヒバリガイ		18	0.19		
65					タマエガイ		5	0.04		
66					ホトギスガイ		11	0.13	1	0.03
67			マダラダレガイ	イワリガイ	ウスカサシツガイ		165	5.17	269	27.92
68		頭足	八腕形	マダコ	マダコ科					

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

泉大津沖処分場；D-3

秋季調査（平成20年11月16日）- 2

単位：個体数；個体/0.25m²，湿重量；g/0.25m²

					調査地点		D-3							
					層		上層		中層		下層			
No	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
69	節足動物	ウミダモ	皆脚	カニテウミダモ	カニテウミダモ科						1	+		
70				イソウミダモ	イソウミダモ科	1	+							
71				鰓脚	無柄	フジツボ	サンカクフジツボ				2	0.10		
72						軟甲	等脚	コブアムシ	シリケンウミセミ	1	+			
73					ツノオウミセミ					10	0.19	34	0.58	
74				端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属	3	+	614	0.27				
75					アリタソコエビ	イソソコエビ属	2	+	612	1.08	72	0.08		
76					ヒゲナガソコエビ	ヒゲナガソコエビ属	1	0.01						
77					ドロクダムシ	ホソソコエビ	21	0.01	969	0.54	672	0.32		
78					ワレカラ	マルエラワレカラ	925	0.73						
79				十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属							22	0.76
80					カニダマシ	コブカニダマシ				3	0.07	17	0.29	
81						フトウデネジレカニダマシ				2	0.17	1	0.03	
82					クモガニ	イッカククモガニ				5	0.31	36	2.98	
83						ヨツハモガニ	1	0.15	11	4.91	7	2.23		
84					ガザミ	フタハハニツカガニ						4	0.89	
85					オウギガニ	シロオウギガニ				1	0.01	6	0.32	
86						クワガワツバガニ				1	0.01	2	0.08	
87						スベスベオウギガニ				8	5.86	3	0.18	
88						ヒメクダガニ				27	9.75	70	1.06	
89	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	クサイロヒトデクモヒトデ				3	0.03	8	0.08			
90					Ophiactis sp.				10	0.04	1	0.01		
91				ウニ	サンショウウニ						1	0.13		
92				ナマコ	イシコ鰐						1	0.05		
93				原索動物	尾索	腸性	ジゲムシ	ネンキボヤ			-	1.63	-	0.14
94	キナ	ユレイボヤ								5	2.63			
95		カタコウレイボヤ								18	17.17			
96	アスキジ	スジキレボヤ								8	0.85			
97	壁性	スチエラ	シロボヤ				5	2.16	4	66.67	8	114.87		
98			エボヤ					1	4.47					
出現種類数							46		57		71			
合計							1,549	25.08	5,213	239.43	3,346	212.08		

注) 個体数の「-」は計数不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。